

茨城県教育財団文化財調査報告第365集

日 向 遺 跡

一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道
日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

下 卷

平 成 25 年 3 月

茨城県常陸太田工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第365集

ひ　な　た 日　向　遺　跡

一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道
日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

下　卷

平成25年3月

茨城県常陸太田工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

-下 卷-

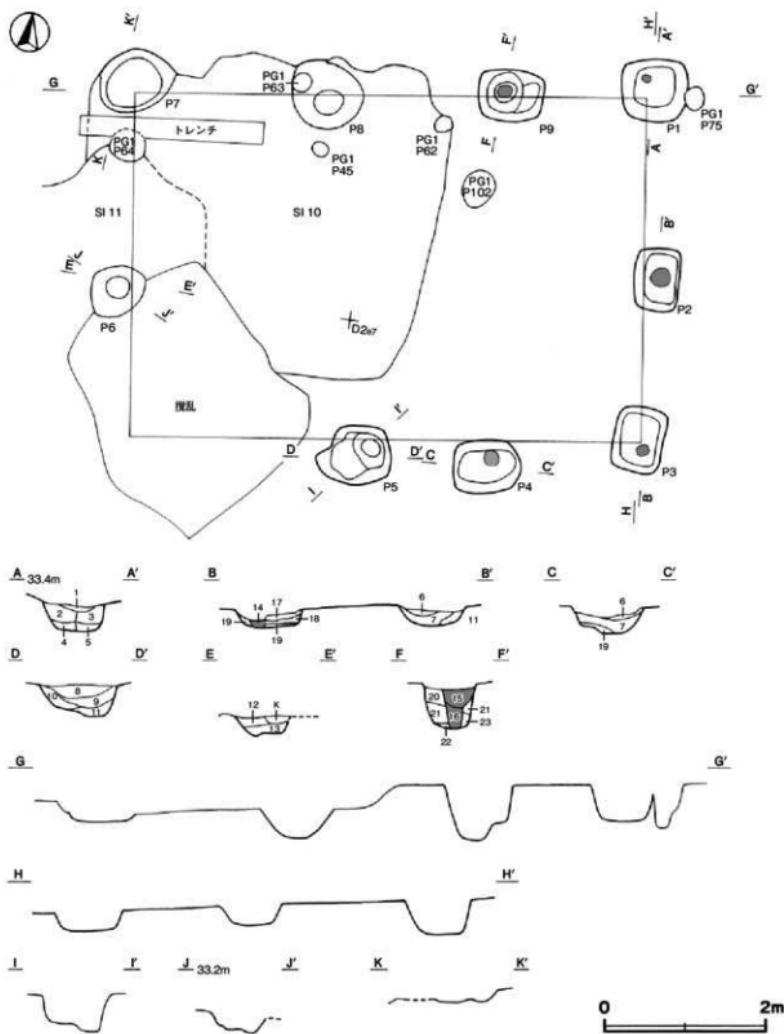
4 奈良・平安時代の遺構と遺物	
(2) 挖立柱建物跡	271
(3) 壺穴遺構	272
(4) 燃土遺構	287
(5) 土坑	289
(6) ピット群	306
5 中世・近世の遺構と遺物	310
(1) 墓坑	310
(2) 溝跡	312
6 その他の遺構と遺物	313
(1) 壺穴住居跡	313
(2) 挖立柱建物跡	315
(3) 道路跡	316
(4) 土坑	317
(5) 溝跡	340
(6) ピット群	342
(7) 遺構外出土遺物	349
第4節 まとめ	353
写真図版	PL 1 ~ PL64
抄録	
付図	

(2) 挖立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第237・238図)

位置 調査区中央部のD 2d6 ~ D 2e7区、標高33mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 西半部が第10・11号住居に、P 1・P 8が第1号ピット群に掘り込まれている。



第237図 第1号掘立柱建物跡実測図

規模と形状 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向N-83°-Eの東西棟である。規模は衍行6.3m、梁行4.2mで、面積26.46m²である。柱間寸法は、北衍行が西妻から2.4m(8尺)・2.1m(7尺)・1.8m(6尺)で、東梁行は2.1mの均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

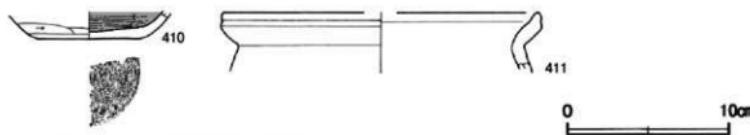
柱穴 9か所。平面形は隅丸(長)方形または梢円形で、長軸・径78~94cm、短軸・径56~81cmである。深さは22~69cmで、掘方の断面形は逆台形である。第1~13層は柱の抜き取り痕、第14~16層は柱痕跡、第17~23層は掘方への埋土である。

柱穴層解説(各柱穴共通)

1	暗	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	13	暗	褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量
2	黒	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	14	黒	褐色	ローム粒子微量
3	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	15	黒	褐色	ロームブロック少量
4	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	16	黒	褐色	ロームブロック微量(第7層より明るい色調)
5	褐	褐色	ローム粒子中量	17	褐	褐色	ロームブロック中量
6	暗	褐色	ロームブロック微量	18	暗	褐色	ローム粒子少量
7	黒	褐色	ロームブロック微量	19	褐	褐色	ロームブロック多量
8	褐	褐色	ロームブロック微量、焼土ブロック微量	20	黒	褐色	ロームブロック中量
9	暗	褐色	ロームブロック中量	21	褐	褐色	ロームブロック少量
10	暗	褐色	ロームブロック微量	22	褐	褐色	ローム粒子中量(第5層より暗い色調)
11	暗	褐色	ロームブロック微量(第6層より明るい色調)	23	黒	褐色	ロームブロック少量(第15層より暗い色調)
12	褐	褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量				

遺物出土状況 土師器片145点(坏22、壺10、甕類113)、須恵器片1点(坏)、剥片1点、粘土塊2点(6.1g)が各柱穴から出土している。また、混入した繩文土器片13点、弥生土器片6点、古墳時代の土師器片7点(坏1、壺1、高坏5)も出土している。410・411はP7の柱の抜き取り痕から出土している。

所見 時期は、9世紀中葉に比定できる第10号住居に掘り込まれており、重複関係や出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第238図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第238図)

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
410	土師器	坏	-	(1.8)	[6.0]	長石・石英	褐	普通	体部下端・底部削輪ヘラ削り 内面ヘラ磨き	P7	20%	
411	土師器	甕	[19.4]	(3.7)	-	長石・石英・ 透母・褐色粒子	褐	普通	口縁部外・内面磨ナフ	P7	5%	

(3) 壓穴遺構

平面形が方形または長方形を呈する竪穴の遺構で、竪穴や柱穴を持たないことから住居跡と区別して竪穴遺構とした。その多くは性格不明である。規模は、小形のもので一辺が2~3mほど、大形なもので一辺が6~9mほどの大・小に大別される。今回の調査で確認した9基について、遺構と遺物の特徴を解説する。

第1号竪穴遺構(第239・240図)

位置 調査区南部のE 2d7区、標高33mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第2号堅穴遺構、第47・74号土坑に掘り込まれている。また、第122号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸 6.18 m、短軸 3.42 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 3° - W である。壁高は 10 ~ 32 cm で、緩やかに立ち上がっている。

床 斜面部の傾斜方向である南部に向かって緩やかに傾斜している。北壁から中央部にかけて踏み固められている。南西コーナー部の壁下には、壁溝が巡っている。

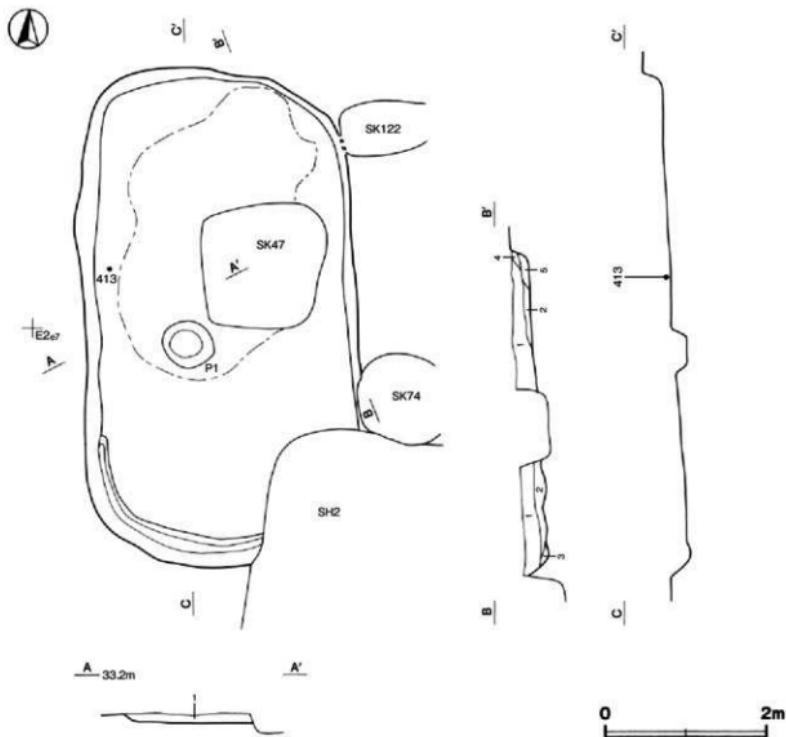
ピット 深さは 21 cm で、中央部に位置している。性格は不明である。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量	3	にふい黄褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	4	灰黄色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 5 塗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量



第239図 第1号堅穴遺構実測図

遺物出土状況 土師器片 116 点（坏 32、高台付椀 6、甕 1、甕類 77）、須恵器片 5 点（坏 2、甕 3）、粘土塊 1 点（10.1 g）が出土している。また、混入した縄文土器片 4 点、弥生土器片 8 点、古墳時代の土師器片 8 点（坏 6、高坏 2）も出土している。413 は西壁際中央部の覆土下層、412 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 10 世紀後葉に比定できる。規模や形状から工房跡の可能性があるが、その痕跡を確認することはできなかった。



第 240 図 第 1 号竪穴遺構出土遺物実測図

第 1 号竪穴遺構出土遺物観察表（第 240 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
412	土師器	坏	[17.0]	(5.2)	—	長石・石英	褐	普通	器面摩滅のため、調整痕不明	覆土中	20%
413	土師器	高台付椀	—	(3.9)	59	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	褐	普通	底部斜軸系切り	下層	10%

第 2 号竪穴遺構（第 241・242 図）

位置 調査区南部の E 2e8 区、標高 33 m の緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1 号竪穴遺構、第 116・124 号土坑を掘り込み、第 6 号竪穴遺構、第 46・74 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東壁が削平されており、長軸は推定 9.40 m、短軸は 3.92 m の隅丸長方形である。長軸方向は N - 78° - W である。壁高は 25 ~ 35 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて中央部が踏み固められている。

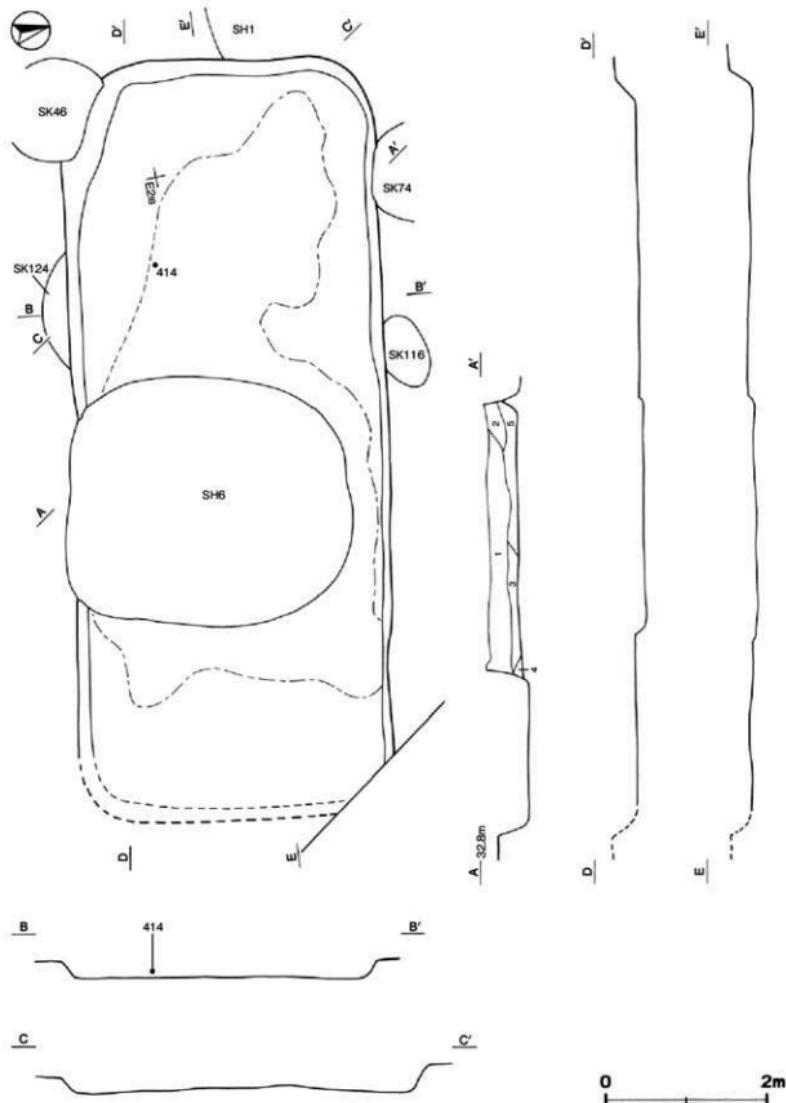
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

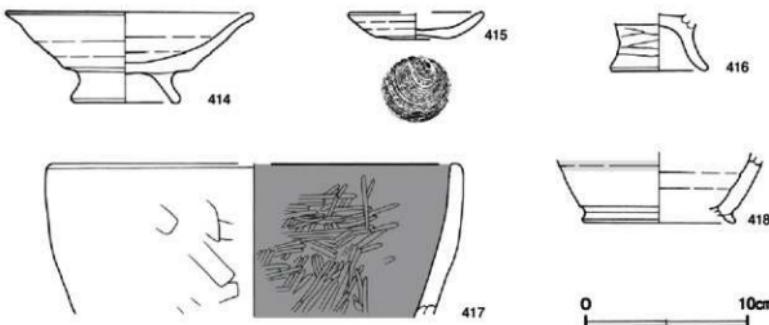
1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量	3	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2	灰黃褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 404 点（坏 121、高台付椀 13、小皿 24、高台付皿ヶ 1、鉢 1、甕 9、甕類 235）、須恵器片 9 点（坏 2、蓋 1、甕 6）、灰釉陶器片 1 点（瓶）、鉄製品 1 点（釘）、粘土塊 4 点（37.5 g）が出土している。また、混入した縄文土器片 9 点、弥生土器片 32 点、古墳時代の土師器片 8 点（坏 3、堵 2、高坏 3）も出土している。土器は細片が多く、覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土しており、出土状況に特異な傾向は認められない。414 は西部の覆土下層から逆位で、415 ~ 418 は東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 11 世紀前葉に比定できる。規模や形状から工房跡の可能性があるが、その痕跡を確認することはできなかった。



第241図 第2号竪穴遺構実測図



第242図 第2号堅穴造構出土遺物実測図

第2号堅穴造構出土遺物観察表（第242図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
414	土器	高台側面	15.0	5.7	6.5	長石・石英 赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロチテ	下層	80% PL53
415	土器	小皿	[8.1]	1.6	4.4	長石・石英 赤母・赤色粒子	にじみ強烈	普通	底部斜板系切り	覆土中	60%
416	土器	高台端	—	(3.4)	(6.0)	長石・石英 赤色粒子	浅黄橙	普通	高台部外面ヘラナダ	覆土中	30%
417	土器	鉢	[24.8]	(9.5)	—	長石・石英 赤色粒子	にじみ強	普通	体部外表面ヘラナダ 内面へり磨き	覆土中	5%
418	灰化陶器	瓶	—	(4.6)	[9.3]	長石	浅黄	良好	ロクロチテ	覆土中	5% PL53 裏面±

第3号堅穴造構（第243～245図）

位置 調査区南部のE-2h8区、標高32mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第57・65・67・73・74・81号住居跡、第9号堅穴造構を掘り込み、第59・62号住居に掘り込まれている。また、床下から本跡より古い第102・130号土坑を確認した。

規模と形状 長軸9.34m、短軸3.60mの隅丸長方形で、長軸方向はN-2°-Eである。壁高は26～42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 斜面部の傾斜方向である南部に向かって緩やかに傾斜している。北東コーナー部から南部にかけて、踏み固められている。また、東壁下に長さ6mほどの範囲で壁溝が存在している。

炉 床面から焼土の範囲2か所が確認されており、赤変硬化していることから炉と判断した。炉1・2ともに、中央部の南寄りに付設された地床炉である。炉1は径16cm、炉2は径38cmの円形であり、ともに炉床は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。併設か否かは不明である。

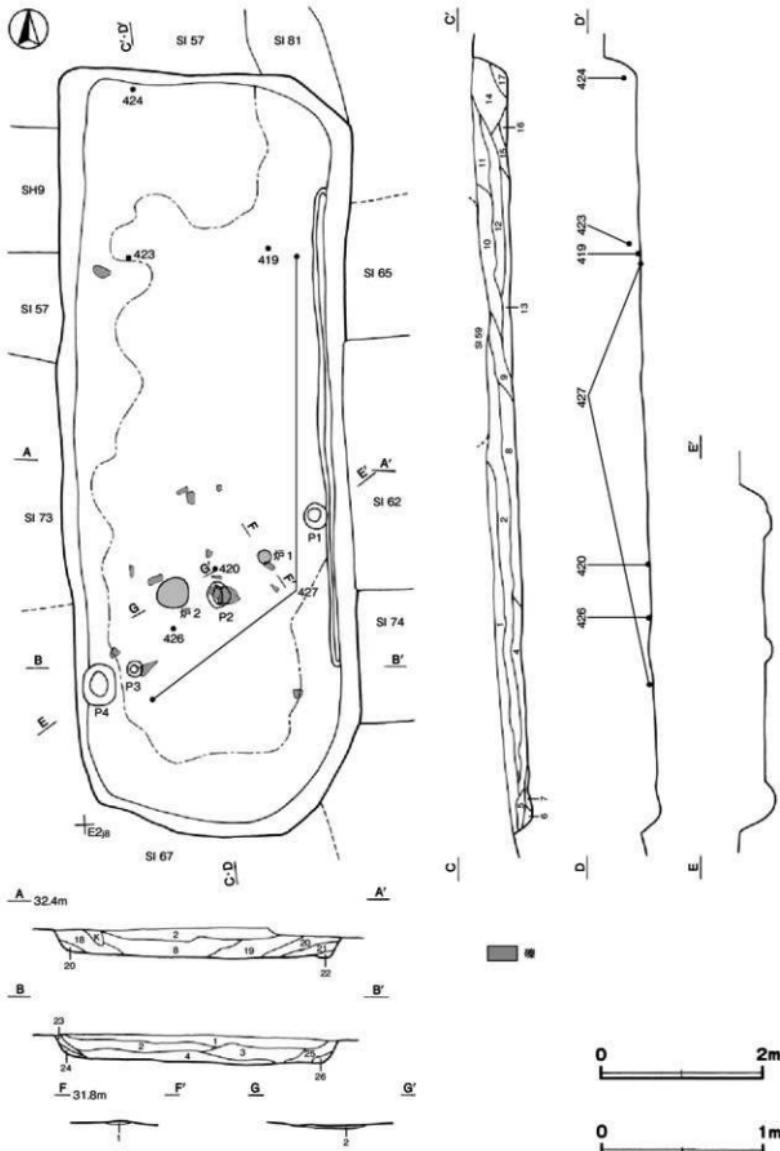
炉1・2土層解説

1 赤褐色 焼土粒子多量

2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量

ピット 4か所で、いずれも南部に位置している。P1～P4は深さ9～16cmで、性格は不明である。

覆土 26層に分層できる。第1・2層は周囲からの土の流入を示す自然堆積で、第3層以下はブロック状の堆積状況から埋め戻されている。北部の覆土は細分して分層することが可能であり、主に北壁側から埋め戻されたと想定できる。



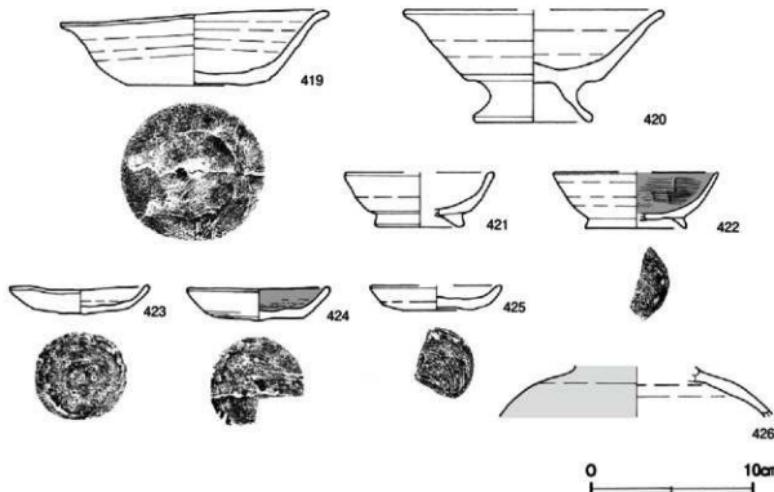
第243図 第3号堅穴遺構実測図

土層解説

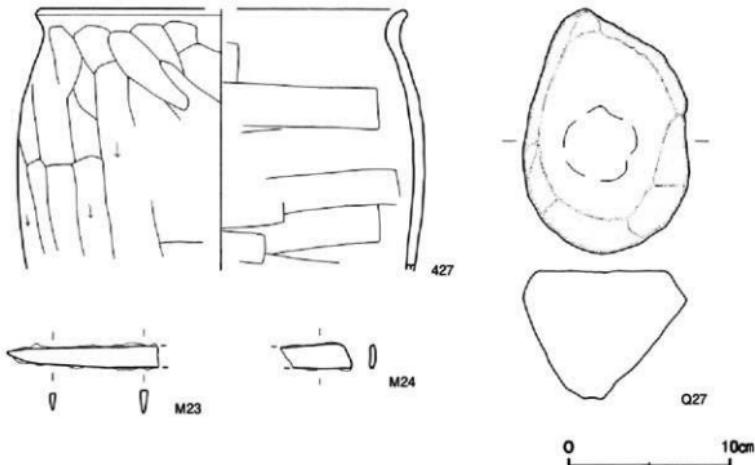
1 黒 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	15 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量（第6層より明るい色調）
2 薄 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	16 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	17 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	18 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	19 黒 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6 薄 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20 黒 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	21 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量（第10層より明るい色調）
8 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	22 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9 灰 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	23 暗 褐 色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
10 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	24 黑 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
11 薄 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	25 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
12 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	26 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		
14 灰 黄 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 1618 点（坏 375、高台付坏 1、高台付碗 65、小皿 15、甕 42、甕類 1118、羽釜 1、手捏土器 1）、須恵器片 49 点（坏 15、蓋 5、瓶 1、甕 28）、灰釉陶器片 3 点（広口瓶カ 1、瓶 2）、鉄製品 2 点（刀子、不明）、土製品 1 点（不明）、石器 1 点（金床石カ）、粘土塊 6 点（272 g）が、主に覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。また、混入による繩文土器片 8 点、弥生土器片 61 点も出土している。419 は北部、420・426 は南部、427 は北部と南部の床面、423 は北部の覆土下層、424 は北壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。また、425・M 23・M 24 は覆土下層、421・422・Q 27 は覆土中からそれぞれ出土している。また、南部の覆土下層から床面にかけて、20cm ほどの甕が 10 点ほど出土している。その多くが被熱のため赤変しているが、性格は不明である。

所見 時期は、出土土器から 11 世紀前葉に比定できる。鍛造洞片や鉄滓等の遺物は確認できなかったが、炉が確認されていることや金床石とみられる石器も出土しており、鍛冶関連の工房跡の可能性がある。



第 244 図 第 3 号堅穴遺構出土遺物実測図 (1)



第245図 第3号堅穴遺構出土遺物実測図(2)

第3号堅穴遺構出土遺物観察表(第244・245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
419	土器器	环	16.3	4.6	8.8	長石・石英、 赤色鉄子	にぶい橙	普通	底部削輪ヘラ切り	床面	95% PL53
420	土器器	高台輪 [15.8]	6.9	7.0	-	長石・石英、 黄母	にぶい橙	普通	ロクロナダ	床面	70% PL53
421	土器器	高台輪 [9.0]	3.4	[5.2]	-	長石・石英、 黄母	にぶい橙	普通	ロクロナダ	覆土中	30%
422	土器器	高台輪 [10.1]	3.5	[6.2]	-	長石・石英、 黄母	にぶい橙	普通	体部内面へラ削き	覆土中	40%
423	土器器	小皿	8.4	1.8	6.0	長石・石英、 赤色鉄子	浅黃橙	普通	底部削輪ヘラ切り	下層	100% PL53
424	土器器	小皿	8.6	2.1	5.7	長石・石英、 黄母、對狀觀物	にぶい橙	普通	体部内面へラ削き 底部削輪ヘラ切り	中層	80% PL53
425	土器器	小皿	[8.0]	1.5	4.5	長石・石英、 赤色鉄子	橙	普通	底部削輪ヘラ切り	下層	50% PL53
426	瓦器陶器	瓦口瓶	-	(3.1)	-	黑色鉄子	灰白	良好	ロクロナダ	床面	5%
427	土器器	盤	[22.5]	(16.1)	-	長石・石英、 赤色鉄子	にぶい橙	普通	体部外側へラ削り 内面ヘラナダ	床面	30% PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 27	乗床石	152	103	7.9	1795	安山岩	被熱のため変形 表面は平滑で、中央部に5cmほどの褐色に 変色した部分があり、わずかに凹む	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 23	刀子	(9.4)	(1.3)	0.5	(12.9)	鉄	刃部断面三角形 基部欠損	下層	PL61
M 24	不明器具	(4.5)	1.5	0.4	(6.7)	鉄	頭部が丸みを帯びる断面形	下層	

第4号堅穴遺構(第246図)

位置 調査区中央部のE 2 b7区、標高33mの台地平坦部に位置している。

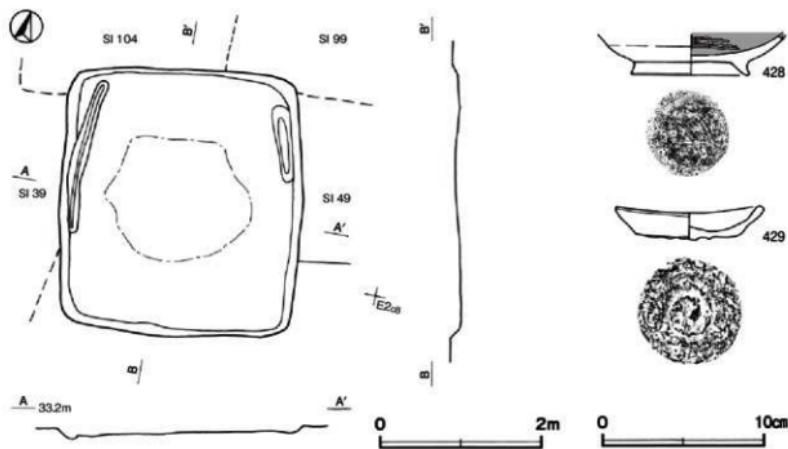
重複関係 第39・49・99・104号住居跡を掘り込んでいる。また、床下から本跡より古い第143号土坑を確認した。

規模と形状 長軸3.31m、短軸3.03mの方形で、長軸方向はN-10°-Wである。壁高は6~11cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。東壁下及び西壁下には、壁溝が存在している。

遺物出土状況 土師器片 78 点（坏 15、高台付椀 12、小皿 3、甕 5、甕類 43）、須恵器片 6 点（坏 2、蓋 1、甕 3）が出土している。また、混入した縄文土器片 2 点、弥生土器片 11 点も出土している。428・429 は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 11 世紀前葉に比定できる。



第246図 第4号竪穴遺構・出土遺物実測図

第4号竪穴遺構出土遺物観察表（第246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
428	土師器	高台付椀	-	(25)	70	長石・石英・斜状鉱物・角閃石	にじみ・渦巻	普通	部体内面へラ磨き 底部回転条切り		覆土中	60%
429	土師器	小皿	88	21	65	長石・石英・透閃石・赤色粒子	にじみ・渦巻	普通	底部回転ヘラ切り		覆土中	95% PL54

第5号竪穴遺構（第247図）

位置 調査区南部の E 217 区、標高 32 m の緩斜面部に位置している。

重複関係 第 67・73 号住居跡を掘り込み、第 80 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.60 m、短軸 2.15 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 1° - W である。壁高は 28 ~ 32 cm で、緩やかに立ち上がっている。

床 中央部が周囲よりやや高く、踏み固められている。

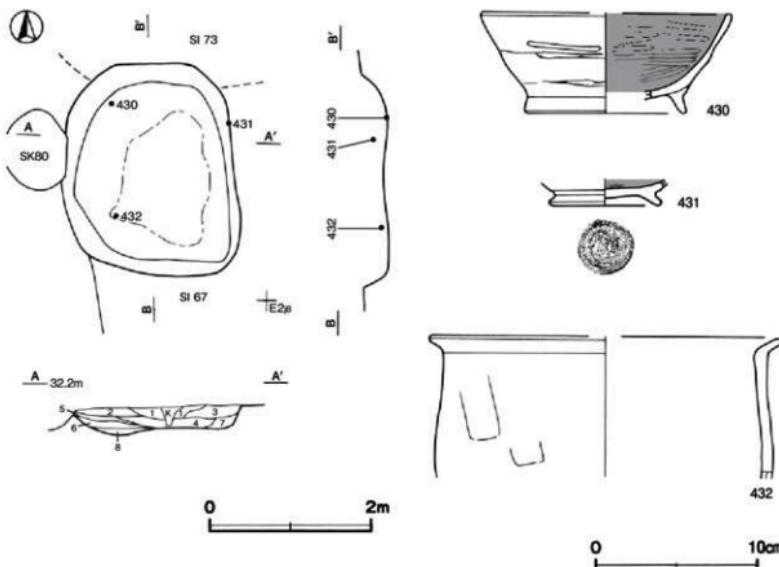
覆土 8 層に分層できる。第 1 ~ 7 層は、周囲からの土の流入を示す自然堆積である。第 8 層はロームプロックが多く含まれていることから、埋め戻されている可能性がある。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	5 灰褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・凝灰岩の小片	7 暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子微量	8 明褐色	ロームブロック中量・焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 232 点（坏 52、高台付椀 9、甕 12、甕類 159）、須恵器片 5 点（坏 2、蓋 2、瓶 1）が出土している。また、流れ込みによる弥生土器片 2 点、古墳時代の土師器片 3 点（坏 2、高坏 1）も出土している。430 は北西部の床面、432 は南部の覆土下層、431 は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。



第 247 図 第 5 号竪穴遺構・出土遺物実測図

第 5 号竪穴遺構出土遺物観察表（第 247 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成形	手法の特徴ほか	出土位置	備考
430	土師器	高台付椀	[15.4]	6.2	[96]	凝灰・石英・赤色	褐	普通	体部内面ヘラ削き	床面	40%
431	土師器	高台付椀	-	[16]	[66]	凝灰・石英・赤色	にじみ・黒	普通	内面ヘラ削き 底部回転ヘラ切り	中層	30%
432	土師器	甕	[218]	[86]	-	凝灰・石英・赤色	褐	普通	外面ヘラナフ 内面ナフ	下層	10%

第 6 号竪穴遺構（第 248・249 図）

位置 調査区南部の E 28 区、標高 33 m の緩斜面部に位置している。

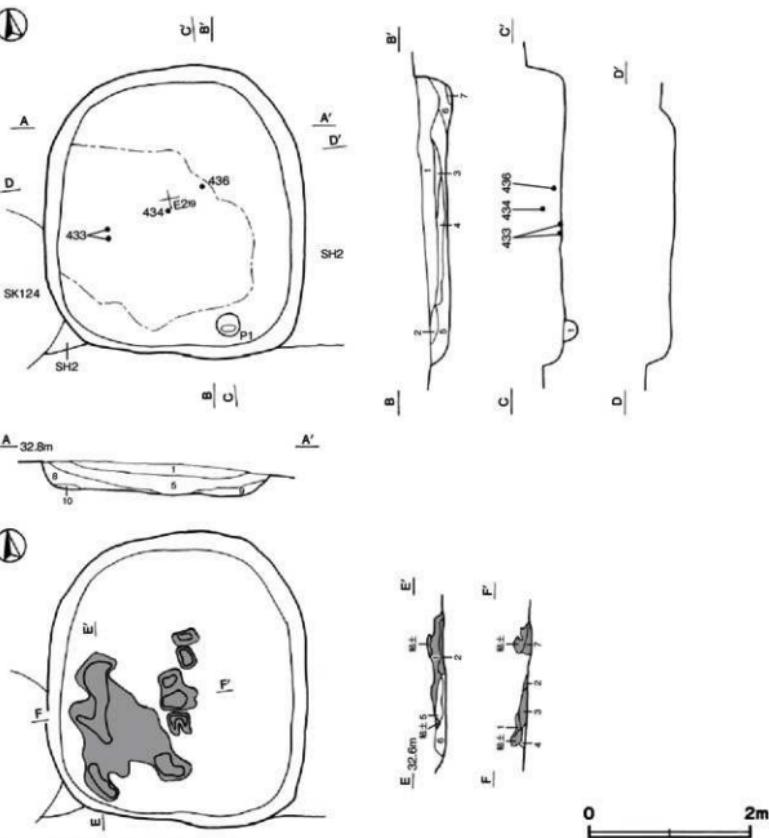
重複関係 第 2 号竪穴遺構、第 124 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.60、短軸 3.20 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 11° - E である。壁高は 16 ~ 45 cm で、外傾して立ち上っている。

床 ほぼ平坦で、中央部から西部にかけて踏み固められている。南西部の覆土中層から床面にかけて、焼土を含む粘土塊を確認した。

粘土焼土層解説

1	暗 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	4	灰 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰 褐 色	粘土粒子中量、焼土粒子微量	5	黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	黄 褐 色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	6	褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量



第 248 図 第 6 号竪穴遺構実測図

ピット 深さ 17cmで、性格不明である。

ピット土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

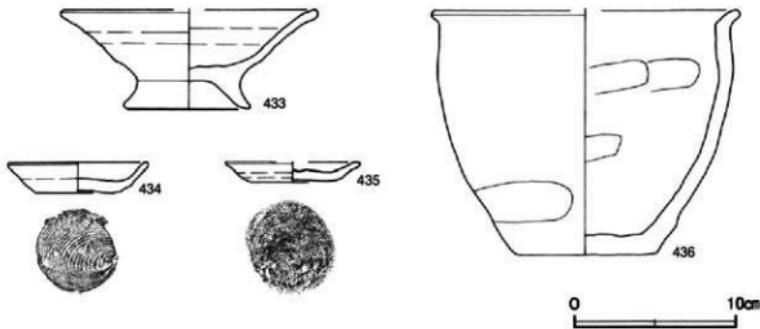
覆土 10 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・鹿沼バミ ス微量	6 黒褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	9 にふ・黄褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子 微量
5 黒褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子 微量	10 にふ・黄褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 201 点(环 97, 梗 1, 高台付梗 15, 小皿 23, 壺 3, 小形壺 1, 壺類 61), 須恵器片 4 点(环 2, 壺 2), 鉄滓 1 点(165 g), 粘土塊 3 点(34.7 g)が出土している。また、混入した弥生土器片 5 点も出土している。433 は西壁寄りの床面、粘土塊の下から出土している。436 は中央部の覆土下層、434 は中央部の覆土中層、435 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から第 2 号竪穴遺構より新しい時期の 11 世紀前葉に比定できる。出土状況や堆積状況から、南西部の覆土下層から床面にかけて確認された粘土塊は、埋め戻しの過程で土器とともに投棄されたものと想定できるが、性格は不明である。



第 249 図 第 6 号竪穴遺構出土遺物実測図

第 6 号竪穴遺構出土遺物観察表 (第 249 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
433	土師器	高台付梗	[156]	61	7.6	長石・石英・褐色 粒子・針状物	浅黃褐	普通	ロクロナダ	床面	60%
434	土師器	小皿	8.4	1.9	5.3	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状 物・角閃石	褐	普通	底部削軸系切り	中層	100% PL54
435	土師器	小皿	[8.2]	1.2	5.0	長石・石英・斜方 石・角閃石・ 褐色粒子・雲母	褐	普通	底部削軸系切り	覆土中	70%
436	土師器	小形壺	[186]	15.1	8.7	長石・石英・ 雲母	にふい褐	普通	体部外側ナダ 内面ヘラナダ	下層	50%

第7号竪穴遺構（第250図）

位置 調査区北部のC 3a5区、標高29mの緩斜面部に位置している。

確認状況 埋没谷の上部に構築されている。

重複関係 第142号住居跡を掘り込み、第200号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸243m、短軸192mの長方形で、長軸方向はN-35°-Wである。壁高は6~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 南部が一段高く、北部に向かって緩やかに傾斜している。硬化した範囲が、北部と南部の一部に確認されているのみで、全体としては締まりは弱い。

覆土 2層に分層できる。堆積状況に乱れもないことから、自然堆積と考えられる。

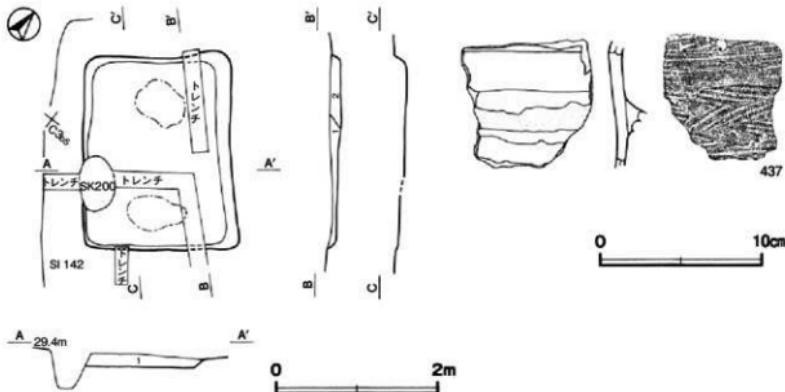
土層解説

1 植暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量

2 植暗褐色 ローム粒子少量、燒土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片97点（坏2、甕9、甕類85、羽釜1）、須恵器片3点（坏）、鐵製品1点（刀子）が出土している。また、混入した繩文土器片5点、弥生土器片51点、古墳時代の土師器片11点（坏6、高坏5）も出土している。437は、確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係により、10世紀後葉から11世紀前葉と考えられる。



第250図 第7号竪穴遺構・出土遺物実測図

第7号竪穴遺構出土遺物観察表（第250図）

番号	種別	器種	口径	深高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
437	土師器	羽釜	-	78	-	長石・石英・ 珪母	にじ 褐色	普通	内面ハラナデ	確認面	5%

第8号竪穴遺構（第251・252図）

位置 調査区中央部のD 2g9区、標高33mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号墳、第5・89号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.58 m、短軸 2.60 m の長方形である。主軸方向は N - 5° - W である。壁高は 104 ~ 112 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、顯著な硬化範囲は確認できなかった。

ピット 深さ 90 cm で、性格不明である。

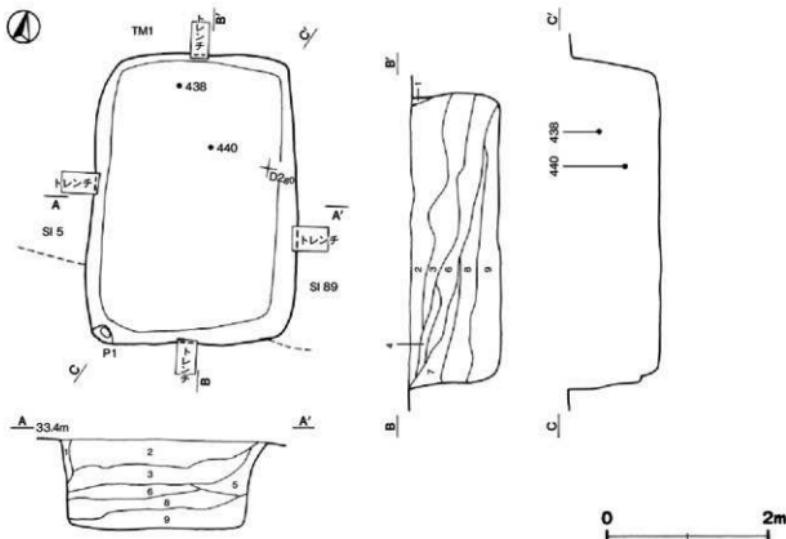
覆土 9 層に分層できる。全体的にロームブロックが多く含まれており、堆積状況から南側から埋め戻されている。

土層解説

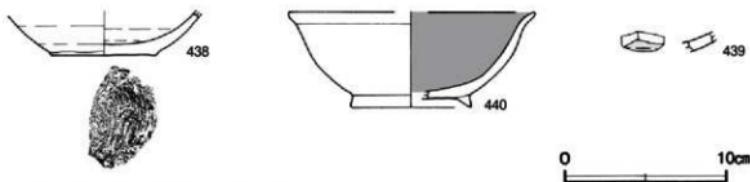
1	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	
2	黒	褐	色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物粒子微量	7	暗	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少鼠、炭化粒子微量	8	褐	色	ロームブロック多量、鹿沼バニス少量、炭化物、焼土粒子微量	
4	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少鼠	9	褐	色	ロームブロック微量、鹿沼バニス微量	
5	暗	褐	色	ロームブロック中量					

遺物出土状況 土師器片 628 点（坏 96、高台付椀 9、甕 18、甕類 504、手捏土器 1）、須恵器片 7 点（坏 5、高台付坏 2）、綠釉陶器片 1 点（椀）、粘土塊 2 点 (15.3 g)、洞片 2 点が出土している。また、混入した繩文土器片 21 点、弥生土器片 79 点、古墳時代の土師器片 27 点（壙 1、高坏 26）も出土している。土器は細片が多く、主として覆土上層から中層にかけて散在した状態で出土している。440 は北部の覆土中層、438 は北部の覆土上層、439 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、10 世紀後葉に比定される第 5 号住居跡を掘り込んでおり、重複関係や出土土器から 10 世紀後葉以降で 11 世紀前半が下限と考えられる。



第 251 図 第 8 号竪穴遺構実測図



第252図 第8号堅穴遺構出土遺物実測図

第8号堅穴遺構出土遺物観察表（第252図）

番号	種別	断面	口径	壁高	底深	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
438	土陶器	环	-	(25)	[6.4]	貝石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	底部削輪系切り	上層	40%
439	縦格内蓋	輪	-	(12)	-	緻密	にぶい黄	良好	ロクロナデ	覆土中	5% PL64 植投
440	土陶器	高台形	[15.2]	59	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	器面摩滅のため、調整不明	中層	40%

第9号堅穴遺構（第253図）

位置 調査区南部のE 2h7区、標高32mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第57号住居跡を掘り込み、第3号堅穴遺構に掘り込まれている。また、床下から本跡より古い第130号土坑を確認した。

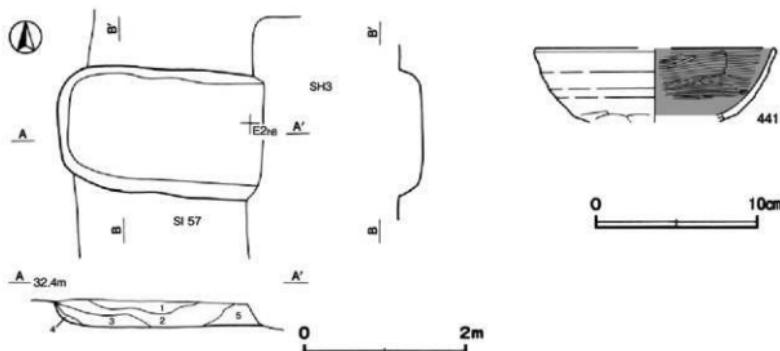
規模と形状 東部を第3号堅穴遺構に掘り込まれているため、長軸は2.54mしか確認できず、短軸は1.54mである。平面形は隅丸長方形と推定でき、長軸方向はN - 88° - Wである。壁高は28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

覆土 5層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 | 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | | |



第253図 第9号堅穴遺構・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 126 点（坏 24, 高台付椀 3, 鉢 1, 壺類 97, 羽釜カ 1), 須恵器片 8 点（蓋 2, 壺 5, 瓶 1) が出土している。また、混入した弥生土器片 11 点、古墳時代の土師器片 7 点（坏 2, 高坏 5) も出土している。441 は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 10 世紀前葉に比定できる。

第9号竪穴遺構出土遺物観察表（第253図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
441	土師器	环	[147]	(4.5)	-	粘土・石英・ 赤母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへく削り 内面へラ書き	下層	20%

表8 平安時代竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規格 長幅×短幅(m)	標高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								横穴	斜窓 口	ビット 切	窓穴			
1	E 2d7	N - 3° - W	椭丸 長方形	6.18×3.42	10 - 32	傾斜	一部	-	-	1	-	人為	土師器片、須恵器片	10世紀後期 本跡→SH 2・SK47・74 →新・SI 10・SI 11
2	E 2e8	N - 78° - W	椭丸 長方形	[9.40]×3.92	25 - 35	平坦	-	-	-	-	-	人為	土師器片、須恵器片、 灰陶陶片	SH 1・SK116・124 → 本跡→SH 6・SK46・74
3	E 2b8	N - 2° - E	椭丸 長方形	9.34×3.60	26 - 42	傾斜	一部	-	-	4	2	自然	土師器片、灰陶陶片、 灰灰石、刀子	10世紀前半 SI 7・65・67・23・71・81 SI 9・SK102・130 →本跡
4	E 2b7	N - 10° - W	方形	3.31×3.03	6 - 11	平坦	一部	-	-	-	-	人為	土師器片、須恵器片	SI 39・49・99 - 104. SI 43 →本跡
5	E 2i7	N - 1° - W	椭丸 長方形	2.60×2.15	28 - 32	高まり	-	-	-	-	-	自然	土師器片、須恵器片	10世紀後期 SI 67・73 →本跡 →SK80
6	E 2f8	N - 11° - E	椭丸 長方形	3.60×3.20	16 - 45	平坦	-	-	-	1	-	人為	土師器片、須恵器片	10世紀前半 SH 2・SK124 →本跡
7	C 3a5	N - 35° - W	長方形	2.43×1.92	6 - 16	傾斜	-	-	-	-	-	自然	土師器片、須恵器片	10世紀後期 SI 142 →本跡→SK206
8	D 2g9	N - 5° - W	長方形	3.58×2.60	104 - 112	平坦	-	-	-	1	-	人為	土師器片、灰陶陶片	10世紀後期 SI 1 - SI 5 - 89 → 本跡
9	E 2b7	N - 88° - W	(椭丸 長方形)	[2.54]×1.54	28	平坦	-	-	-	-	-	自然	土師器片、須恵器片	10世紀前半 SI 52・SK130 →本跡→ SH 3

(5) 焼土遺構

火が用いられた可能性がある土坑状の掘り込みを焼土遺構とした。以下、今回の調査で確認した2基について、遺構と遺物の特徴を解説する。

第1号焼土遺構（第254図）

位置 調査区北部のC 3 d5 区、標高 30 m の緩斜面部に位置している。

重複関係 第151号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、南北軸 0.92 m、東西軸 0.50 m しか確認できなかった。平面形は不明である。深さは 28cm で、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。壁面や底面の一部が、被熱によって若干赤変しているが、明確ではない。

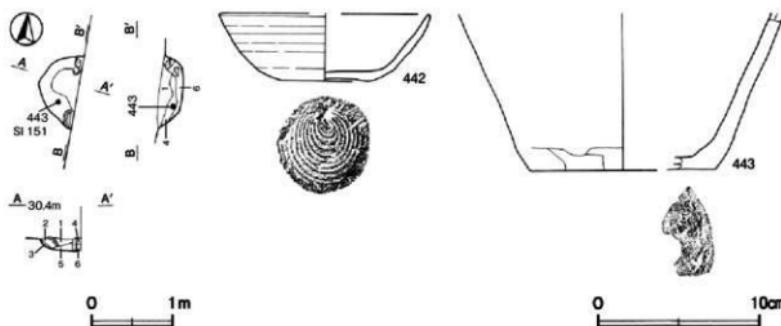
覆土 6 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から、埋め戻されている。第6層には、20~30cm ほどの礫が含まれており、その多くが被熱により赤変している。

土層解説

1	黒	褐	色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	4	暗	褐	色	ローム粒子中量、白色粒子少量、焼土粒子微量
2	黒	褐	色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	5	黒	褐	色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	黒	褐	色	焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐	褐	色	難多量、焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 8 点（坏 3, 壺 2, 壺類 3), 粘土塊 1 点 (152 g) が出土している。443 は南西壁際の覆土中層、442 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉に比定できる。覆土に粘土や焼土を含んでいることから、住居の遺跡の可能性があるが、被熱の痕跡も明確でなく全容が不明であることから、焼土遺構として取り上げた。



第254図 第1号焼土遺構・出土遺物実測図

第1号焼土遺構出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
442	土師器	环	[127]	41	55	長石・石英・ 云母・赤色粒子	褐 普通	底部回転糸切り	覆土中	40%	
443	土師器	裏	-	(9.6)	(11.4)	長石・石英・ 云母・赤色粒子	灰 普通	体部下端ハラ削り	中層	10%	

第2号焼土遺構（第255図）

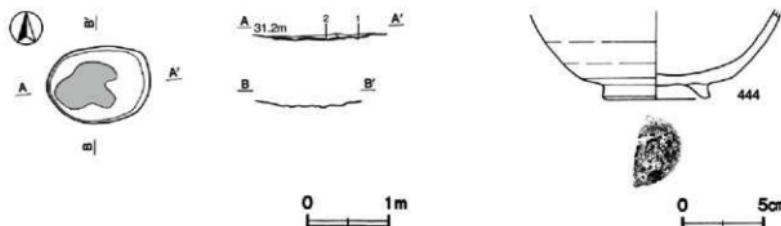
位置 調査区南部のE 1h8区、標高31 mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長径128 m、短径0.94 mの楕円形である。長径方向はN-86°-Eである。深さは5 cmで、底面は火を受けて赤変硬化しており、若干の凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1. 基層 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量 2. 黒褐色 炭化物・焼土粒子中量、ロームブロック少量



第255図 第2号焼土遺構・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 13 点（坏 7, 高台付椀 3, 大甕類 3), 須恵器片 1 点（甕）が出土している。444 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器により 10 世紀後葉から 11 世紀前葉と考えられる。底面に火を炊いた痕跡は確認できだが、性格は不明である。

第 2 号焼土遺構出土遺物観察表（第 255 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
444	土師器	高台付椀	-	(5.5)	64	長石・石英・ 雲母・針状鉱物	浅黄褐色	不良	底部斜削へら切り	覆土中	40%

表 9 平安時代焼土遺構一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規格		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
1	C 3.45	-	不明	0.92 × 0.50	28	一部 被熱変	外粗	人為	土師器片	SH151 → 本跡	
2	E 1.68	N - 86° - E	橢円形	1.28 × 0.94	5	被熱変	細絶	人為	土師器片, 須恵器片		

(5) 土坑

今回の調査で 19 基を確認した。その多くは性格不明である。以下、遺構と遺物の特徴を解説する。

第 5 号土坑（第 256・257 図）

位置 調査区中央部の D 2 e0 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1 号墳と重複しており、出土土器から本跡が新しい。

規模と形状 径 1.1m ほどの円形である。深さ 58cm で、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

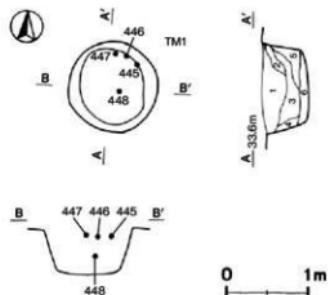
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

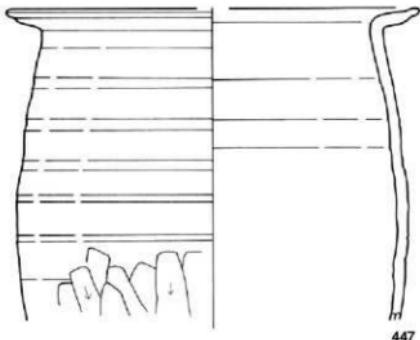
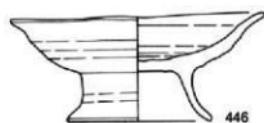
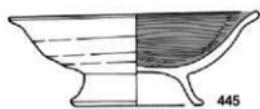
1	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4	暗	褐色	ロームブロック少量
2	褐	褐色	ロームブロック多量	5	暗	褐色	ロームブロック少量（第 4 層より暗い色調）
3	暗	褐色	ロームブロック中量	6	褐	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 15 点（高台付椀 2, 甕 1, 大甕類 12), 須恵器片 2 点（坏），石器 1 点（磨石）が出土している。また、混入した弥生土器片 4 点、須恵器の大甕片 1 点も出土している。土器は残存率が高く、大形の破片が多い。448 は中央部の覆土中層、445～447 は北壁際の覆土上層からそれぞれ出土しており、445 は逆位で、446 は斜位で出土している。448 の大甕は、本跡から南西方向約 20 m に位置する第 7・15・25 号土坑から出土した土器片と接合している。

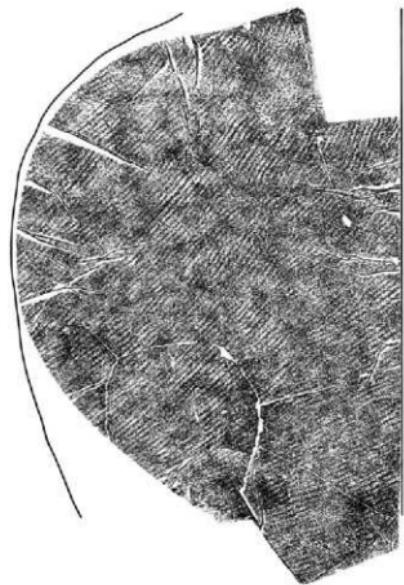
所見 古相の 448 の大甕が混入しているが、時期はその他の出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。埋め戻しに伴って、土器が一括廃棄されたと考えられ、廃棄土坑に想定できる。本跡と第 7・15・25 号土坑は、同一の土器の遺構間接合が確認されたことから、同時期に機能していた可能性がある。



第 256 図 第 5 号土坑実測図



0 10cm



0 10cm

第257図 第5号土坑出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表（第257図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
445	土師器	高台付椀	15.3	5.7	7.6	長石・石英 長石・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部削輪ヘラ切り	上層	95% PL54
446	土師器	高台付椀	15.6	6.6	8.7	長石・石英 長石・赤色粒子	橙	普通	底部削輪ヘラ切り	上層	70% PL54
447	土師器	甕	[250]	(19.2)	-	長石・石英 赤色粒子	白	普通	ロクロナデ 体部下半ヘラ削り	上層	20% PL54
448	須恵器	大甕	-	(4L1)	-	長石	黄灰	良好	斜傾の平行叩き 降灰による自然釉	中層	20%

第7号土坑（第258・259図）

位置 調査区中央部のD 2 g6 区、標高33 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南東部を第1号溝に掘り込まれているため、長軸は1.48 mしか確認できず、短軸は0.76 mである。

平面形は台形状を呈し、長軸方向はN - 86° - Eである。深さ12cmで、断面形は皿状である。

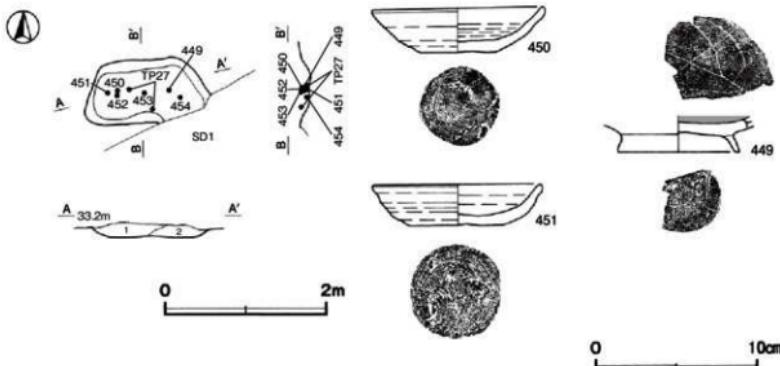
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

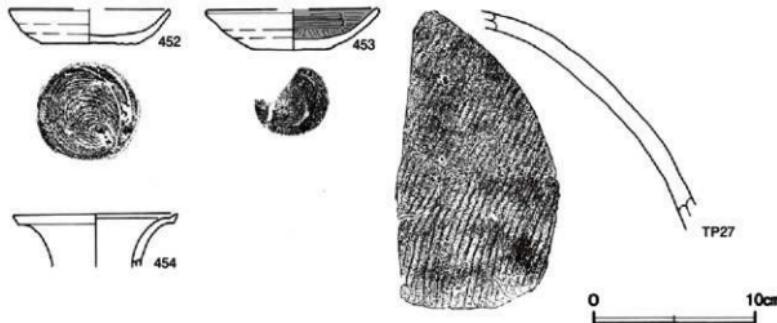
1 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
子微量

遺物出土状況 土師器片103点（坏68、高台付椀1、小皿10、長頸瓶1、甕1、甕頸22）が出土している。また、混入した須恵器の大甕片2点も出土している。450～453の小皿は残存率が高く、西部の覆土上層から下層にかけて出土している。454は東部の覆土下層、449は東部の覆土上層。TP27は中央部の覆土下層及び南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。そのうち、453の小皿、454の長頸瓶は、本跡と隣接する第15号土坑から出土した須恵器の大甕片とそれ接合している。また、覆土下層から出土した須恵器片が、第5号土坑から出土した大甕（第257図448）と接合している。

所見 本跡と第5・15号土坑は、同一の土器の造構間接合が確認されたことから、同時期に機能していた可能性がある。覆土下層に古相の須恵器の大甕片が混入しているが、時期はその他の出土土器から10世紀後葉に比定できる。埋め戻しに伴って、土器が一括廃棄されたと考えられ、廃棄土坑に想定できる。



第258図 第7号土坑、出土遺物実測図



第 259 図 第 7 号土坑出土遺物実測図

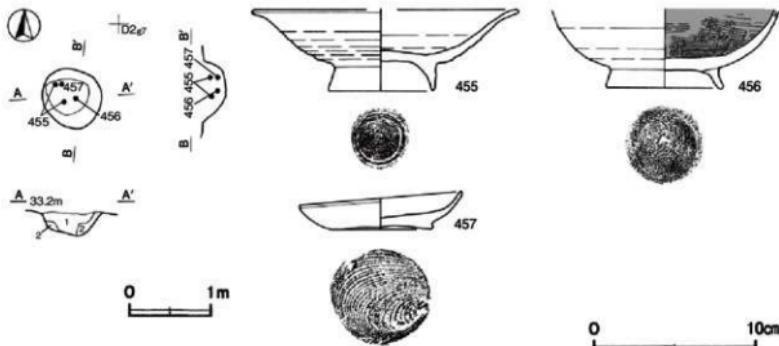
第 7 号土坑出土遺物観察表（第 258・259 図）

番号	種 別	器種	口径	脚高	底径	胎 土	色 調	燒 成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
449	土師器	両面削輪	—	(22)	[7.4]	長石・石英・ 珪母・赤色粒子	にぶい滑	普通	内面へう磨き 底部回転糸切り 見込みに削書	上層	10%
450	土師器	小皿	10.5	2.8	4.6	長石・石英・ 珪母・赤色粒子	にぶい滑	普通	底部回転糸切り	上層	70% PL55
451	土師器	小皿	10.3	2.5	5.8	長石・石英・ 赤色粒子・角閃石	粗	普通	底部回転糸切り	下層	100% PL55
452	土師器	小皿	[9.8]	2.2	6.1	長石・石英・ 赤色粒子	粗	普通	底部回転糸切り	上層	80% PL55
453	土師器	小皿	[10.4]	2.6	4.5	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい滑	普通	内面へう磨き 底部回転糸切り	上層	40%
454	土師器	長皿	[10.0]	(3.3)	—	長石・石英・ 珪母・赤色粒子	粗	普通	外・内面ナデ調整	下層	10%

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徵 は か	出土位置	備 考
TP27	須恵器	大甌	長石・石英	灰白	斜位の平行叩き 翼部陥没による自然縫	上層・下層	5%

第 11 号土坑（第 260 図）

位置 調査区中央部の D 2 g6 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。



第 260 図 第 11 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 0.79 m、短径 0.70 m の橢円形で、長径方向は N - 46° - W である。深さ 23 cm で、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることや残存率の高い土器片が出土していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 埋 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

2 土 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土器片 34 点（坏 22、高台付陶 2、小皿 3、甕類 7）が出土している。また、混入した土器片 1 点（高坏）も出土している。457 は、北壁際の覆土下層から斜位で出土している。455・456 は、中央部の覆土下層と覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。

第 11 号土坑出土遺物観察表（第 260 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
455	土器器	高台付陶	-	(4.7)	(7.0)	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	底部削輪系切り	上層	20%
456	土器器	高台付陶	[16.1]	5.0	[6.5]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	内面へラ磨き 底部削輪系切り	下層	20%
457	土器器	小皿	9.8	2.3	6.2	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	底部削輪系切り	下層	100% PL55

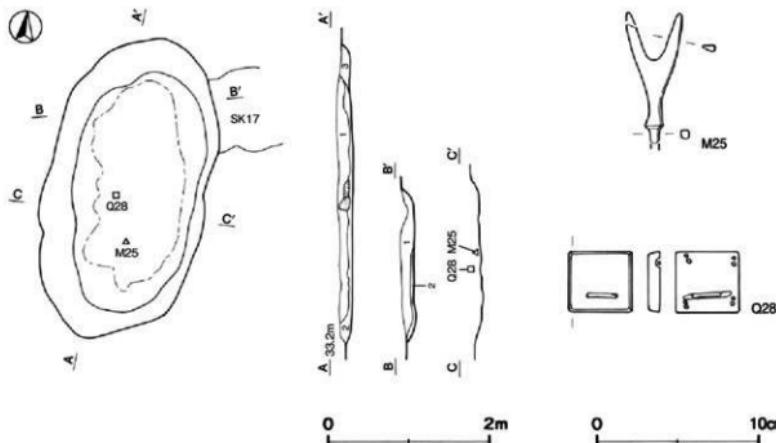
第 13 号土坑（第 261 図）

位置 調査区中央部の D 2 b6 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 17 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 3.76 m、短径 2.04 m の橢円形で、長径方向は N - 13° - E である。深さ 13 cm で、断面形は皿状である。

底面 壁際を除いて硬化している。



第 261 図 第 13 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。全体的に焼土粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量	3	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片 49点（环33、小皿1、甕7、甕類8）、須恵器片 1点（瓶）、石製品 1点（腰帶具）、鉄製品 1点（鎌）、粘土塊 1点 (6.3 g) が出土している。また、混入した縄文土器片 1点、弥生土器片 9点、土師器片 3点（高坏）も出土している。M25は中央部の覆土下層、Q28は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 細片ではあるが、土師器の小皿片が覆土中から出土しており、時期は10世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第13号土坑出土遺物観察表（第261図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 28	腰帶具	37	39	0.7	25.9	純紋岩	直方 斜面台形 表面四隅に溝り孔	上層	PL64
M 25	鎌	(80)	(36)	0.3	(15.8)	鉄	鍔部分雁式 垂部分直方形	下層	PL62

第15号土坑（第262・263図）

位置 調査区中央部のD 2g6区、標高33mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第12号土坑を掘り込んでいる。

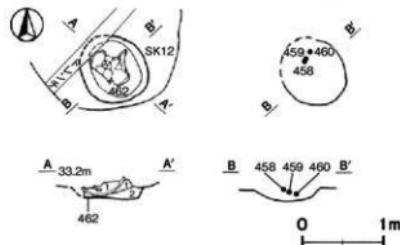
規模と形状 長径は推定0.89m、短径は0.80mの梢円形で、長径方向はN-45°-Wである。深さ15cmで、断面形は皿状である。

覆土 2層に分層できる。須恵器の大甕（462）が据えられた状態で出土しており、第1・2層は埋土と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック微量	2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
---	-----	-----------	---	-----	------------------

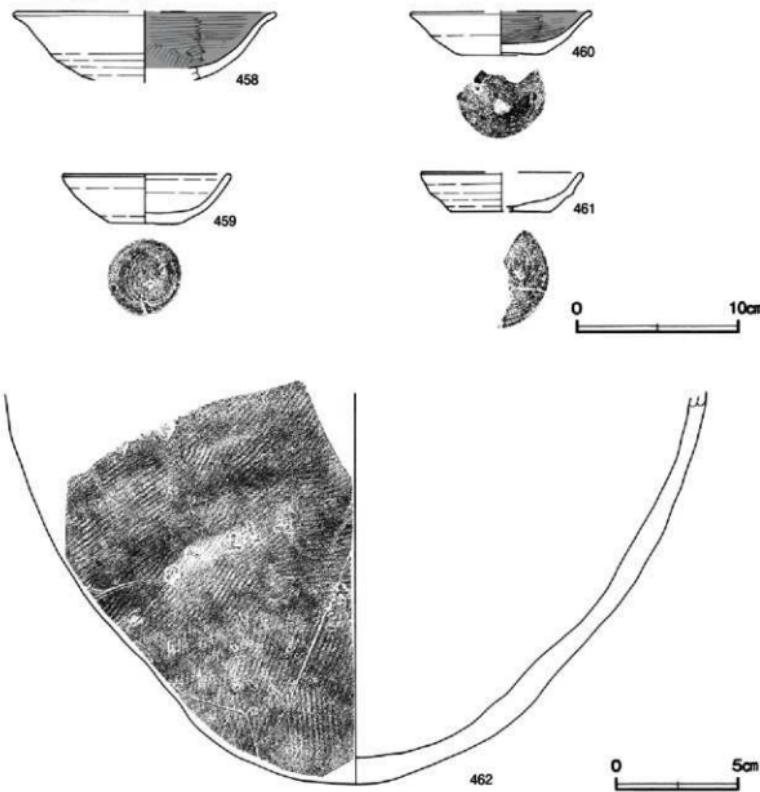
遺物出土状況 土師器片 59点（环22、高台付椀1、小皿4、甕3、甕類29）が出土している。また、混入した縄文土器片 7点、弥生土器片 9点、古墳時代の土師器片 7点（堆2、高坏5）、奈良時代の須恵器の大甕片



第262図 第15号土坑出土遺物実測図

2点も出土している。462の大甕は、中央部の底面に据えられた状態で出土しており、底部には放射状に割れ目が入っている。458・459は中央部、460は北壁寄りの覆土上層、461は覆土中からそれぞれ出土している。なお、458の高台付椀、462の大甕は、本跡と隣接する第25号土坑から出土した土器片とそれぞれ接合している。また、覆土上層から出土した土器片が、第5号土坑から出土した大甕（第257図448）と接合している。

所見 時期は、458～461の土器から10世紀後葉に比定できる。462の大甕は丸底であり8世紀代の所産と考えられ、他の出土土器とは時期差が認められる。覆土の様相から、造構の重複とは考えにくく、古手の土器がいざれからか搬入された可能性がある。また、大甕の底部は意図的に割られたと想定でき、容器としての機能を失っている。このことから、本来の使用とは別に何らかの儀礼に使用された可能性があるが、詳細については不明である。



第263図 第15号土坑出土遺物実測図

第15号土坑出土遺物観察表（第263図）

番号	性 別	器種	口径	脚高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
458	土器器	高脚鉢	[160]	41	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぼい粒	普通	内面ヘラ磨き	上層	30%
459	土器器	小皿	10.1	3.0	4.2	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・淡灰褐色	粗	普通	底部斜軸系切り	上層	70% PL54
460	土器器	小皿	[11.0]	2.6	5.6	長石・石英・ 雲母	にぼい網	普通	内面ヘラ磨き 底部斜軸ヘタ切り	上層	40%
461	土器器	小皿	[10.0]	2.4	[6.0]	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・角閃石	にぼい網	普通	底部斜軸系切り	覆土中	40%
462	須恵器	大甕	-	(32.0)	-	長石・石英	黄灰	良好	斜底の平行叩き 自然釉	底面	20% PL54

第25号土坑（第264図）

位置 調査区中央部のD 2 gō 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.2 m ほどの円形である。深さ 21 cm で、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

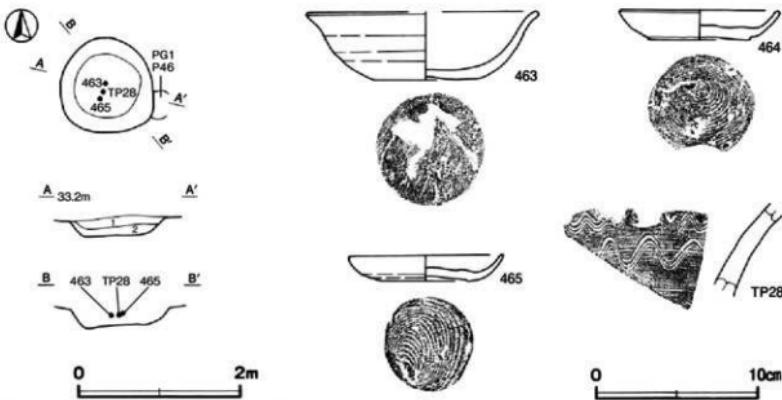
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土器片 15 点（环 4、小皿 2、壺 1、壺類 8）が出土している。また、混入した繩文土器片 1 点、弥生土器片 5 点、須恵器片 2 点（壺、大甕）も出土している。463・465・TP28 は中央部の覆土上層、464 は覆土中からそれぞれ出土している。そのうち、463 の环は第7号土坑から出土している土器片と、TP28 の壺は第15号土坑から出土した土器片とそれぞれ接合している。また、覆土上層から出土した須恵器片も、第5号土坑から出土した大甕（第257図 448）と接合している。

所見 覆土上層に古相の須恵器の大甕片が混入しているが、時期はその他の出土土器から 10世紀後葉に比定できる。本跡と第5・7・15号土坑は、同一の土器の遺構間接合が確認されたことから、同時期に機能していた可能性がある。第5・7号土坑と同様に残存率の高い遺物が出土しており、廃棄土坑の可能性がある。



第264図 第25号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑出土遺物観察表（第264図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴は	出土位置	備考
463	土器器	环	[142]	4.2	6.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘタ切り	上層	50% PL55
464	土器器	小皿	9.8	1.8	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	覆土中	90% PL55
465	土器器	小皿	9.4	1.6	5.5	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	底部回転糸切り	上層	95% PL55

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP28	須恵器	壺	長石	褐灰	繩文工具による波状文	上層	

第43号土坑（第265図）

位置 調査区中央部のE 2 b6区、標高33mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第39・104号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径159m、短径134mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。深さ15cmで、断面形は皿状である。

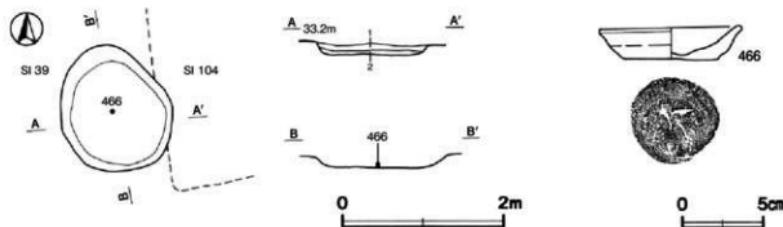
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 炭化粒子中量 ロームブロック・焼土粒子少量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 土器片17点（壺6、小皿1、甕類10）が出土している。また、混入した弥生土器片2点も出土している。466は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から11世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第265図 第43号土坑・出土遺物実測図

第43号土坑出土遺物観察表（第265図）

番号	種別	器種	口径	深さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
466	土器器	小皿	8.4	2.0	5.8	長石・石英・ 珪藻・陶酸粒子	にぶい橙	普通	底部回転あ切り		下層	95% PL55

第47号土坑（第266図）

位置 調査区中央部のE 2 d7区、標高33mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 1辺が1.6mほどの隅丸方形である。深さ43cmで、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

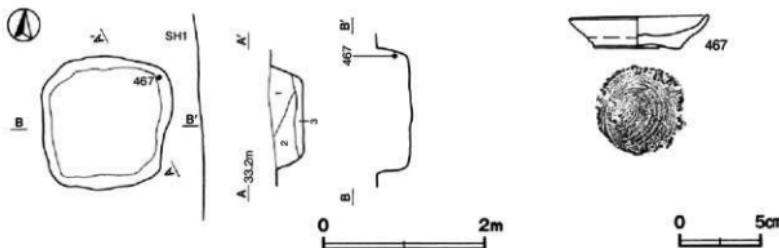
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック・粘土粒子少量

遺物出土状況 土器片39点（壺11、小皿1、甕1、甕類26）、須恵器片1点（甕）が出土している。また、混入した弥生土器片9点も出土している。467は、北東コーナー部の覆土中層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 11 世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第 266 図 第 47 号土坑・出土遺物実測図

第 47 号土坑出土遺物観察表 (第 266 図)

番号	性別	器種	口径	脚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
467	土師器	小皿	8.4	2.0	5.4	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぼい模	普通	底部削輪系切り	中層	100% PL55

第 56 号土坑 (第 267 図)

位置 調査区中央部の D 2 j7 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.56m、短径 0.42m の梢円形で、長径方向は N - 79° - E である。深さ 18cm で、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

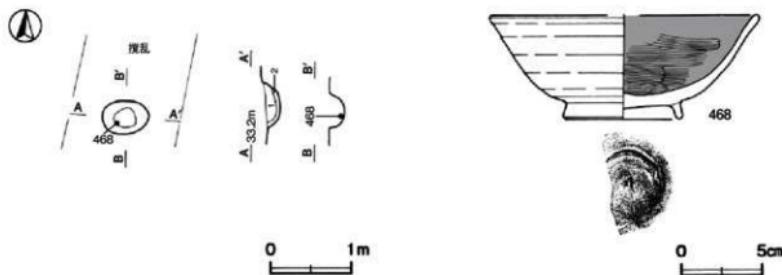
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子少量 2 黒褐色 ロームブロック・燒土粒子少量

遺物出土状況 土師器片 3 点 (坏、高台付碗、甌類) が出土している。468 は、西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 267 図 第 56 号土坑・出土遺物実測図

第 56 号土坑出土遺物観察表（第 267 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
468	土師器	高台付鉢	[36.4]	6.4	[7.0]	長石・石英・赤鐵・赤色・白色・鉄斑	褐色	普通	体部下端・底部斜軸へラ削り	下層	50%

第 62 号土坑（第 268 図）

位置 調査区中央部の C 215 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 61 号土坑を掘り込み、第 1 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.57m、短径 1.35m の楕円形で、長径方向は N - 87° - E である。深さ 7 cm で、断面形は皿状である。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

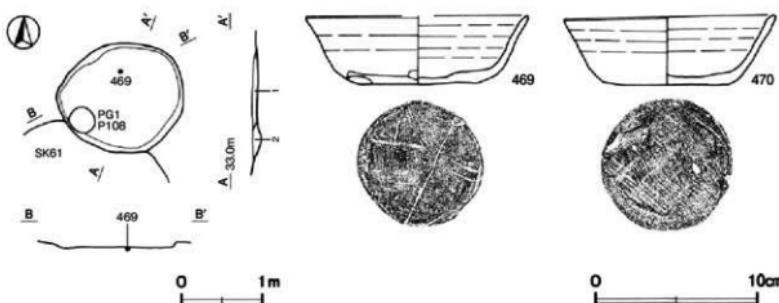
土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

2 極暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片 4 点（坏）が出土している。469 は北壁寄りの底面から正位で、470 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 268 図 第 62 号土坑・出土遺物実測図

第 62 号土坑出土遺物観察表（第 268 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
469	土師器	坏	[13.6]	4.2	7.7	長石・石英・赤鐵・赤色・白色・鉄斑	褐色	普通	ロクロナデ 体部下端・底部手持ちへラ削り	底面	70% PL56
470	土師器	坏	12.8	4.4	7.9	赤色・赤鉄・明赤鉄	明赤鉄	普通	ロクロナデ 底部一方向のヘラ削り	覆土中	90% PL56

第 78 号土坑（第 269 図）

位置 調査区南部の E 110 区、標高 31 m の台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長径 0.51m、短径 0.44m の楕円形で、長径方向は N - 45° - W である。深さ 5 cm で、断面形は皿状である。

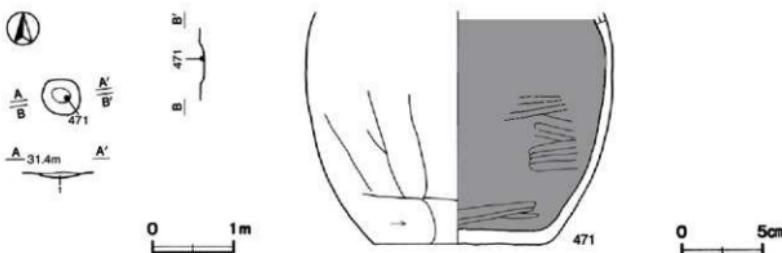
覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・繊維中量 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点(鉢)、須恵器片1点(甕)が出土している。また、混入した縄文土器片1点も出土している。471は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土器から平安時代と考えられる。性格は不明である。



第269図 第78号土坑・出土遺物実測図

第78号土坑出土遺物観察表 (第269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
471	土師器	鉢	-	[14.2]	106	長石・石英・ 透輝・半色粒子	にい焼成	普通	体部外面へラ削り 内面へラ削き	下層	60% PL55

第82号土坑 (第270図)

位置 調査区南部のE 1h5区、標高31mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第68号住居を掘り込んでいる。

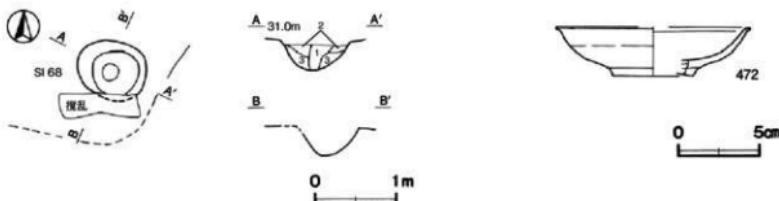
規模と形状 長径0.86m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-82°-Wである。深さ35cmで、底面は鍋底状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・燒土ブロック・化物化物少量
2 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック少量、繊維微量

3 暗褐色 ロームブロック・繊維少量



第270図 第82号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 18 点(环 12, 小皿 1, 壺 1, 壺類 4)が出土している。472 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。覆土の様相から柱穴とみられるが、周間に対になるピットが確認できなかったため、土坑として取り上げた。

第 82 号土坑出土遺物観察表 (第 270 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
472	土師器	小皿	[118]	30	[50]	長石・石英・ 基母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土中	30%

第 88 号土坑 (第 271 図)

位置 調査区南部の E 1 j7 区、標高 31 m の台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径 0.5m ほどの円形で、深さ 24cm である。底面は南部に向かって傾斜し、柱のあたりとみられる径 30cm ほどの楕円形の硬化範囲が確認されている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。周間に土の流入を示す自然堆積である。

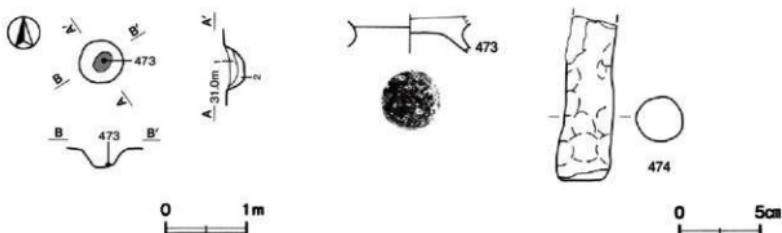
土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒 極 色 | ローム粒子・炭化粒子少量。燒土粒子微量 | 2 黒 極 色 | 炭化粒子少量。ローム粒子・燒土粒子・粘土粒子微量 |
|---------|---------------------|---------|--------------------------|

遺物出土状況 土師器片 21 点(环 5, 高台付椀 1, 壺類 14, 三足火舎 1), 須恵器片 1 点(蓋)が出土している。

また、混入した弥生土器片 1 点も出土している。473 は中央部の底面、474 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀以降と考えられる。柱のあたりとみられる硬化範囲が確認されていることから柱穴とみられるが、周間に対になるピットが確認できなかったため、土坑として取り上げた。



第 271 図 第 88 号土坑・出土遺物実測図

第 88 号土坑出土遺物観察表 (第 271 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
473	土師器	高台付椀	-	(2.3)	-	長石・石英・ 基母・赤色粒子	橙	普通	底部削軽へく切りカ	底面	20%
474	土師器	三足火舎	-	(10.1)	-	長石・石英・ 基母・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部ナデ 指擦痕	覆土中	5%

第 89 号土坑 (第 272 図)

位置 調査区中央部の E 1 j8 区、標高 31 m の台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 47 号住居と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 径 0.5m ほどの円形で、深さ 12cm である。断面形は皿状である。

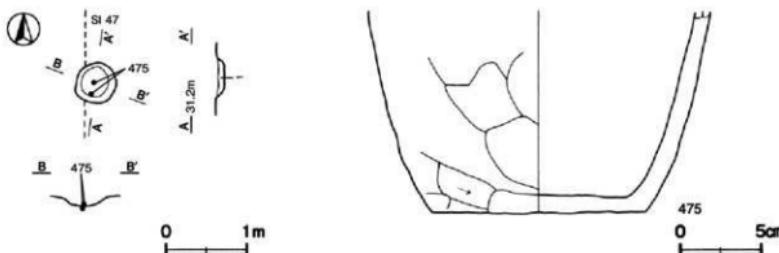
覆土 単一層で、層厚が薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器の壺片 1 点 (475) が、中央部の覆土下層から底面にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から平安時代と考えられる。性格は不明である。



第 272 図 第 89 号土坑・出土遺物実測図

第 89 号土坑出土遺物観察表 (第 272 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
475	土師器	壺	-	(125)	13.2	粘土・石英・空洞・赤色 柱・鉄鉱物・鉄質	灰褐色	普通	体部外表面削り	下層～底面	30%

第 102 号土坑 (第 273 図)

位置 調査区南部の E 218 区、標高 31 m の緩斜面部に位置している。

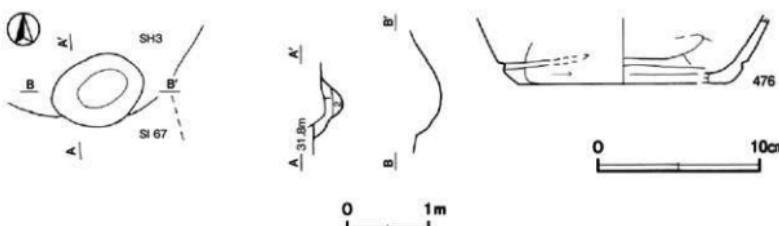
重複関係 第 67 号住居・第 3 号竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 上位を重複する遺構に掘り込まれているため、長径 1.14 m、短径 0.85 m、深さ 35cm しか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向は N - 58° - E である。底面は鍋底状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量



第 273 図 第 102 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 6 点(坏 1, 壺 2, 壶類 3)が出土している。また、混入した古墳時代の土師器片 1 点(高坏)も出土している。476 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 10 世紀前葉以前の平安時代と考えられる。性格は不明である。

第 102 号土坑出土遺物観察表 (第 273 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	燒成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
476	土師器	壺	-	(40)	[13.0]	貝石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外側へラ筋り 内面へラナデ	覆土中	10%

第 136 号土坑 (第 274 図)

位置 調査区中央部の E 2 a7 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 99 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 1 辺が 1.3m ほどの隅丸方形で、深さ 22cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

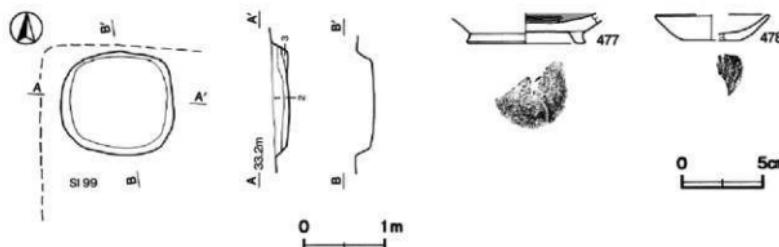
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片 14 点(坏 2, 高台付椀 1, 小皿 1, 壺 2, 壶類 8)が出土している。また、混入した古墳時代の土器片 1 点(高坏)も出土している。477・478 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 10 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 274 図 第 136 号土坑・出土遺物実測図

第 136 号土坑出土遺物観察表 (第 274 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	燒成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
477	土師器	高台付椀	-	(19)	[7.1]	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・黄鐵鉄物	にい・褐	普通	体部内面へラ筋き	覆土中	20%
478	土師器	小皿	[6.8]	1.6	[3.6]	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・黄鐵鉄物	褐	普通	クロナデ	覆土中	20%

第 185 号土坑 (第 275 図)

位置 調査区中央部の D 2 b4 区、標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 18 号住居跡を掘り込み、第 93 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 径 0.5 m ほどの円形で、上位が第 93 号住居に掘り込まれているため、深さは 39 cm しか確認できなかった。底面は平坦であり、柱のあたりとみられる径 28 cm ほどの楕円形の硬化範囲が確認されている。壁は、ほぼ直立している。

覆土 2 層に分層できる。覆土中に大形の土器片が含まれていることから、埋め戻されている。

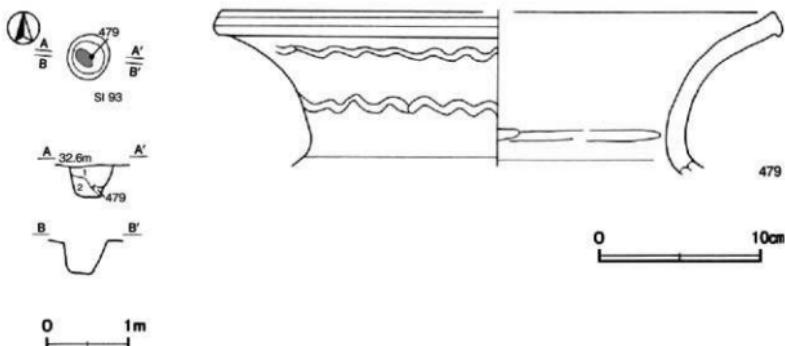
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス微量

2 暗褐色 鹿沼バミス少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 須恵器の大甕片 1 点 (479) が、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 9 世紀代に比定できる。柱のあたりとみられる硬化範囲が確認されておりことから柱穴とみられるが、周囲に対になるピットが確認できなかつたため、土坑として取り上げた。



第 275 図 第 185 号土坑・出土遺物実測図

第 185 号土坑出土遺物観察表 (第 275 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
479	須恵器	大甕	[340]	(96)	-	長石・雲母・針状結晶	灰黄褐	良好	頭部に棒状工具による波状文 内面ヘラナデ		下層	10%

第 218 号土坑 (第 276 図)

位置 調査区中央部の D 20 区。標高 33 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1 号墳を掘り込んでいる。

規模と形状 径 0.9 m ほどの円形で、深さは 34 cm である。壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

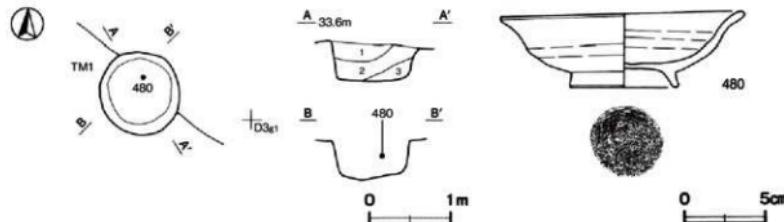
1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 23 点 (环 11, 高台付楕 1, 甕類 11)、須恵器片 1 点 (甕) が出土している。また、混入した弥生土器片 4 点も出土している。480 は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第276図 第218号土坑・出土遺物実測図

第218号土坑出土遺物観察表（第276図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
480	土器器	高台付楕	148	47	65	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぼい褐色	普通	底部斜板切り	中層	90% PL26

第252号土坑（第277図）

位置 調査区南部のE2d8区、標高33mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 径1.1mほどの円形で、深さは70cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

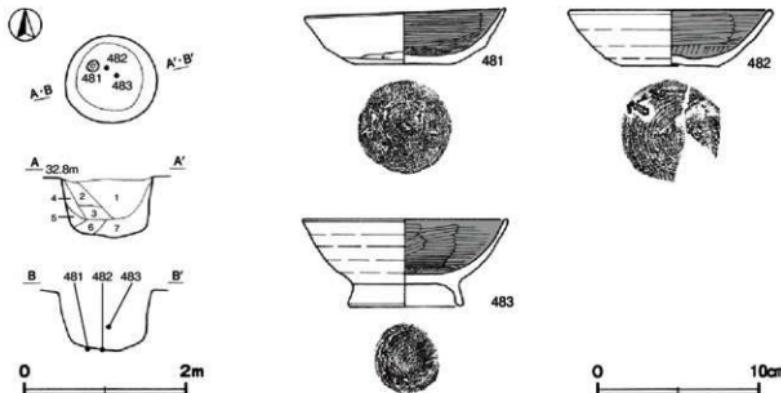
覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、燒土粒子微量	5	褐色	ロームブロック多量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片36点（坏17、高台付楕3、壺3、壺類13）が出土している。また、混入した繩文土器片1点、弥生土器片3点も出土している。481・482は北部の底面、483は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。481は、逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉に比定できる。性格は不明である。



第277図 第252号土坑・出土遺物実測図

第252号土坑出土遺物観察表(第277図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
481	土師器	杯	122	35	60	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・角閃石	にぶい程	普通	内面ヘラ磨き 体部回転ヘラ削り	底面	95% PL56
482	土師器	杯	123	34	60	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・柱状結晶	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	底面	90% PL56
483	土師器	高台碗	124	54	68	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・角閃石	にぶい程	普通	内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	中層	80% PL56

表10 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面 (断面形)	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
5	D 2e0	-	円形	11	58	平坦	直立	人為	土師器片、須恵器片	TM 1→本跡
7	D 2g5	N - 86° - E	台形状	0.48 × 0.76	12	(圓状)	-	人為	土師器片、須恵器片	本跡→SD 1
11	D 2g5	N - 46° - W	楕円形	0.79 × 0.70	23	平坦	外傾	人為	土師器片	
13	D 2b6	N - 13° - E	楕円形	3.76 × 2.04	13	(圓状)	-	人為	土師器片、須恵器片、腰帶具、鐵劍	SK17→本跡
15	D 2g5	N - 45° - W	楕円形	0.89 × 0.80	15	(圓状)	-	人為	土師器片、須恵器片	SK12→本跡
25	D 2g5	-	円形	12	21	平坦	傾斜	人為	土師器片、須恵器片	PG 1→本跡
43	E 2b6	N - 25° - W	楕円形	1.59 × 1.34	15	(圓状)	-	人為	土師器片	SD39-104→本跡
47	E 2d7	-	隅丸方帀	1.6	43	平坦	直立	人為	土師器片	SH 1→本跡
56	D 2j7	N - 79° - E	楕円形	0.56 × 0.42	18	圓状	外傾	人為	土師器片	
62	C 215	N - 87° - E	楕円形	1.57 × 1.35	7	(圓状)	-	人為	土師器片	SK61→B跡→PG 1
78	E 110	N - 45° - W	楕円形	0.51 × 0.44	5	(圓状)	-	人為	土師器片	
82	E 1b5	N - 82° - W	楕円形	0.86 × 0.70	35	扁状	傾斜	人為	土師器片	SD68→本跡
88	E 1j7	-	円形	0.5	24	傾斜	外傾	自然	土師器片、須恵器片	
89	E 1j8	-	円形	0.5	12	(圓状)	-	不明	土師器片	SH47と新旧不明
102	E 2i8	N - 58° - E	楕円形	(1.14 × 0.85)	(35)	扁状	傾斜	人為	土師器片	本跡→SB67, SH 3
136	E 2a7	-	隅丸方帀	1.3	22	平坦	外傾	人為	土師器片	SB99→本跡
185	D 2b4	-	円形	(0.5)	39	平坦	直立	人為	須恵器片	SD18→本跡→SB3
218	D 2f0	-	円形	0.9	34	平坦	直立	人為	土師器片、須恵器片	TM 1→本跡
252	E 2d8	-	円形	1.1	70	平坦	直立	人為	土師器片	

(6) ピット群

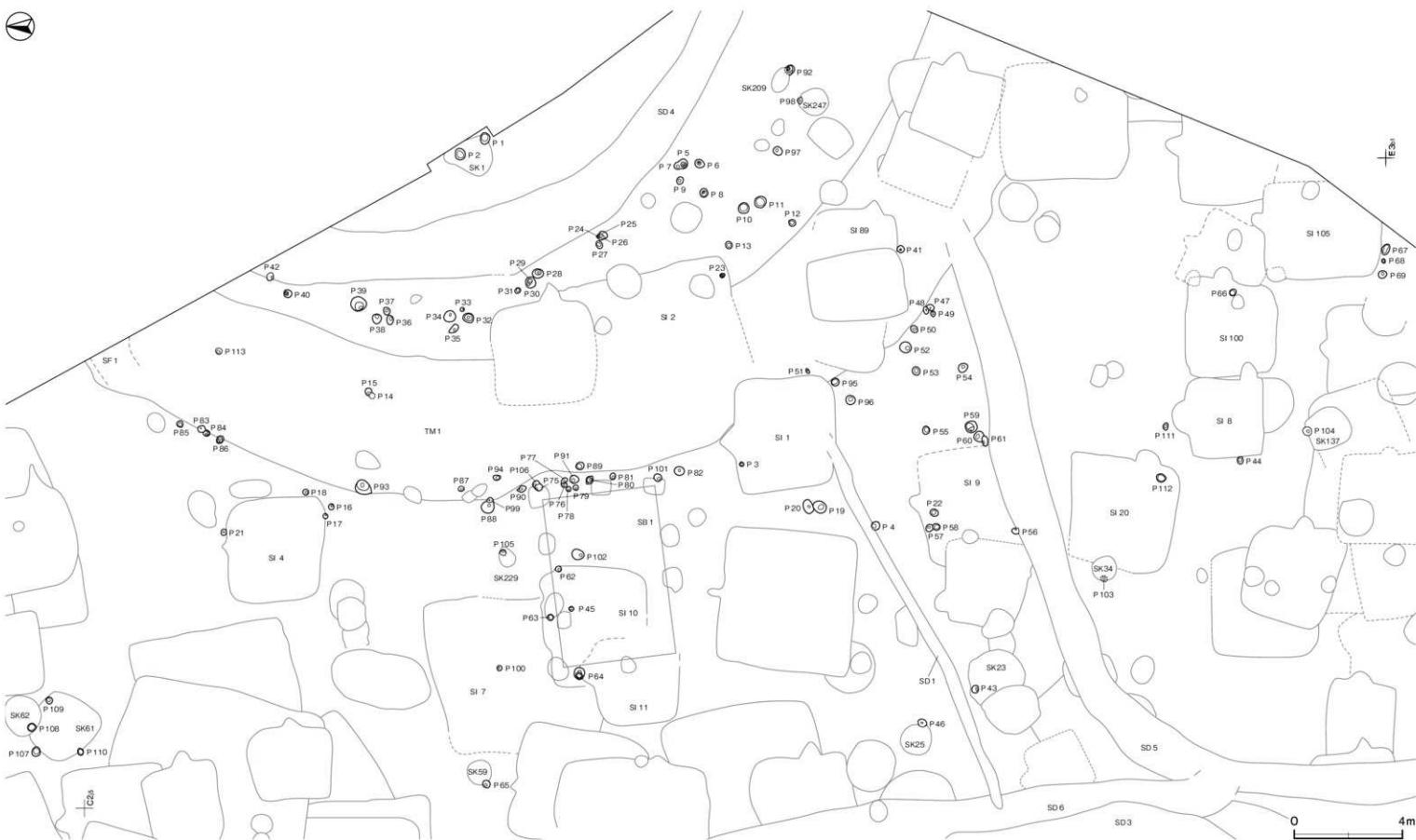
今回の調査では、ピット群8か所を確認した。いずれも建物跡を想定できるような配置ではないが、第1号ピット群のピットからは、比較的残存率の高い遺物が出土しているため、当時代の遺構と判断した。以下、遺構と遺物の特徴を解説する。

第1号ピット群(第278・279図)

位置 調査区中央部の標高33mの平坦な台地上、C 2i5～E 2b0区にかけての南北50m、東西28mの範囲から柱穴状のピット108か所を確認した。

重複関係 第1号墳、第1・2・4・7～11・89・100・105号住居跡、第1号堀立柱建物跡、第1・23・59・61・62号土坑を掘り込み、第20号住居、第25・137・247号土坑、第1・4・5号溝に掘り込まれている。また、第34・209・229号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模や形状 ピットは長径16～66cm、短径15～56cmの円形または楕円形で、深さは5～110cmである。



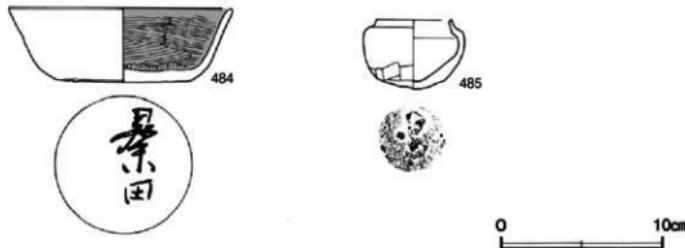
第278図 第1号ピット群実測図

遺物出土状況 土師器片 49 点（坏 13、高台付椀 2、甕 6、甌類 27、ミニチュア土器 1）、須恵器片 4 点（甌）が出土している。また、混入した繩文土器片 1 点、弥生土器片 15 点、古墳時代の土師器片 2 点（坏、高坏）も出土している。484 は P75 の覆土上層、485 は P95 の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 ピットに重複があり、広範囲で確認されていることから、若干の時期差があると想定できるが、出土土器や重複関係により、時期は概ね 9～10 世紀代の範疇に収まるものと考えられる。

第 1 号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 3 e1	円形	43	37	15	39	D 2 b9	円形	60	56	65	77	D 2 d8	【椭円形】	(28)	22	45
2	D 3 e1	円形	46	40	24	40	D 2 a9	円形	30	29	77	78	D 2 d7	円形	20	20	12
3	D 2 f8	円形	19	19	23	41	D 2 g0	円形	28	27	84	79	D 2 d7	円形	22	20	19
4	D 2 g7	円形	(31)	30	20	42	D 2 a9	【椭円形】	(32)	26	110	80	D 2 d8	椭円形	36	28	25
5	D 2 e0	【円形】	38	(30)	22	43	D 2 b6	円形	30	28	18	81	D 2 d8	椭円形	26	22	20
6	D 2 e0	椭円形	40	32	34	44	D 2 j8	椭円形	30	22	35	82	D 2 e8	椭円形	40	34	56
7	D 2 e0	【円形】	(28)	28	13	45	D 2 d6	円形	20	19	24	83	D 2 a8	椭円形	29	26	45
8	D 2 e0	椭円形	34	30	43	46	D 2 g5	【円形】	(35)	(24)	8	84	D 2 a8	椭円形	26	22	39
9	D 2 e0	椭円形	30	24	40	47	D 2 g9	椭円形	28	20	45	85	C 2 j8	円形	24	24	33
10	D 2 f0	円形	40	39	31	48	D 2 g9	椭円形	29	20	45	86	D 2 a8	椭円形	33	26	32
11	D 2 f0	円形	42	42	32	49	D 2 g9	椭円形	21	16	49	87	D 2 c7	椭円形	24	20	54
12	D 2 f0	円形	26	26	27	50	D 2 g9	椭円形	44	34	53	88	D 2 c7	不定形	51	45	93
13	D 2 e0	椭円形	29	26	36	51	D 2 f9	椭円形	24	16	81	89	D 2 d8	椭円形	33	28	33
14	D 2 b8	【円形】	(21)	(20)	(15)	52	D 2 g9	円形	44	43	58	90	D 2 d7	椭円形	36	22	28
15	D 2 b8	椭円形	29	22	45	53	D 2 g9	円形	34	31	72	91	D 2 d8	椭円形	36	31	66
16	D 2 b7	円形	24	22	46	54	D 2 b9	椭円形	38	34	49	92	D 3 f1	椭円形	38	32	65
17	D 2 b7	円形	22	20	43	55	D 2 g9	椭円形	34	28	54	93	D 2 b7	椭円形	66	52	74
18	D 2 b7	円形	24	23	19	56	D 2 b7	【椭円形】	(27)	24	20	94	D 2 c8	椭円形	28	22	71
19	D 2 f7	椭円形	53	44	49	57	D 2 g7	椭円形	30	27	46	95	D 2 f8	円形	30	30	5
20	D 2 f7	椭円形	54	34	35	58	D 2 g7	円形	29	27	66	96	D 2 g8	椭円形	40	36	11
21	D 2 a7	椭円形	26	23	40	59	D 2 b8	円形	45	44	62	97	D 3 f1	円形	34	34	55
22	D 2 g7	円形	26	24	74	60	D 2 b8	【円形】	(32)	24		98	D 3 f1	【椭円形】	(26)	(20)	11
23	D 2 g9	円形	18	16	33	61	D 2 b8	椭円形	40	22	47	99	D 2 c7	椭円形	22	19	39
24	D 2 d0	【円形】	-	-	28	62	D 2 d7	円形	24	23	13	100	D 2 c6	円形	21	20	44
25	D 2 d0	【円形】	-	-	30	63	D 2 d6	椭円形	24	20	26	101	D 2 c8	円形	31	30	87
26	D 2 d0	【円形】	-	-	29	64	D 2 d6	円形	44	43	62	102	D 2 d7	椭円形	46	40	48
27	D 2 d0	椭円形	34	23	24	65	D 2 c5	椭円形	30	26	26	103	D 2 f7	【円形】	(28)	(26)	(46)
28	D 2 d9	椭円形	41	36	37	66	D 2 j9	椭円形	28	25	33	104	E 2 a8	椭円形	36	32	8
29	D 2 d9	【円形】	37	(26)	29	67	E 2 a9	椭円形	44	28	38	105	D 2 c7	【円形】	(23)	23	24
30	D 2 d9	【円形】	38	(15)	23	68	E 2 a0	椭円形	18	15	33	106	D 2 d7	【円形】	(26)	(24)	24
31	D 2 d9	椭円形	25	20	9	69	E 2 a9	椭円形	33	29	54	107	C 2 15	椭円形	35	30	15
32	D 2 c9	椭円形	42	35	66	70	欠番					108	C 2 15	円形	33	30	10
33	D 2 c9	円形	16	15	50	71	欠番					109	C 2 15	円形	28	28	16
34	D 2 c9	円形	44	44	58	72	欠番					110	C 2 15	椭円形	26	20	17
35	D 2 c9	椭円形	43	24	56	73	欠番					111	D 2 18	椭円形	28	20	9
36	D 2 b9	椭円形	35	25	84	74	欠番					112	D 2 18	【円形】	(34)	(31)	(15)
37	D 2 b9	椭円形	30	26	53	75	D 2 d7	椭円形	28	24	44	113	D 2 a9	椭円形	28	23	11
38	D 2 b9	椭円形	38	34	72	76	D 2 d7	椭円形	22	16	35						



第279図 第1号ピット群出土遺物実測図

第1号ピット群出土遺物観察表（第279図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
484	土師器	环	13.6	4.7	8.5	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	白	普通	内面へり彫き、底部手持ちへり削り 墨書き「日笠田」	P75	60% PL83
485	土師器	ノマコア	4.6	4.3	4.2	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状結晶	白	普通	彫影、体部外側へり削り、内面口クロナデ 底部回転へり削り	P95	100% PL86

5 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、墓坑2基、溝跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 墓坑

第1号墓坑（第280図）

位置 調査区中央部のC313区、標高33mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号墳、第144号住居跡を掘り込んでいる。

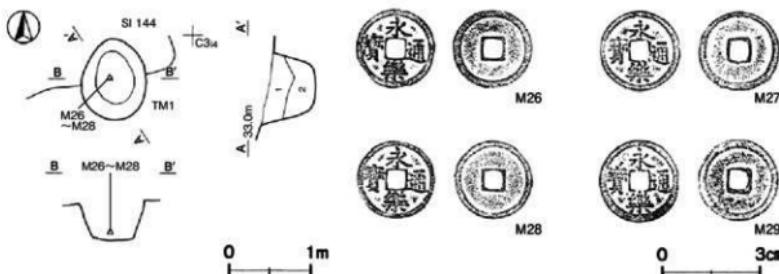
規模と形状 長径0.99m、短径0.78mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さ48cmで、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを主体とした埋葬時の埋め戻しである。

土層解説

1 砂 黄色 ロームブロック多量

2 暗 黄色 ロームブロック中量、骨片少量



第280図 第1号墓坑・出土遺物実測図

遺骸の特徴 骨片（大腿骨又は脛骨）や歯が出土している。骨は全体的に華奢であり、女性の可能性がある。また、歯は永久歯で極めて磨滅していることから、老年（60歳以上）と考えられる。

遺物出土状況 銭貨4点（永樂通寶）が出土している。M26～M28は、中央部の覆土下層から重なりあって出土している。M29は、覆土中から出土している。また、覆土下層から漆器の椀も出土しているが、素地の木質部は残存しておらず、漆塗膜の高台部のみが確認されているため、図示することはできない。

所見 銭貨や漆器の椀は、副葬品と考えられる。時期は、出土遺物から室町時代と考えられる。

第1号墓坑出土遺物観察表（第280図）

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	初発年	材質	特徴	出土位置	備考
M26	永樂通寶	25	06	01	28	1408	銅	真書	下層	
M27	永樂通寶	25	06	01	25	1408	銅	真書	下層	PL62
M28	永樂通寶	24	06	01	21	1408	銅	真書	下層	PL62
M29	永樂通寶	25	06	01	26	1408	銅	真書	覆土中	

第2号墓坑（第281図）

位置 調査区中央部のC 3i2区、標高33mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第11号墳を掘り込んでいる。また、第1号墳とも重複しており、遺構の性格上本跡が新しい。

規模と形状 長径1.26m、短径0.84mの橢円形で、長径方向はN-44°-Eである。深さ49cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを主体とした埋葬時の埋め戻しである。

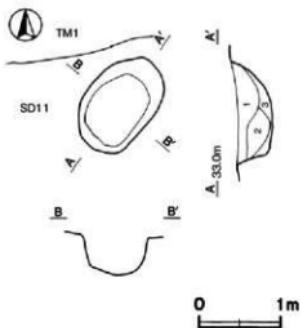
土層解説

- 1 級 黄色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 2 級 黄色 ロームブロック微量
- 3 級 灰色 ローム粒子中量

遺骸の特徴 骨片（大腿骨）や歯が、主に覆土下層から出土している。歯は永久歯で磨滅していることから、壮年（20～39歳）以上と考えられる。

遺物出土状況 覆土中に混入した土器の破片が出土している。

所見 時期は、副葬品と考えられる遺物がないため明確ではないが、第1号墓坑と隣接していることから、同墓坑とはあまり時期差がない室町時代と考えられる。



第281図 第2号墓坑実測図

表11 中世・近世墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	横 横		底面	横面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	C 3i2	N-0°	橢円形	0.99×0.78	48	平坦	直立	人骨	銭貨	TM 1. SH144 → 本跡
2	C 3i2	N-44°-E	橢円形	1.26×0.84	49	平坦	外傾	人骨	土器破片	TM 1. SD11 → 本跡

(2) 溝跡

今回の調査で、当時代の溝跡1条を確認した。規模や形状等については文章で解説し、平面図については遺構全体図(付図)で掲載する。

第5号溝跡 (第282図)

位置 調査区中央部から南部のD 2h0 ~ F 2a6区、標高31 ~ 33mの台地部から緩斜面部にかけて構築されている。

重複関係 第1号墳、第9・12・16・42・43・60・92号住居跡、第28・44・92号土坑、第6号溝跡、第1号ピット群を掘り込み、第81号土坑、第7・8号溝に掘り込まれている。

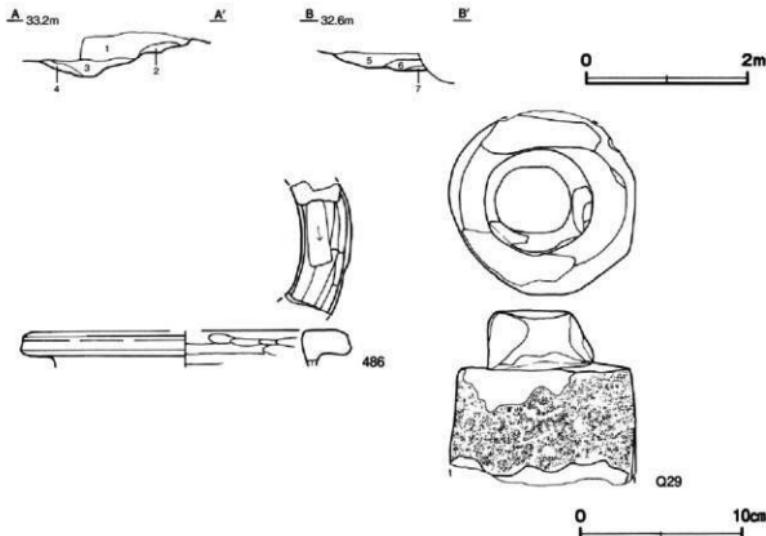
規模と形状 D 2j5区から北東方向(N - 76° - E)と南東方向(N - 165° - E)に延びており、L字形に屈曲している。確認できた長さは64mで、北東方向の端部は調査区以外に延びている。上幅62 ~ 213cm、下幅22 ~ 114cm、深さは22cmで、断面形は浅いU字状である。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5	褐	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	暗	褐色	ロームブロック中量	6	褐	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3	暗	褐色	ロームブロック少量、細繊微量	7	褐	ローム粒子多量、炭化粒子微量
4	褐	色	ロームブロック・鹿沼バミス中量、細繊微量			

遺物出土状況 陶器片2点(碗・皿)、土師質土器片1点(竈)、石製品1点(五輪塔)のほか、混入した縄文土器片8点、弥生土器片13点、土師器片311点、須恵器片16点も出土している。486・Q29は中央部の覆土中からそれぞれ出土している。



第282図 第5号溝跡・出土遺物実測図

所見 伴う遺物が少ないため、時期は明確でないが、出土遺物から江戸時代と考えられる。性格については、何らかの区画溝と考えられるが、詳細は不明である。

第5号溝跡出土遺物観察表（第282図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	燒成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
486	土御鉢型	壺	[29.0]	(22)	-	長石・石英	褐	普通	上面をヘラ削り 口縁部内面ヘラナメ	中央部 壺土中	10%
番号	器 様	長さ	径(上)	径(下)	重量	材 質			特 徴	出土位置	備 考
Q29	五輪塔	(10.7)	6.6	11.4	(1326g)	花崗岩			正面に刻字(梵字?) 摩滅のため判読不明	中央部 壺土中	PL60

6 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明らかでない竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、道路跡1条、土坑185基、溝跡12条、ピット群7か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第71号住居跡（第283図）

位置 調査区南部のE 1g4区、標高30mの台地縁辺部に位置している。

確認状況 削平されており、大半が第55号住居に掘り込まれているため、竪の火床部と右袖部の一部しか確認できなかった。

重複関係 第55号住居に掘り込まれている。

規模と形状 竪の一部が確認されたのみで、規模や形状は不明である。

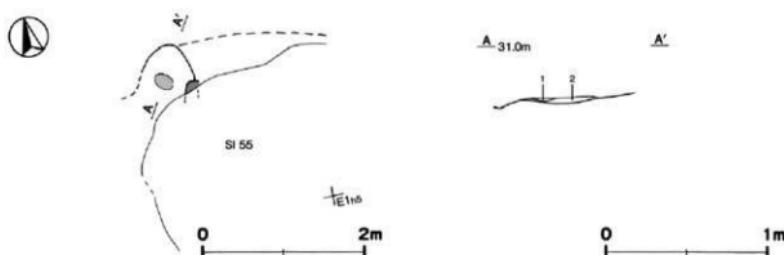
竪 北壁に付設されていたと考えられる。火床面は径20cmほどで、赤変硬化している。また火床部の東側に凝灰岩の切石が埋設されており、右袖部の基部と考えられる。

竪土層解説

1 塗 赤褐色 焼土粒子多量

2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量

所見 遺物が出土しておらず全容が不明のため、時期は重複関係から10世紀前葉以前と考えられるが、明確ではない。



第283図 第71号住居跡実測図

第 75 号住居跡（第 284 図）

位置 調査区南部の E 1h5 区、標高 31 m の台地縁辺部に位置している。

確認状況 削平されているため、床面が露出した状態で確認した。

重複関係 第 68 号住居、第 71・83 号土坑、第 2 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 残存する床面の広がりから一辺が 32 m ほどの方形または長方形と推定できる。

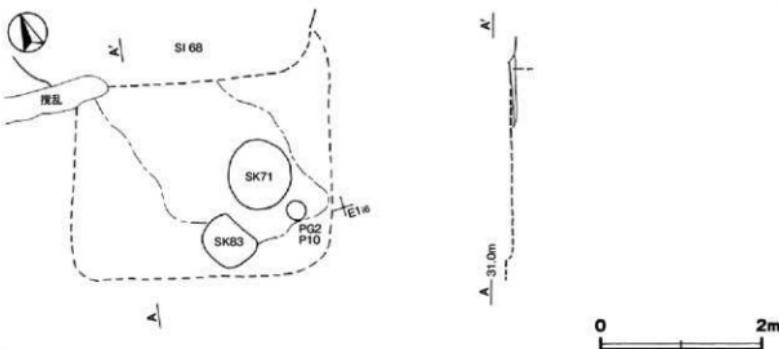
床 貼床の一部が残存しており、中央部が硬化していたと考えられる。貼床は細織を少量含み、ロームブロックを主体とする第 1 層を埋土して構築している。

構築土 締まりが強い貼床の構築土である。

構築土土層解説

1 面 色 ロームブロック多量、細織少量

所見 遺物が出土しておらず全容が不明のため、時期は重複関係から 9 世紀後葉以前と考えられるが、明確ではない。



第 284 図 第 75 号住居跡実測図

第 147 号住居跡（第 285 図）

位置 調査区北部の B 2i9 区、標高 31 m の緩斜面部に位置している。

重複関係 第 117～119 号住居、第 172 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 周囲を重複する遺構に掘り込まれており、東壁を確認できなかったため、規模は明確でないが、平面形は残存する壁溝やピットから、方形または長方形と考えられる。南北軸方向は N - 15° - W である。

床 残存部は平坦で、顯著な硬化範囲は確認できなかった。南壁の壁下には、壁溝が存在している。

ピット 4か所。P 1～P 4 は深さ 16～40cm で、配置から蠟柱穴の可能性がある。

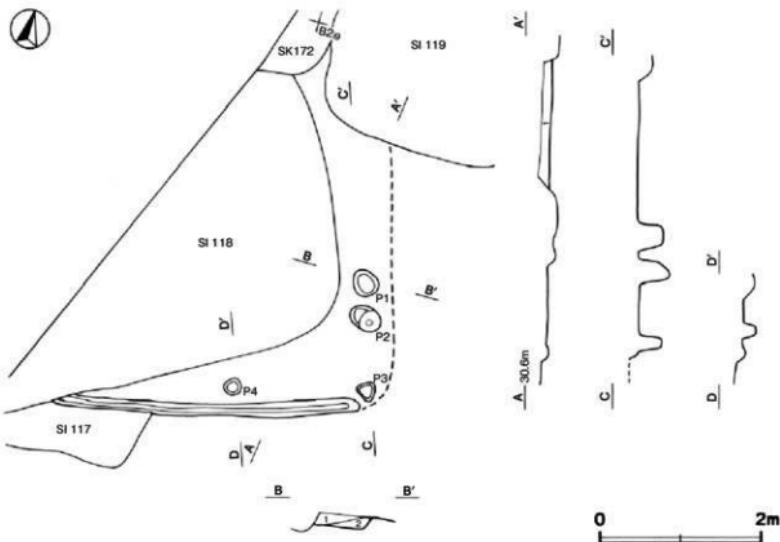
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 面 色 ロームブロック・焼土粒子・細織少量

2 面 色 ロームブロック多量

所見 遺物が出土しておらず全容が不明のため、時期は重複関係から 6 世紀後葉以前と考えられるが、明確ではない。



第285図 第147号住居跡実測図

表12 その他の住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(m)	規 模		壁 高 (cm)	床面	埋溝	内 部 施 設			覆土	主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)
				横幅	延長				柱穴	梁穴	壁厚				
71	E 1 g4	-	不明	-	-	-	-	-	-	1	-	-		10世紀後葉 本跡→SK 55 以降	
75	E 1 h5	-	[方形・ 長方形]	[3.2]	-	-	-	-	-	-	-	-		10世紀後葉 本跡→SK 68, SK71 - 83, PG 2 以降	
147	B 2 [9] N - 15° - W [長方形]	-	-	平坦	一部	-	-	4	-	-	人為		10世紀後葉 本跡→SK 117 - 119, [14.0]	SK172	

(2) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第286図）

位置 調査区北部のC 3 a2 ~ C 3 c2 区、標高 30 m の緩斜面部に位置している。

確認状況 埋没谷の上部に構築されている。

重複関係 第138・139号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N - 36° - Wの南北棟である。規模は桁行 5.4 m、梁行 3.0 m で、面積 16.2 m² である。柱間寸法は、桁行が 1.8 m (6 尺) で均等に配置されており、梁行は 3.0 m (10 尺) である。柱筋はほぼ揃っている。

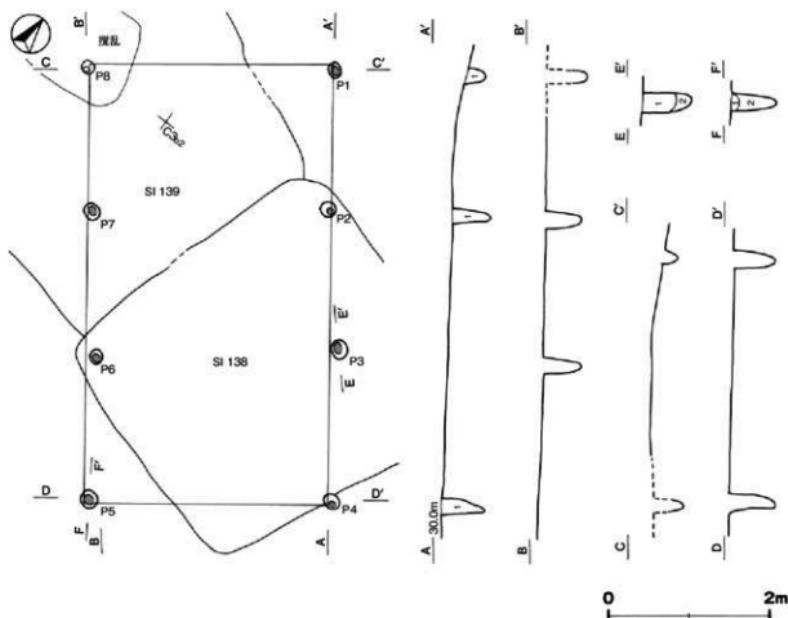
柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径 24 ~ 18 cm、短径 22 ~ 15 cm である。深さは 18 ~ 60 cm で、掘方の断面形は U字状である。第1・2層は柱の抜き取り痕である。P 1 ~ P 7 の底面に、径 10 ~ 20 cm ほどの柱のあたりとみられる円形または楕円形の硬化範囲が認められる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1 黒暗褐色 ロームブロック少量

2 極暗褐色 ローム粒子微量

所見 時期は、重複関係から10世紀後葉以降と考えられるが、遺物が出土していないため明確ではない。



第286図 第2号掘立柱建物跡実測図

(3) 道路跡

第1号道路跡（第287図）

位置 調査区中央部のC 312～C 292区、標高33mの平坦な台地上に位置している。

確認状況 調査区壁面の土層観察にて、締まりが強く水平に堆積した層が確認でき、周囲を精査したところ部分的に硬化した範囲を確認した。

重複関係 第1号墳の周溝、第11号溝の覆土上面を路面としている。また、第12・13号溝跡、第232・275号土坑、第5号ピット群とも重複しているが、新旧関係は不明である。

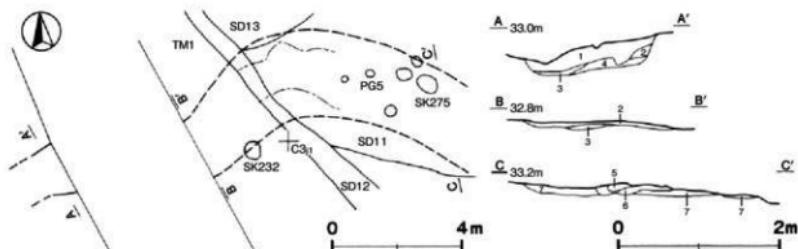
規模と形状 路面は部分的にしか確認できなかったため、規模や形状は明確でないが、土層観察から幅2mほどで東西方向に延びていたと想定できる。

構築土 7層に分層できる。ローム土を含む黒褐色や暗褐色の土を埋土して構築されており、全体的に締まりが強い。西部で確認された構築土は層厚も厚いため、部分的に埋土をして路面の補修が行われた可能性がある。

構築土層解説

1 黒 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	5 暗 灰 色 ローム粒子微量
2 暗 暗 灰 色 ロームブロック多量	6 黑 色 ローム粒子少量
3 暗 暗 灰 色 ロームブロック中量	7 暗 灰 色 ローム粒子微量
4 暗 色 ローム粒子多量	

所見 構築時期は、遺物が出土していないため不明である。



第287図 第1号道路跡実測図

(4) 土坑

今回の調査で、時期不明の土坑186基を確認した。そのうち、第273・274号土坑の覆土から多量の焼土を確認したが、火が用いられた痕跡は確認できず、覆土の様相から焼土は土坑内に投棄されたものと判断した。これらの土坑については文章で説明し、その他の土坑については、それぞれ実測図と土層解説及び一覧表のみ掲載する（第290～301図）。

第273号土坑（第288図）

位置 調査区北部のB2j0区、標高30mほどの緩斜面部に位置している。

確認状況 埋没谷の上部に構築されている。

規模と形状 長径1.26m、短径0.78mの楕円形で、長径方向はN-77°Wである。深さは28cmで、底面は鍋底状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

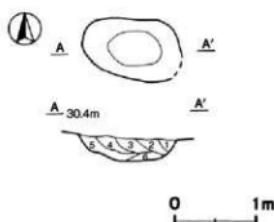
覆土 6層に分層され、全体的に焼土が含まれている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量	4 暗 暗 灰 色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量
2 暗 暗 灰 色 焼土ブロック・ローム粒子少量	5 暗 暗 灰 色 炭化物多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗 暗 灰 色 焼土ブロック多量、ロームブロック少量	6 赤 暗 灰 色 焼土粒子多量、ローム粒子少量

遺物出土状況 繩文土器片1点、弥生土器片9点、土師器片59点（环21、壹1、甕類37）、粘土塊1点（4.4g）が覆土中から出土しているが、混入と思われる。

所見 伴う遺物が出土していないため、時期や性格は不明である。



第288図 第273号土坑実測図

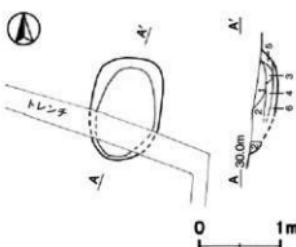
第 274 号土坑（第 289 図）

位置 調査区北部の C 3c5 区、標高 30 m ほどの緩斜面部に位置している。

確認状況 埋没谷の上部に構築されている。

規模と形状 長径 1.33 m、短径 0.88 m の椭円形で、長径方向は N - 15° - E である。深さは 28 cm で、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6 層に分層でき、上層に焼土が多く含まれている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第 289 図 第 274 号土坑実測図

第 3 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 4 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
- 2 にじい褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量

第 6 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量

第 8 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック多量

第 9 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量

第 10 号土坑土層解説

- 1 にじい褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第 14 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土粒子少量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

土層解説

- 1 にじい褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黑褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黑褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 1 点（甕類）が覆土中から出土しているが、混入と思われる。

所見 伴う遺物が出土していないため、時期や性格は不明である。

第 17 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量
- 4 にじい褐色 ローム粒子少量

第 18 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黑褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量

第 20 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量

第 21 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 24 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 27 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量

第 31 号土坑土層解説

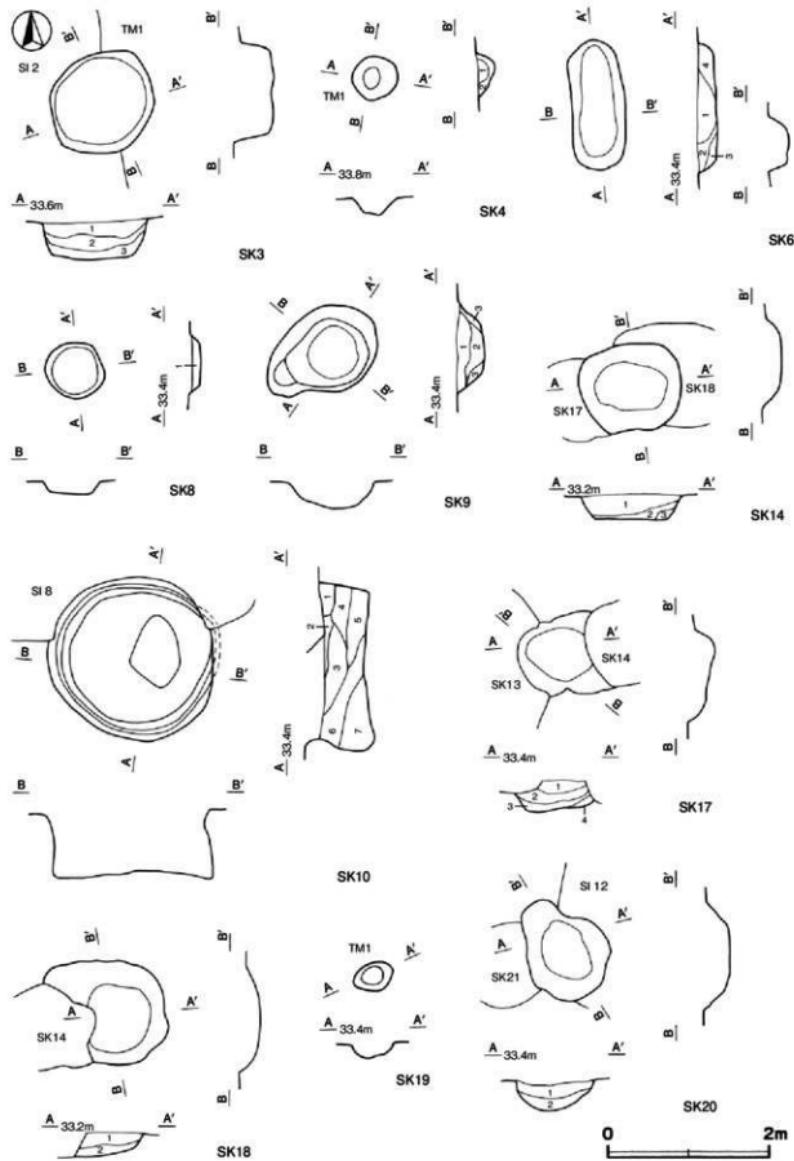
- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

第 32 号土坑土層解説

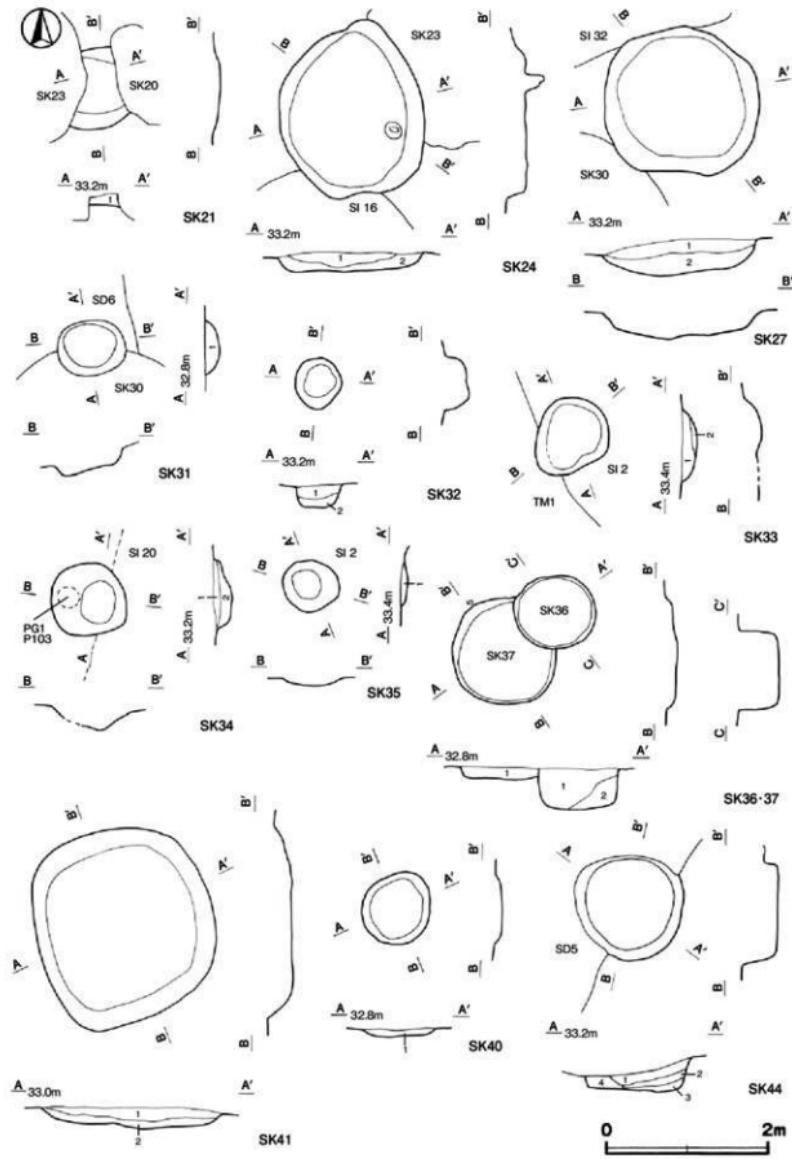
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

第 33 号土坑土層解説

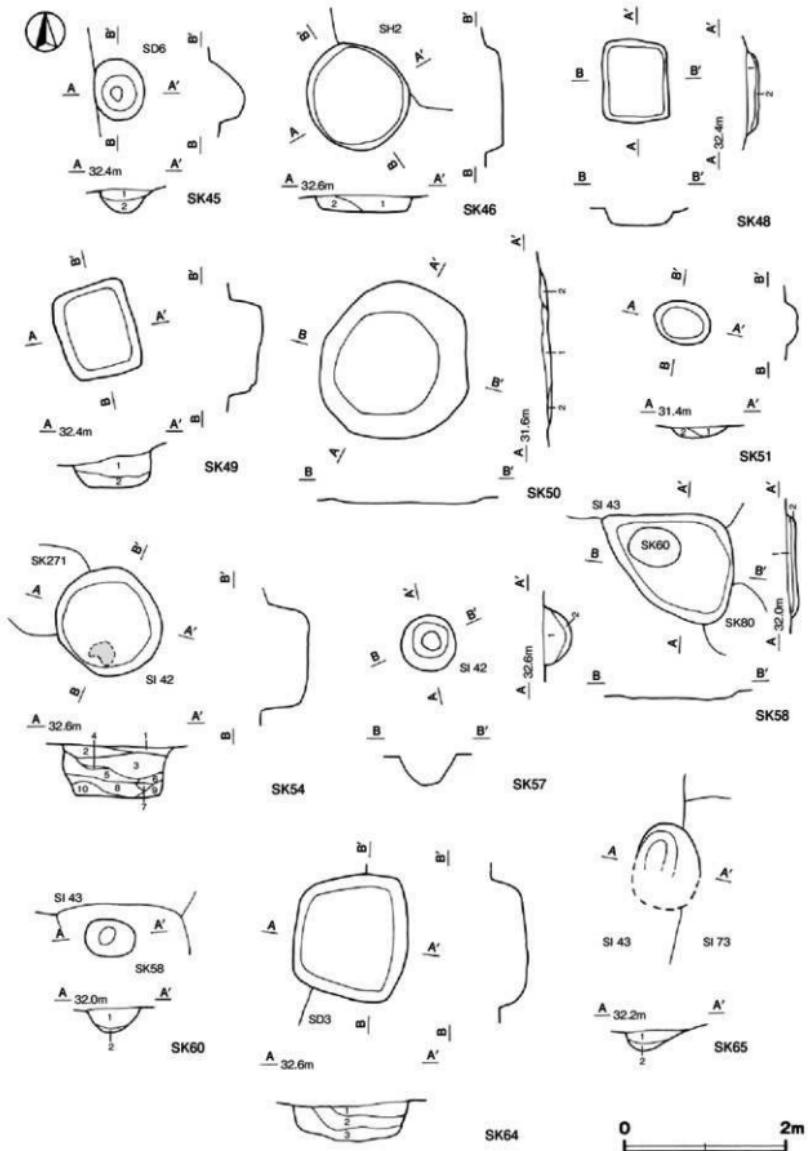
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量



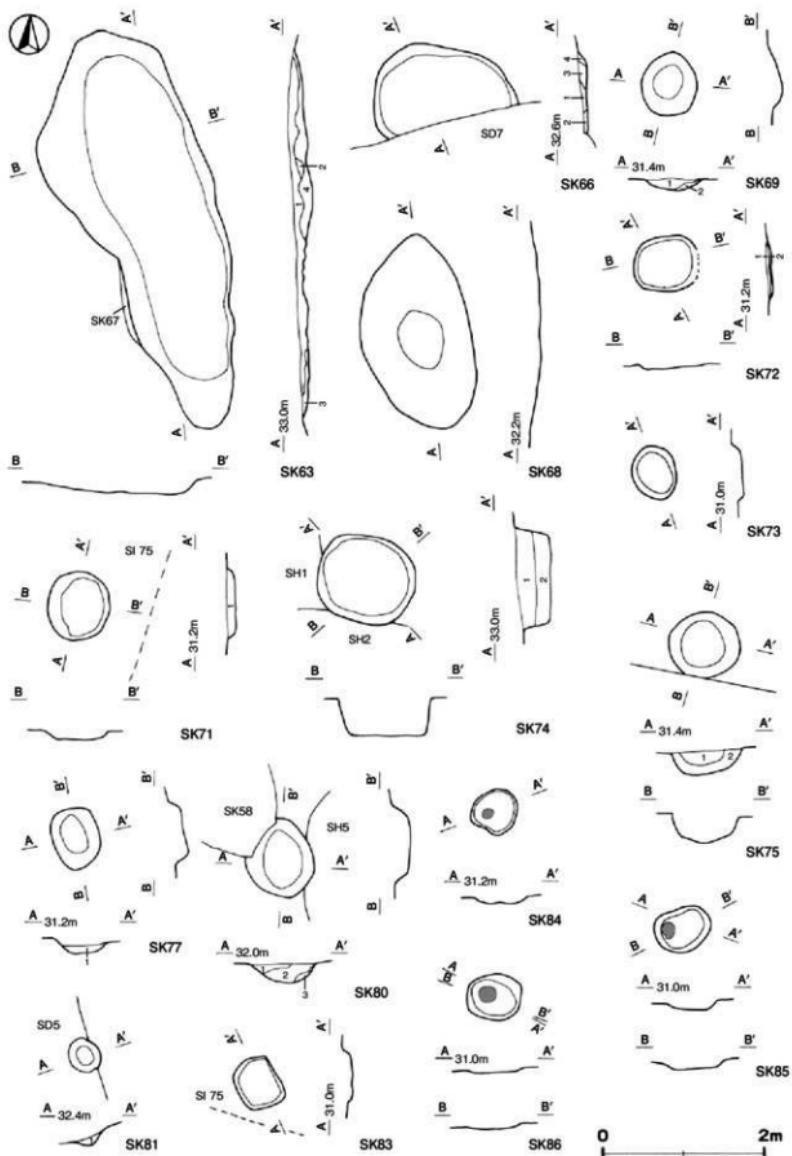
第290図 その他の土坑実測図 (1)



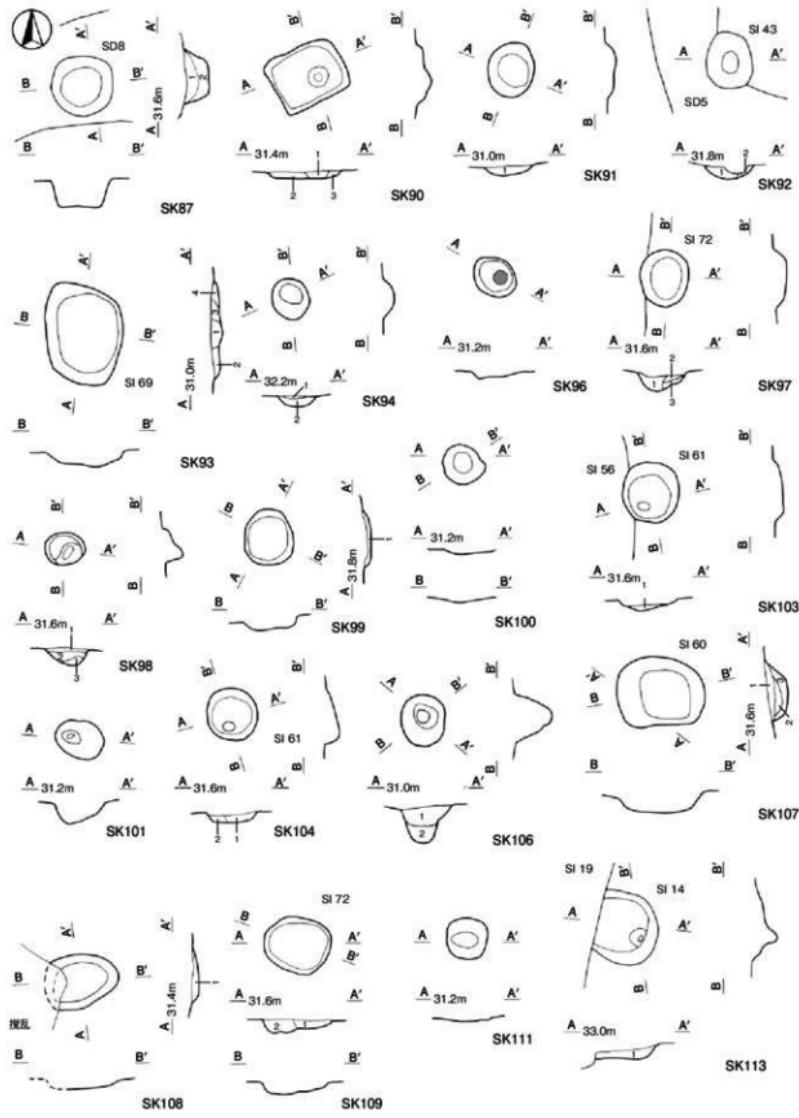
第291図 その他の土坑実測図（2）



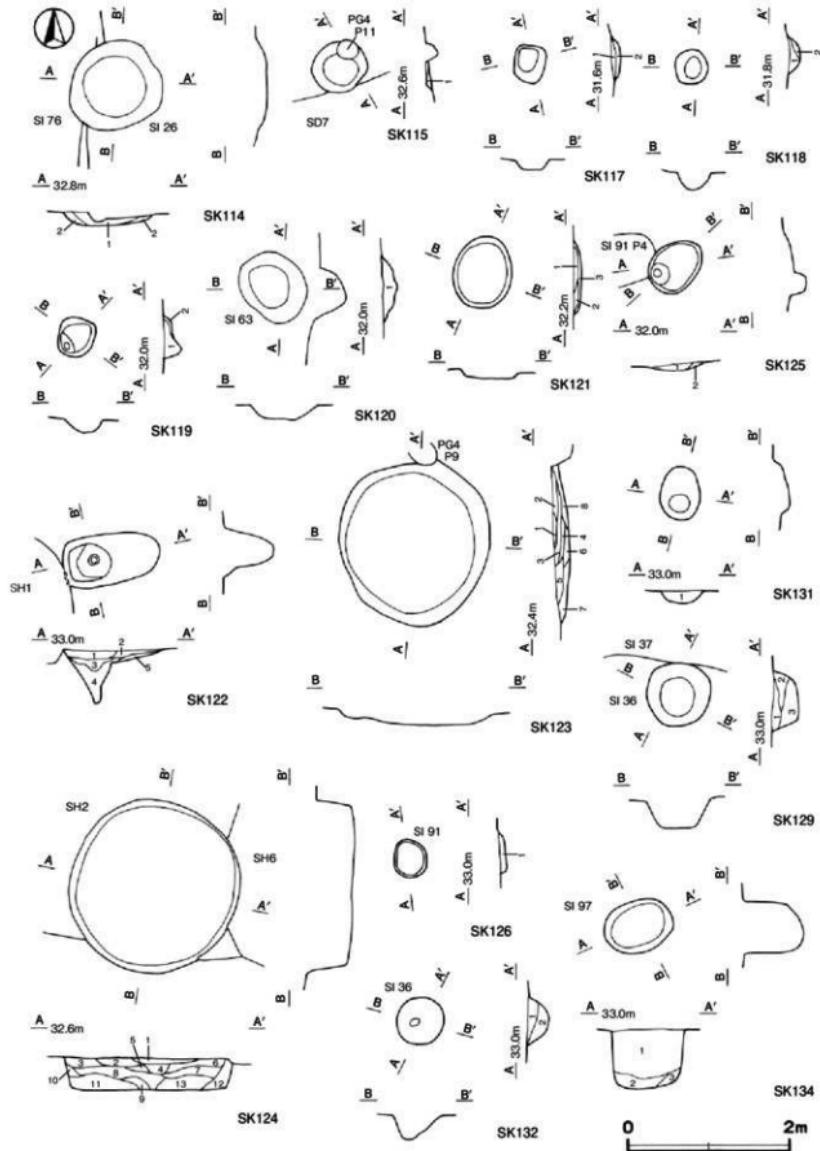
第292図 その他の土坑実測図 (3)



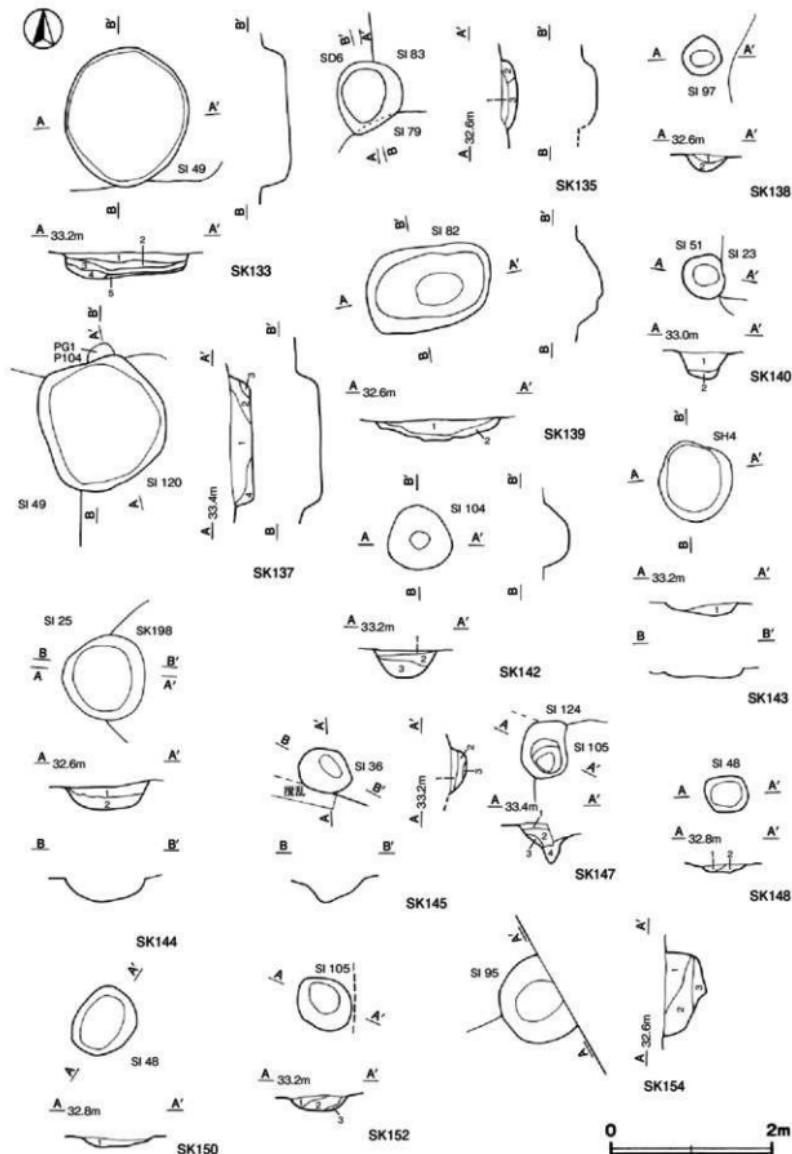
第293図 その他の土坑実測図 (4)



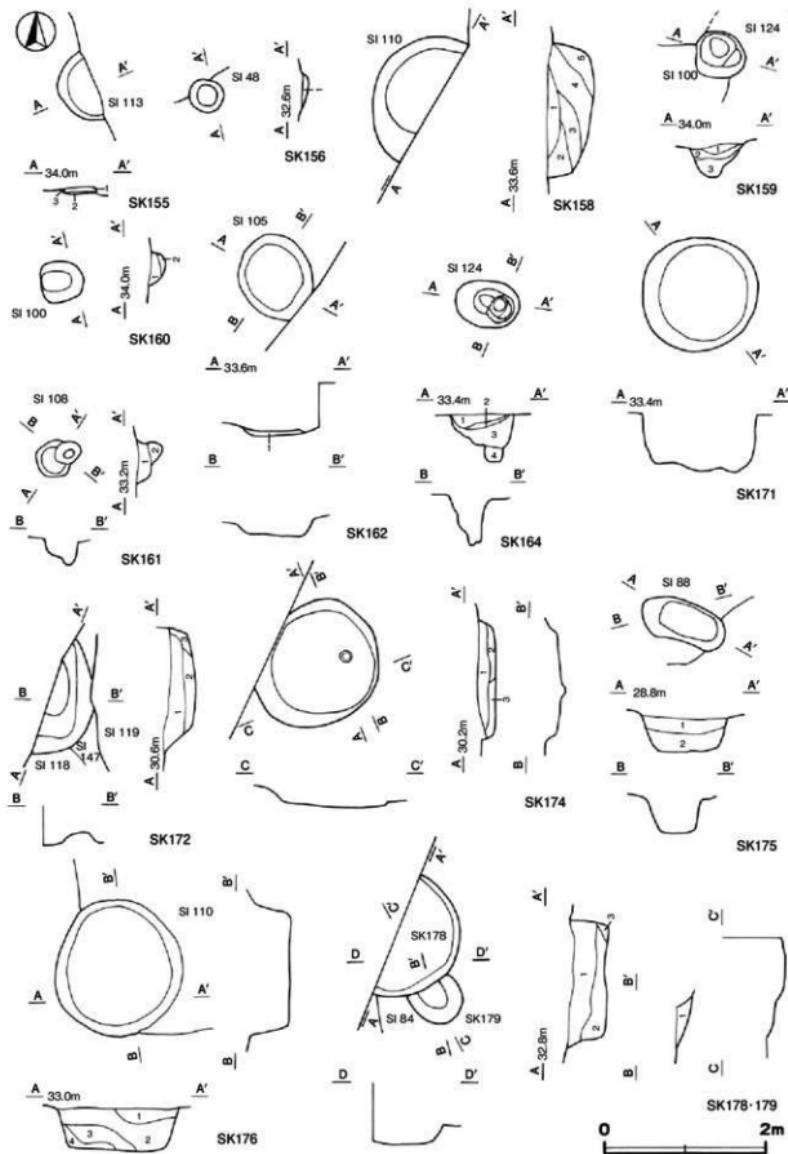
第294図 その他の土坑実測図 (5)



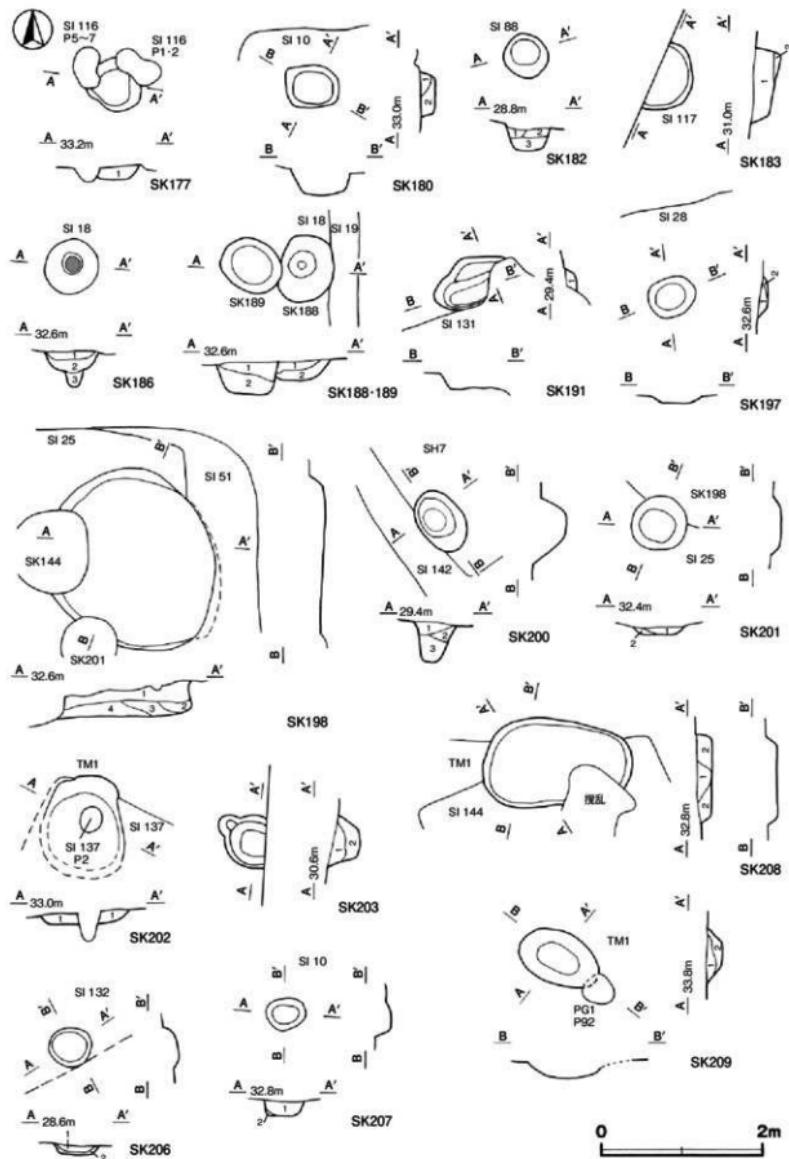
第295図 その他の土坑実測図 (6)



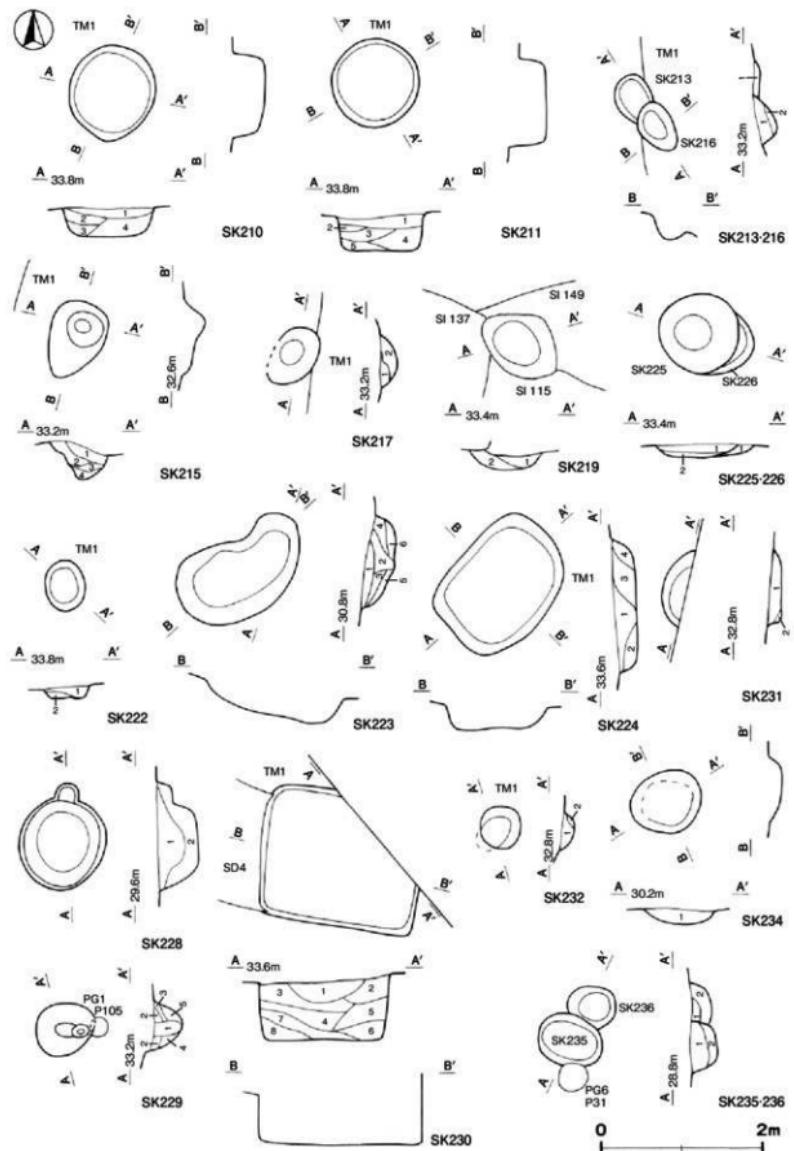
第296図 その他の土坑実測図 (7)



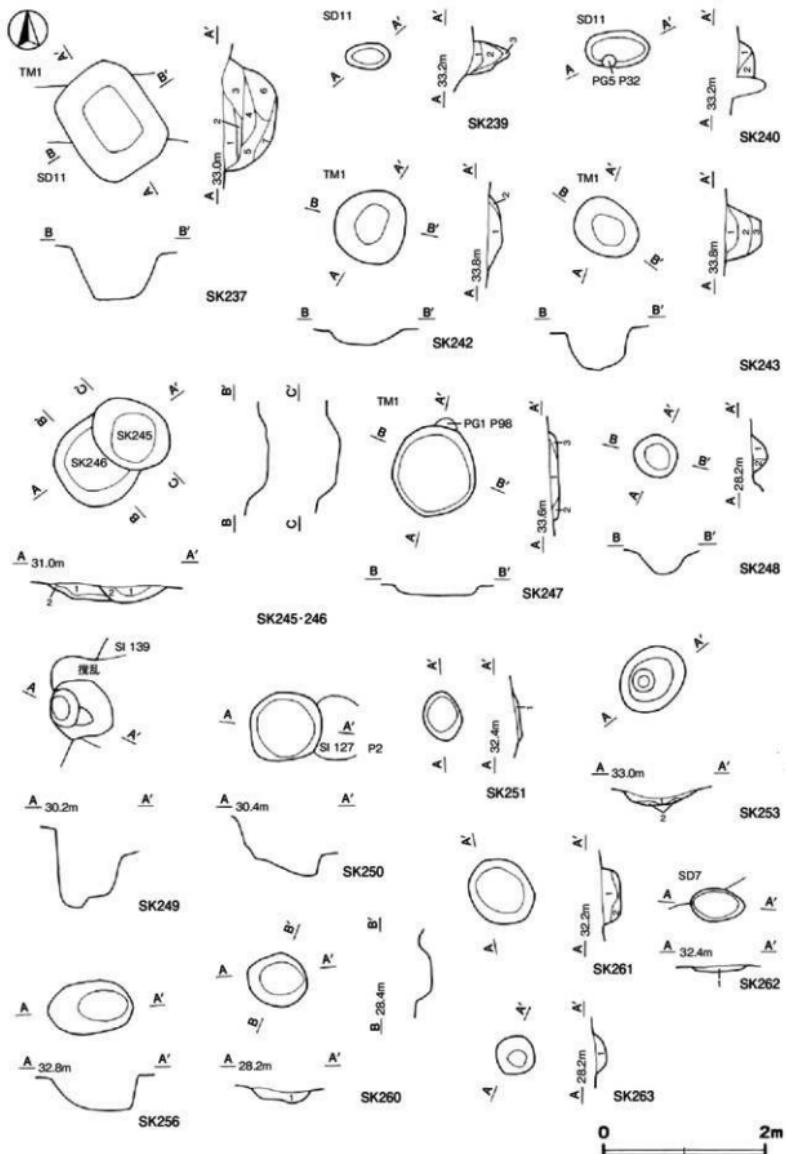
第297図 その他の土坑実測図 (8)



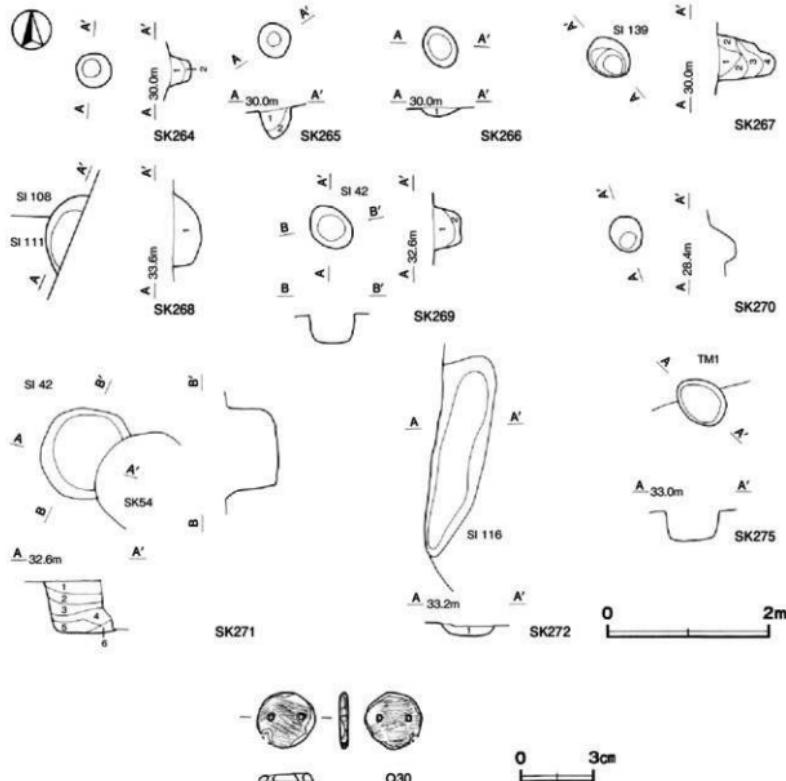
第298図 その他の土坑実測図 (9)



第299図 その他の土坑実測図 (10)



第300図 その他の土坑実測図 (11)



第301図 その他の土坑・出土遺物実測図

第34号土坑土層解説

- 1 暗褐色 塗土粒子・炭化粒子少量 ローム粒子微量
- 2 にい・黄褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第35号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・塗土粒子微量

第36号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量(第1層より明るい色調)

第37号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・塗土粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量 塗土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・塗土粒子・炭化粒子少量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量 塗土粒子・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・塗土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

第45号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 塗土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第46号土坑土層解説

- 1 暗褐色 塗土粒子・ロームブロック中量 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量 塗土粒子・炭化粒子少量

第 48 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 49 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 50 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

第 51 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 54 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子少量
- 4 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量、燒土粒子微量
- 6 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 8 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 10 極暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子少量

第 57 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 58 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量、燒土粒子少量

第 60 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量、燒土粒子少量

第 63 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バシミ少量、燒土粒子微量
- 2 オリーブ褐色 ロームブロック・鹿沼バシミ少量
- 3 オリーブ褐色 ロームブロック・鹿沼バシミ少量
- 4 オリーブ褐色 ロームブロック中量、鹿沼バシミ少量

第 64 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量（第 1 層より暗い色調）

第 65 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物微量

第 66 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・燒土粒子微量
- 4 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量

第 69 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、細縞微量

第 71 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 燃土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

第 72 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子・細縞微量、炭化粒子微量

第 74 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 75 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 中縞多量、燒土粒子少量
- 2 黑褐色 中縞、燒土粒子少量、炭化物微量

第 77 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・細縞少量

第 80 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 81 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第 87 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 90 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック少量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量

第 91 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物少量

第 92 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

第 93 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量
- 3 暗褐色 燃土ブロック多量、ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第 94 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 97 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 98 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第 99 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量

第 103 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 104 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

第 106 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 107 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量・焼土ブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 108 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第 109 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量

第 113 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量

第 114 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第 115 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 117 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

第 118 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量・ロームブロック微量

第 119 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子微量

第 120 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第 121 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 炭化粒子少量・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量・ロームブロック微量

第 122 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量・ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック微量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量・鹿沼バミス微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量

第 123 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 炭化粒子中量・焼土粒子微量
- 3 黑褐色 炭化粒子少量・ロームブロック微量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子多量・鹿沼バミス微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量

第 124 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量・炭化物微量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック中量・炭化物微量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 11 黑褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量
- 12 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量(第 10 層より明るい色調)
- 13 暗褐色 ロームブロック中量・炭化物微量

第 125 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 126 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量

第 129 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

第 131 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 132 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス微量

第 133 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量
- 5 明褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量

第 134 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第 135 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第 137 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少能・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第 138 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 139 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック多量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量・鹿沼バミス少量・焼土粒子微量

第 140 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子微量

第 142 号土坑土層解説

- 1 底 層 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子微量

第 143 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土粒子中量、ロームブロック少量

第 144 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、燒土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量、燒土粒子微量

第 145 号土坑土層解説

- 1 黄 褐 色 ローム粒子中量、鹿沼バミス少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黄 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子・鹿沼バミス微量
- 3 黄 褐 色 ローム粒子中量、鹿沼バミス微量

第 147 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黄 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 黄 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 148 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・燒土ブロック中量

第 150 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量、燒土粒子微量

第 152 号土坑土層解説

- 1 黄 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黄 褐 色 烧土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黄 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子・鹿沼バミス微量

第 154 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 155 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・燒土粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黄 褐 色 ロームブロック多量

第 156 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 158 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 159 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黄 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黄 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 160 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 烧土ブロック・ローム粒子少量

第 161 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 砂凝岩の小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 162 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化物・燒土粒子微量

第 164 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 明 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 172 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・燒土ブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量、細繩少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 174 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・燒土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 175 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 176 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黄 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 177 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 178 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・燒土粒子少量

第 179 号土坑土層解説

- 1 黄 褐 色 ロームブロック中量、燒土ブロック少量

第 180 号土坑土層解説

- 1 黄 褐 色 ローム粒子・鹿沼バミス微量
- 2 黄 褐 色 ロームブロック・燒土粒子微量

第 182 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 183 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・細繩少量

第 186 号土坑土層解説

- 1 黄 褐 色 鹿沼バミス少量、ロームブロック・燒土粒子微量
- 2 黄 褐 色 ローム粒子・鹿沼バミス少量
- 3 黄 褐 色 ローム粒子中量

第 188 号土坑土層解説

- 1 黄 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量、燒土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 189 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

第 191 号土坑土層解説

- 1 喀 褐 色 ロームブロック中量

第 197 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 揚 色 鹿沼バミス少量、ローム粒子・焼土粒子微量

第 198 号土坑土層解説

- 1 喀 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 200 号土坑土層解説

- 1 極暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 極暗 褐 色 焼土ブロック多量、粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 3 黑 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量

第 201 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 にい青褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

第 202 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス微量

第 203 号土坑土層解説

- 1 極暗 褐 色 今市・七本桜バミス少量
- 2 暗 褐 色 今市・七本桜バミス多量

第 206 号土坑土層解説

- 1 喀 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 揚 色 ロームブロック中量

第 207 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 烧土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 喀 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

第 208 号土坑土層解説

- 1 極暗 褐 色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 極暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 209 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第 210 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 211 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 喀 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 揚 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 213 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 215 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 喀 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 216 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 喀 褐 色 ロームブロック微量

第 217 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 喀 褐 色 炭化物・ローム粒子微量

第 219 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 喀 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 222 号土坑土層解説

- 1 喀 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 223 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 砂粒少量、今市・七本桜バミス微量
- 2 黑 褐 色 砂粒中量、今市・七本桜バミス微量
- 3 褐 色 今市・七本桜バミス中量
- 4 褐 色 砂粒多量
- 5 赤 褐 色 今市・七本桜バミス多量
- 6 明 褐 色 砂粒多量

第 224 号土坑土層解説

- 1 喀 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 喀 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 喀 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 225 号土坑土層解説

- 1 喀 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 226 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第 228 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子微量

第 229 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ローム粒子多量
- 5 喀 褐 色 ロームブロック少量

第 230 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量、黒色ブロック・炭化粒子少量、鹿沼バミス・焼土粒子微量
- 2 喀 褐 色 ロームブロック・黒色ブロック・炭化粒子少量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子・鹿沼バミス微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量、黒色ブロック・鹿沼バミス少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量、黒色ブロック少量、鹿沼バミス微量
- 6 褐 色 ロームブロック中量、黒色ブロック・鹿沼バミス微量
- 7 喀 褐 色 ロームブロック・鹿沼バミス少量、黒色ブロック微量
- 8 喀 褐 色 ロームブロック中量、黒色ブロック・鹿沼バミス微量

第 231 号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子微量

第 232 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 褐灰色 ロームブロック少量

第 234 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

第 235 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
2 極暗褐色 ロームブロック少量

第 236 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 極暗褐色 ロームブロック多量

第 237 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック少量
5 褐色 ロームブロック中量
6 暗褐色 ロームブロック中量
7 褐色 ロームブロック多量

第 239 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼バシス微量
2 黑褐色 鹿沼バシス少量、ローム粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子、鹿沼バシス少量

第 240 号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・鹿沼バシス少量
2 褐色 ローム粒子中量、鹿沼バシス微量

第 242 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

第 243 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 白色粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・鹿沼バシス微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、鹿沼バシス・白色粒子微量
3 黑褐色 ローム粒子、焼土粒子微量

第 245 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バシス微量
2 黑褐色 鹿沼バシス・赤色粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

第 246 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2 黑褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

第 247 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 黑褐色 ローム粒子少量

第 18 号土坑出土遺物觀察表 (第 301 図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	瓦孔円板	23	03	左:0.3 右:0.4	26	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	上層	PL60

第 248 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、中性少量
2 暗褐色 ロームブロック少量

第 251 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量

第 260 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 261 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 262 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

第 263 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 264 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第 265 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第 266 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第 267 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 焙土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック微量
3 黑褐色 ロームブロック少量
4 黑褐色 鹿沼バシス少量

第 268 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化物少量、ロームブロック微量

第 269 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 明褐色 ロームブロック少量

第 271 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
5 黑褐色 ローム粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック多量

第 272 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

表13 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面 (断面形)	横面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3	D 2d9	N - 30° - E	楕円形	140 × 120	46	平坦	直立	人為	縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片	SI 2 → TM 1 → 本跡
4	D 2e0	N - 43° - E	楕円形	0.56 × 0.50	22	調底状	傾斜	人為	弥生土器片、土師器片	TM 1 → 本跡
6	D 2a7	N - 2° - W	楕円形	158 × 0.65	26	平坦	外傾	人為	弥生土器片、土師器片	
8	D 2e7	-	円形	0.73 × 0.71	18	平坦	外傾	人為	土師器片	
9	D 2a7	N - 52° - E	不整楕円形	153 × 105	34	調底状	傾斜	人為	土師器片	
10	D 2j8	-	円形	2.10 × 1.97	75	中央部 高まり	直立 内湾	人為	縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片	本跡 → SI 8
14	D 2b6	N - 85° - E	隅丸長方形	123 × 1.08	24	平坦	傾斜	人為	縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片	SK17 → 18 → 本跡
17	D 2b6	N - 85° - E	〔楕円形〕	(0.95) × 1.03	33	平坦	傾斜	自然	縄文土器片、土師器片	本跡 → SK13 - 14
18	D 2b6	N - 90° - E	〔隅丸長方形〕	(1.47) × 1.26	26	平坦	傾斜	自然	弥生土器片、双孔内板	本跡 → SK14
19	D 2c9	N - 24° - W	楕円形	0.52 × 0.36	17	(盤状)	-	-		TM 1 と新田不明
20	D 2b6	N - 36° - W	不整楕円形	1.30 × 1.05	28	平坦	傾斜	人為	弥生土器片、土師器片	SI 2 → SK21 → 本跡
21	D 2b6	-	不明	(1.03) × 0.68	9	(盤状)	-	不明	縄文土器片	本跡 → SK20 - 23
24	D 2b5	N - 3° - E	楕円形	2.15 × 1.79	25	平坦	外傾	人為	縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片	SI 16, SK23 → 本跡
27	D 2g5	-	円形	2.00 × 1.92	34	凹凸	外傾	人為	縄文土器片、弥生土器片、土師器片	SI 32, SK30 → 本跡
31	D 2g4	N - 86° - E	〔楕円形〕	0.85 × (0.68)	15	傾斜	外傾	自然	土師器片	SK30 → 本跡 → SD 6
32	D 2b7	N - 6° - E	楕円形	0.63 × 0.57	32	平坦	直立	自然	弥生土器片、土師器片	SI 9 - 12 と新田不明
33	D 2e9	N - 34° - E	不整楕円形	1.00 × 0.90	20	平坦	傾斜	人為	土師器片	SI 2 → TM 1 → 本跡
34	D 2i7	-	円形	0.92 × 0.88	22	調底状	傾斜	自然	土師器片	SD20 → 本跡 PG 1 と新田不明
35	D 2d9	N - 74° - W	楕円形	0.70 × 0.62	5	(盤状)	-	自然	土師器片	SI 2, TM 1 → 本跡
36	C 2g5	N - 89° - W	楕円形	1.05 × 0.94	50	平坦	直立	人為	土師器片	SK37 → 本跡
37	C 2g5	-	円形	1.33 × 1.30	16	平坦	外傾	人為	弥生土器片、土師器片	本跡 → SK36
40	C 2b5	N - 28° - E	楕円形	0.95 × 0.85	9	(盤状)	-	人為	土師器片	
41	C 2b6	-	隅丸方形	2.37 × 2.25	28	凹凸	傾斜	人為	縄文土器片、弥生土器片、土師器片	
44	D 2i5	-	〔円形〕	(1.26 × 1.31)	43	平坦	直立	人為	縄文土器片、弥生土器片、土師器片	本跡 → SD 5
45	D 2d4	N - 0°	楕円形	0.74 × 0.64	32	調底状	外傾	人為	土師器片	SD 6 → 本跡
46	E 2i7	-	円形	1.34 × 1.25	20	平坦	外傾	人為	弥生土器片、土師器片、須恵器片	SH 2 → 本跡
48	D 2i4	N - 0°	長方形	1.02 × 0.80	20	平坦	外傾	人為	土師器片	
49	E 2e4	N - 14° - W	隅丸長方形	1.16 × 0.94	42	平坦	直立	人為		
50	E 1e0	-	円形	1.98 × 1.85	7	(盤状)	-	人為	弥生土器片、土師器片	
51	E 1f9	N - 27° - W	楕円形	0.69 × 0.52	14	(盤状)	-	人為	土師器片	
54	E 2g7	N - 36° - W	〔楕円形〕	(1.34 × 1.20)	54	平坦	直立	人為	弥生土器片、土師器片、須恵器片	SK271 → 本跡 → SI 42
57	E 2g7	-	円形	0.68 × 0.65	36	調底状	外傾	人為	弥生土器片、土師器片	SI 42 → 本跡
58	E 2i7	-	不定形	1.45 × 1.34	10	(盤状)	-	人為	弥生土器片、土師器片	SI 43, SK509 → 本跡 → SK60
60	E 2i7	N - 85° - W	楕円形	0.62 × 0.46	32	調底状	外傾	人為	弥生土器片、土師器片	SI 43, SK58 → 本跡
63	E 2b6	N - 18° - W	不整楕円形	5.08 × 1.93	20	(盤状)	-	人為	土師器片	
64	D 2i4	N - 7° - E	長方形	1.55 × 1.40	40	凹凸	外傾	人為	土師器片、須恵器片、砾石	SD 3 → 本跡
65	E 2b7	N - 9° - E	〔楕円形〕	[1.00] × 0.80	26	調底状	傾斜	人為	弥生土器片、土師器片	SI 43 - 73 → 本跡
66	E 2f8	N - 90° - E	〔隅丸長方形〕	0.89 × (0.53)	10	(盤状)	-	人為	土師器片	本跡 → SD 7
68	D 2i3	N - 6° - W	不整楕円形	2.40 × 1.36	12	(盤状)	-	-	縄文土器片、弥生土器片、土師器片	
69	F 2a3	N - 8° - E	楕円形	0.78 × 0.70	16	(盤状)	-	自然	縄文土器片、土師器片	
71	E 1h5	-	円形	0.86 × 0.79	12	(盤状)	-	人為	土師器片	SI 75 → 本跡
72	E 1i6	N - 88° - E	楕円形	0.80 × 0.70	6	(盤状)	-	自然	土師器片	
73	E 1i6	N - 19° - W	楕円形	0.67 × 0.54	10	(盤状)	-	-	土師器片	
74	E 2e8	N - 65° - W	楕円形	1.21 × 1.05	45	平坦	直立	人為	弥生土器片、土師器片、須恵器片	SH 1 - 2 → 本跡
75	F 2b3	-	円形	0.86 × 0.82	33	調底状	外傾	人為	弥生土器片、土師器片	
77	F 2a9	N - 15° - W	楕円形	0.77 × 0.58	21	傾斜	外傾	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		底面 (断面形)	磚面	覆 土	主な出土 遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
80	E 217	N - 11° - W	楕円形	0.96 × 0.82	22	平坦	紙絹	人為	土師器片	SH 5 → 本跡 → SK58
81	E 2g6	-	円形	0.41 × 0.41	10	(圓状)	-	不明		SD 5 → 本跡
83	E 1h5	N - 28° - W	楕丸長方形	0.64 × 0.54	10	(圓状)	-	-		SD75 → 本跡
84	E 1h7	-	円形	0.55 × 0.54	8	(圓状)	-	-		
85	E 1i6	N - 62° - E	楕円形	0.68 × 0.55	11	(圓状)	-	-		
86	E 1i7	N - 86° - W	楕円形	0.66 × 0.56	7	(圓状)	-	-		
87	E 2j8	-	[円形]	0.74 × 0.72	(30)	平坦	外縁	自然	弦生土器片、土師器片	本跡 → SD 8
90	E 1g9	N - 63° - E	長方形	0.91 × 0.76	10	(圓状)	-	人為	土師器片	
91	E 1h6	N - 21° - E	楕円形	0.69 × 0.59	15	(圓状)	-	人為	土師器片	SD68 → 本跡
92	E 2i6	N - 4° - W	[楕円形]	0.70 × 0.58	(14)	(圓状)	-	自然	土師器片	本跡 → SH43, SD 5
93	E 1g5	N - 8° - E	不整楕円形	1.18 × 0.97	20	圓底状	紙絹	人為	土師器片、須恵器片	SD99 → 本跡
94	E 2i9	N - 20° - W	楕円形	0.53 × 0.45	16	(圓状)	-	自然	土師器片	
96	E 1i7	N - 47° - W	楕円形	0.58 × 0.48	7	(圓状)	-	-		
97	F 2a4	N - 2° - W	楕円形	0.73 × 0.61	17	(圓状)	-	人為	土師器片	SD72 → 本跡
98	F 2a3	N - 84° - W	楕円形	0.51 × 0.42	26	凹凸	外縁	自然	土師器片	
99	E 2i0	-	円形	0.67 × 0.61	14	(圓状)	-	不明	弦生土器片、土師器片	
100	E 1h8	N - 75° - W	不整楕円形	0.54 × 0.47	9	(圓状)	-	-	須恵器片	
101	E 1h8	N - 74° - W	楕円形	0.61 × 0.47	30	圓底状	外縁	-		
103	F 2a5	-	円形	0.77 × 0.75	11	(圓状)	-	不明		SE56 · 61 → 本跡
104	F 2a5	-	円形	0.67 × 0.63	18	(圓状)	-	人為		SD99 → 本跡
106	E 1i6	N - 5° - W	楕円形	0.65 × 0.56	46	(U字状)	-	自然	土師器片	
107	E 2j6	N - 83° - E	不整楕円形	1.08 × 0.85	27	平坦	紙絹	人為	弦生土器片、土師器片、 須恵器片	SD60 · 61 → 本跡
108	E 1h9	N - 81° - E	[楕円形]	[0.92] × 0.67	17	(圓状)	-	自然	土師器片、陶器片	
109	E 2j4	N - 75° - W	楕円形	0.83 × 0.68	15	(圓状)	-	人為	土師器片	SD72 → 本跡
111	E 1h7	-	方形	0.51 × 0.50	8	(圓状)	-	-		
113	D 2a6	N - 75° - W	[楕円形]	0.75 × 0.89	(14)	(圓状)	-	人為	土師器片	本跡 → SH4 · 19
114	C 2f4	N - 65° - E	[楕円形]	(1.18 × 1.06)	(11)	(圓状)	-	人為		本跡 → SD26 SD26上部出土不明
115	E 2f9	N - 74° - E	[楕円形]	0.70 × (0.62)	6	(圓状)	-	不明	弦生土器片、土師器片、 須恵器片	本跡 → SD 7 · PG 4
117	E 3g2	N - 15° - E	楕丸長方形	0.46 × 0.38	12	(圓状)	-	自然		
118	E 3g2	-	円形	0.44 × 0.41	23	圓底状	紙絹	自然		
119	E 3g1	N - 46° - E	楕円形	0.54 × 0.48	18	圓底状	紙絹	自然		
120	E 2h9	N - 38° - W	[楕円形]	[0.92] × 0.780	(18)	(圓状)	-	自然	弦生土器片、土師器片	本跡 → S163
121	E 2g9	N - 10° - E	楕円形	0.89 × 0.73	11	(圓状)	-	人為		
122	E 2d8	N - 78° - E	楕円形	1.21 × 0.64	56	二段	外縁 紙絹	人為		SH 1 と新出不明
123	E 2g9	-	円形	2.02 × 1.90	19	(圓状)	-	人為	磚文土器片、弦生土器片、 土師器片	本跡 → PG 4
124	E 2f8	-	[円形]	(2.23 × 2.15)	(53)	平坦	直立	人為	磚文土器片、弦生土器片、 土師器片	本跡 → SH 2 · 6
125	C 2i7	N - 48° - E	楕円形	0.74 × 0.57	25	(圓状)	-	人為	弦生土器片、土師器片	SD91 → 本跡
126	C 2i7	N - 25° - W	楕円形	0.48 × 0.43	9	(圓状)	-	人為		SD91 → 本跡
129	D 2j7	-	円形	0.83 × 0.81	35	平坦	紙絹	人為		SD6 · 37 → 本跡
131	E 2d8	N - 3° - E	楕円形	0.67 × 0.52	20	圓底状	紙絹	自然		
132	D 2j6	-	円形	0.63 × 0.59	30	圓底状	紙絹	自然		SD6 · 37 → 本跡
133	E 2d8	N - 3° - E	楕円形	1.72 × 1.53	36	平坦	直立	人為	弦生土器片、土師器片	SD91 → 本跡
134	D 2b4	N - 66° - E	楕円形	0.87 × 0.64	77	平坦	直立	人為	弦生土器片、土師器片	SD97 → 本跡
135	D 2a3	N - 17° - E	[楕円形]	[0.93 × 0.81]	(20)	圓底状	紙絹	自然	磚文土器片、弦生土器片、 土師器片	本跡 → S83, SD 6 SD76 と新出不明
137	E 2a8	-	楕丸長方形	1.59 × 1.52	25	平坦	外縁	自然	磚文土器片、弦生土器片、 土師器片	SD49 · 120, PG 1 → 本跡
138	D 2b4	-	円形	0.48 × 0.46	18	(圓状)	-	人為		SD87 → 本跡
139	C 2g7	N - 79° - E	[楕円形]	(1.54 × 1.20)	(31)	凹凸	紙絹	人為	土師器片	本跡 → S182

番号	位置	長径方向	平面形	幾 條		底面 (断面形)	壁面	覆 土	主な出土 遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
140	D 2e5	-	円形	0.55 × 0.50	27	調底状	外傾	人為	土器片	SI23・51 → 本跡
142	E 2b7	N - 14° - W	〔楕円形〕	0.95 × 0.78	(33)	平坦	傾斜	人為	土器片	SI29・49 → 本跡 → SI104
143	E 2b7	-	〔不整円形〕	1.00 × 0.92	(10)	〔圓状〕	-	人為	土器片	本跡・SH 4
144	D 2d4	-	〔円形〕	1.06 × 1.04	(26)	調底状	外傾	人為	陶文土器片、弦生土器片、土器片	SK198 → 本跡 → SI25
145	E 2a7	N - 66° - W	楕円形	0.68 × 0.56	35	調底状	傾斜	人為		SI36・37・49 → 本跡
147	D 2j9	N - 0°	楕円形	0.69 × 0.58	49	〔U字状〕	-	人為		SI105・124 と 新田不明
148	C 2f6	N - 63° - W	楕円形	0.56 × 0.49	11	〔圓状〕	-	人為	土器片	SI48 → 本跡
150	C 2f6	N - 27° - E	楕円形	0.89 × 0.73	13	〔圓状〕	-	人為	土器片	SI48 → 本跡
152	E 2a0	N - 26° - W	楕円形	0.75 × 0.63	19	平坦	傾斜	人為	陶文土器片、土器片	SI105 と 新田不明
154	C 2f6	N - 31° - W	〔楕円形〕	1.04 × (0.75)	49	凹凸	外傾	人為		SI65 → 本跡
155	D 3b3	-	〔円形〕	0.86 × (0.46)	8	〔圓状〕	-	人為		本跡・SI112 TM 1 と 新田不明
156	C 2f6	-	円形	0.43 × 0.42	8	〔圓状〕	-	人為		SI48 → 本跡
158	E 2a9	-	〔円形〕	1.67 × (0.87)	54	調底状	直立	人為	弦生土器片、土器片、 壺型器片	SI110 → 本跡
159	D 2j9	-	円形	0.62 × 0.57	47	調底状	傾斜	自然		SI100・124 と 新田不明
160	D 2j9	N - 82° - E	楕円形	0.55 × 0.49	21	調底状	傾斜	自然		SI100 → 本跡
161	D 3i1	N - 58° - E	〔不定形〕	0.56 × 0.46	(30)	二段	直立	自然		本跡・SI108
162	E 2a0	N - 8° - W	〔楕円形〕	1.05 × 0.91	(20)	平坦	傾斜	自然		本跡・SI105
164	D 2j0	N - 83° - W	楕円形	0.79 × 0.59	60	〔U字状〕	-	人為		SI124 → 本跡
171	D 2b6	-	円形	1.46 × 1.41	72	凹凸	直立	-	土器片	
172	B 2i8	N - 3° - W	〔円形 楕円形〕	1.40 × 0.86	35	調底状	傾斜	人為	土器片	SI118・147 → 本跡・SI119
174	B 2i9	N - 48° - E	楕円形	1.65 × 1.45	22	平坦	外傾	人為	土器片、壺型器片、細器片	
175	B 3e4	N - 20° - W	楕円形	1.10 × 0.52	43	平坦	外傾	人為		SI88 → 本跡
176	E 2b8	-	〔円形〕	1.69 × 1.58	48	平坦	直立	人為	弦生土器片、土器片	本跡・SI110
177	E 2b9	N - 32° - W	〔不定形〕	0.68 × 0.51	16	平坦	外傾	自然	土器片	本跡・SI116
178	C 2e5	N - 22° - E	〔円形 楕円形〕	1.55 × (0.28)	46	平坦	直立	人為	土器片	SI84・SK179 → 本跡
179	C 2e5	N - 33° - W	〔楕円形〕	0.60 × (0.46)	18	〔圓状〕	-	人為		SI84 → 本跡 → SK178
180	D 2d6	N - 59° - W	〔楕円形〕	0.74 × 0.59	(25)	平坦	外傾	人為		本跡・SI10
182	B 3e4	-	円形	0.56 × 0.55	32	平坦	外傾	人為		SI88 → 本跡
183	B 2j8	N - 5° - E	〔圓丸方形容〕	0.84 × (0.48)	32	傾斜	外傾	人為	弦生土器片、土器片	SI117・118 → 本跡
186	D 2b4	-	〔円形〕	0.70 × 0.66	(46)	二段	外傾	自然		本跡・SI18
188	D 2a4	N - 19° - E	楕円形	0.86 × 0.67	23	平坦	傾斜	自然		SI18・19 → 本跡 → SK189
189	D 2a4	N - 58° - W	楕円形	0.75 × 0.52	42	平坦	外傾	自然	陶文土器片、土器片	SI18・19 SK188 → 本跡
191	B 3f2	N - 66° - W	〔不定形〕	0.78 × 0.61	20	二段	傾斜	人為		本跡・SI131
197	C 2j4	N - 58° - E	〔楕円形〕	0.57 × 0.48	10	〔圓状〕	-	自然		本跡・SI20 SI21・19 と 新田不明
198	D 2d5	N - 18° - W	〔楕円形〕	2.31 × 2.00	40	平坦	直立	人為	土器片、鉄滓	本跡・SI25・ 51・SK144・201
200	C 3b5	N - 33° - W	楕円形	0.80 × 0.54	47	平坦	外傾	人為	土器片	SI142・SH 7 → 本跡
201	D 2d4	-	〔円形〕	0.70 × 0.68	9	〔圓状〕	-	自然		SI198 → 本跡 → SI24・25 TM 1 と 本跡 → SI37
202	D 2g9	N - 3° - E	〔圓丸方形容〕	1.26 × 1.01	16	平坦	傾斜	自然	土器片	TM 1 と 本跡 → SI37
203	C 3d5	N - 74° - W	〔円形 楕円形〕	0.62 × (0.52)	35	調底状	外傾	自然		
206	B 3i3	N - 88° - E	楕円形	0.53 × 0.47	18	平坦	外傾	人為		SI132 → 本跡
207	D 2d6	N - 85° - E	〔楕円形〕	0.49 × 0.39	20	平坦	外傾	自然	土器片、壺型器片	本跡・SI10
208	C 3h3	N - 86° - W	圓丸長方形	1.78 × 1.12	18	平坦	外傾	人為		TM 1・SH 44. → 本跡
209	D 3f1	N - 68° - W	楕円形	1.00 × 0.65	24	調底状	傾斜	自然	弦生土器片、土器片	TM 1・PG 1 と 新田不明
210	D 3g2	N - 4° - E	楕円形	1.18 × 1.04	39	平坦	直立	人為	土器片	TM 1 と 新田不明
211	D 3f2	-	円形	1.10 × 1.05	48	平坦	直立	人為	刀子	TM 1 → 本跡
213	D 2e7	N - 35° - W	〔楕円形〕	0.43 × 0.42	6	〔圓状〕	-	自然		TM 1 → 本跡 → SK216
215	D 2b8	N - 18° - E	楕円形	1.00 × 0.71	30	調底状	傾斜	人為		TM 1 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面 (断面形)	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (mm)	深さ (cm)					
216	D 2 e7	N - 35° - W	楕円形	0.64 × 0.40	22	楕底状	板斜	自然		TM 1 → SK213 → 本跡
217	D 2 e7	N - 30° - E	楕円形	0.75 × 0.51	20	楕底状	板斜	自然		TM 1 → 本跡
219	D 3 g1	N - 55° - W	〔楕円形〕	(1.07 × 0.80)	18	楕底状	板斜	自然	弥生土器片、土師器片	TM 1 → 本跡 → SH15・12F・1B
222	D 3 f1	N - 5° - W	楕円形	0.61 × 0.49	17	平坦	外傾	人為	弥生土器片、土師器片	TM 1 と新田不明
223	C 2 d0	N - 49° - E	不定形	1.70 × 0.97	54	楕底状	外傾	人為	磨石	
224	D 3 f1	N - 44° - E	楕丸長方形	1.64 × 1.25	32	平坦	外傾	人為	弥生土器片、土師器片	TM 1 と新田不明
225	D 2 b0	-	円形	1.01 × 0.99	14	〔皿状〕	-	人為	弥生土器片、土師器片	SK226 → 本跡
226	D 2 b0	-	不明	0.83 × 0.21	13	〔皿状〕	-	人為		本跡 → SK225
228	C 3 d1	N - 7° - E	楕円形	1.32 × 1.06	50	平坦	外傾	自然		
229	D 2 c7	N - 33° - E	楕円形	0.73 × 0.64	35	楕底状	外傾	人為	弥生土器片	PG 1 と新田不明
230	D 3 e2	N - 79° - W	〔長方形〕	(1.96 × 1.60)	64	平坦	直立	人為	土師器片	本跡 → SD 4 → TM 1 と新田不明
231	C 3 g1	N - 13° - E	〔円形 楕円形〕	(0.96 × 0.28)	18	平坦	外傾 板斜	人為		
232	C 2 j0	-	円形	0.56 × 0.52	13	〔皿状〕	-	人為		TM 1 → 本跡
234	C 3 e4	N - 35° - E	楕丸長方形	0.85 × 0.77	16	〔皿状〕	-	自然	弥生土器片、土師器片	
235	B 3 e6	N - 70° - W	楕円形	0.82 × 0.64	34	平坦	外傾	人為		SK236 → 本跡 → PG 6
236	B 3 d6	N - 62° - W	〔楕円形〕	0.56 × (0.48)	30	楕底状	外傾	人為		本跡 → SK235
237	C 3 i4	N - 33° - W	楕丸長方形	1.37 × 1.08	65	平坦	外傾	人為		TM 1, SD11 → 本跡
239	C 3 j4	N - 90°	楕円形	0.55 × 0.31	52	(U字状)	-	自然		SD11 → 本跡 TM 1 → 本跡 → PG 3
240	C 3 j3	N - 90°	楕円形	0.78 × 0.46	30	平坦	外傾	人為		SK236 → PG 5 TM 1 と新田不明
242	D 3 a3	-	円形	0.90 × 0.90	19	楕底状	板斜	人為		TM 1 と新田不明
243	D 3 a3	N - 50° - W	楕円形	0.83 × 0.68	49	楕底状	外傾	自然		TM 1 と新田不明
245	C 3 e4	N - 44° - W	楕円形	1.02 × 0.83	20	平坦	外傾	自然		SK246 → 本跡
246	C 3 e3	N - 40° - W	〔円形 楕円形〕	1.05 × (0.64)	20	楕底状	外傾	自然		本跡 → SK245
247	D 3 f1	-	円形	1.09 × 1.05	12	〔皿状〕	-	自然		PG 1 → 本跡 TM 1 と新田不明
248	B 3 e7	-	円形	0.53 × 0.53	24	楕底状	外傾	人為	土師器片	
249	C 3 b1	N - 64° - W	楕円形	0.84 × 0.72	72	(U字状)	-	-	縄文土器片、弥生土器片、 土師器片	SH39 → 本跡
250	B 2 j0	-	円形	0.88 × 0.86	28	楕底状	外傾	-		SH27 → 本跡
251	E 2 f0	N - 9° - W	楕円形	0.60 × 0.46	5	〔皿状〕	-	自然		
253	E 2 d8	N - 47° - E	楕円形	0.90 × 0.70	10	〔皿状〕	-	人為	弥生土器片、土師器片	
256	E 2 d8	N - 85° - E	楕円形	1.06 × 0.64	40	平坦	外傾 板斜	-	弥生土器片、土師器片、 埴輪片	
260	B 3 d6	N - 83° - W	楕円形	0.75 × 0.66	18	平坦	板斜	人為		
261	E 2 g0	N - 36° - W	楕円形	0.88 × 0.72	24	平坦	外傾	自然	土師器片	
262	E 2 g0	N - 84° - W	楕円形	0.65 × 0.40	7	〔皿状〕	-	自然		SD 7 → 本跡
263	B 3 e7	-	円形	0.47 × 0.47	12	〔皿状〕	-	人為	土師器片	
264	B 2 g0	-	円形	0.42 × 0.40	24	(U字状)	-	人為	弥生土器片、土師器片	
265	B 2 g0	N - 0°	楕円形	0.44 × 0.29	34	(U字状)	-	人為		
266	B 2 b0	N - 32° - W	楕円形	0.54 × 0.40	9	〔皿状〕	-	人為		
267	C 3 b1	N - 55° - W	楕円形	0.56 × 0.48	68	平坦	直立	人為		SH39 → 本跡
268	D 3 i1	N - 23° - E	〔円形 楕円形〕	(1.05 × 0.35)	32	楕底状	外傾 板斜	自然		SH08・111 → 本跡
269	E 2 g0	N - 50° - W	楕円形	0.60 × 0.47	35	平坦	直立	自然		SH42 → 本跡
270	B 3 d6	N - 27° - W	楕円形	0.46 × 0.41	30	平坦	板斜	-	土師器片	
271	E 2 g0	-	〔円瓶〕	(1.12 × 1.08)	62	平坦	直立	人為	土師器片	本跡 → SH42, SK54
272	E 2 b8	N - 14° - E	〔楕円形〕	(2.60 × 0.65)	12	〔皿状〕	-	人為	縄文土器片、弥生土器片、 土師器片	本跡 → SH116
273	B 2 j0	N - 77° - W	楕円形	1.26 × 0.78	28	楕底状	板斜	人為	縄文土器片、弥生土器片、 土師器片	
274	C 3 e5	N - 15° - E	楕円形	1.33 × 0.88	28	楕底状	板斜	人為	土師器片	
275	C 3 j2	N - 46° - W	楕円形	1.32 × 1.08	38	平坦	直立	-		TM 1 → 本跡 SF 1 と新田不明

(5) 溝跡(第302・303図)

今回の調査で、時期不明の溝跡12条を確認した。以下、断面図と土層解説、一覧表を掲載し、平面図については遺構全体図(付図)で掲載する。

第1号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

第3号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒 褐 色 ロームブロック微量
4 黒 褐 色 ロームブロック少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量
6 黒 褐 色 ロームブロック中量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 褐 色 ロームブロック少量
3 褐 色 ロームブロック中量
4 褐 色 ロームブロック多量
5 褐 色 ロームブロック多量(第4層より暗い色調)
6 黒 褐 色 ロームブロック少量

第6号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
4 黑 褐 色 ロームブロック中量

第7号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 黑 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黑 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

第8号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量
2 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 黑 褐 色 細緻少量、ローム粒子微量
4 黑 褐 色 細緻中量、ローム粒子・焼土粒子微量

第10号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 中澤少量、ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黑 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
5 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
6 褐 色 ロームブロック中量
7 黑 褐 色 ロームブロック少量
8 黑 褐 色 ロームブロック中量
9 黑 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

第11号溝跡土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
3 黑 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・糞沼バミス微量

第12号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック微量

第13号溝跡土層解説

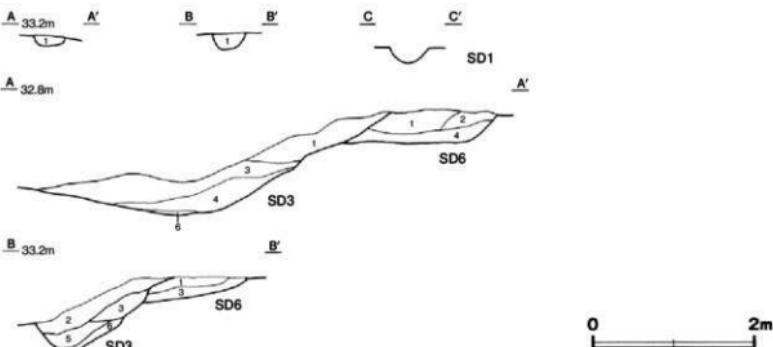
- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黑 褐 色 ロームブロック微量
4 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
5 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
6 黑 褐 色 ロームブロック少量

第14号溝跡土層解説

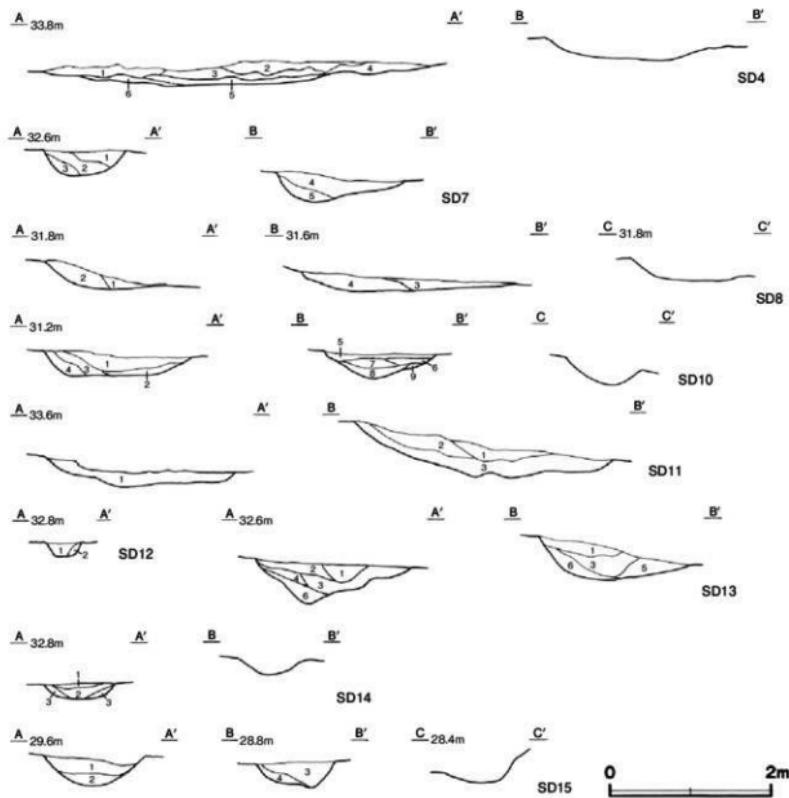
- 1 黑 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
3 黑 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第15号溝跡土層解説

- 1 黑 褐 色 細緻中量、ロームブロック少量
2 黑 褐 色 ロームブロック・細緻少量
3 黑 褐 色 ロームブロック少量
4 褐 色 ロームブロック中量



第302図 その他の溝跡実測図



第303図 その他の溝跡、第3・13・15号溝跡出土遺物実測図

第3号溝跡出土遺物観察表（第303図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎・釉・薬	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
487	磁器	瓶	-	(1.3)	[42]	緻密 透明	灰白	良好	見込二重円に五弁花文 路二重角に溝描	北部覆土中	10%

第13号溝跡出土遺物観察表（第303図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	鏡面	7.4	10.6	1.8	303.4	鉄	中央部に鑿穴 全面裏面により色調不明	上層	

第15号溝跡出土遺物観察表（第303図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
G 1	ガラス器皿	蓋	-	(24)	-	(32.4)	透明	つまみに合わせ目が残存 ガラス内に気泡	下層	90%

表14 その他の溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	形 状	規 模			胎 面	釉 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長さ(cm)	上幅(cm)	下幅(cm)					
1	D 2.8 ~ D 2.5	N - 59° - E	直線	(14.6)	32 ~ 50	13 ~ 26	19	U字状	被斜	人為	陶土器片、瓦片土器片、瓦片 SI 1, SK 7, SD 6, PG 1 → 本跡
3	D 2.8 ~ E 2.6	N - 15° - W	直線	(71.4)	54 ~ 220	16 ~ 56	54	U字状	被斜	自然	陶土器片、瓦片 土器片、瓦片 SI 64, SD 6 → 本跡
4	D 2.0 ~ D 3.0	-	弧状	(21.0)	132 ~ 230	60 ~ 114	20	匂い U字状	被斜	人為	陶土器片、瓦片土器片、瓦片 SI 1 → 本跡 → SK 220 土器片、瓦片 SI 6, SD 1 → 新泊不明
6	C 2.3 ~ D 2.5	N - 15° - W	直線	(40.8)	78 ~ 196	-	26	[U字状]	被斜	人為	土器片、微窓器片、 SI 6, 21, 26, 32, 33, SI 7, 8, 9, 10, SD 1, 3, SD 2, 3 → SK 1, 5
7	E 2.0 ~ E 2.6	N - 20° - E	L字状	20.2	30 ~ 116	14 ~ 30	15 ~ 30	U字状	被斜	人為	赤土器片、土器片、 SI 42, 51, SK 66, 115, SD 1, 2, 3 → 本跡 → SK 282
8	E 3.0 ~ F 2.6	N - 75° - E	L字状	(36.0)	102 ~ 220	20 ~ 105	24 ~ 36	匂い U字状	被斜	自然	陶土器片、土器片、 SI 30, 60 ~ 62, PG 1, SD 3 → 本跡 → SK 97
10	C 2.8 ~ C 2.6	N - 40° - W	直線	(10.4)	34 ~ 56	34 ~ 56	26	U字状	被斜	人為	陶土器片、瓦片土器片、 SI 87, 122, 125 → 本跡
11	C 3.0 ~ C 3.4	N - 46° - W	L字状	(13.0)	38 ~ 80	38 ~ 80	28	匂い U字状	被斜	自然	陶土器片、瓦片土器片、 SI 1, 2, 3, 4, 5, SK 227, 229, SD 1, 2, 3 → 本跡 → TM 1
12	C 2.0 ~ C 3.2	N - 44° - E	直線	9.20	12 ~ 30	12 ~ 30	32	U字状	外模	自然	陶土器片、瓦片土器片、 SI 1, 2, 3, 4, 5, SK 227, 229, SD 1, 2, 3 → 本跡 → TM 1
13	C 2.8 ~ C 3.0	N - 32° - W	L字状	(15.0)	34 ~ 60	34 ~ 60	88 ~ 98	U字状	外模	人為	土器片、瓦片土器片、 SI 1, 2, 3, 4, 5, SK 227, 229, SD 1, 2, 3 → 本跡 → TM 1
14	C 3.0 ~ C 3.2	N - 55° - E	直線	(14.0)	18 ~ 30	18 ~ 30	38	U字状	被斜	自然	SI 1, 2, 3, 4, 5, SK 227, 229, SD 1, 2, 3 → 本跡 → TM 1
15	B 3.0 ~ B 3.6	N - 49° - W	ランクR	(36.5)	22 ~ 52	22 ~ 52	20 ~ 66	U字状	被斜	人為	ガラス蓋 PG 6 → 本跡

(6) ピット群

第2号ピット群（第304図）

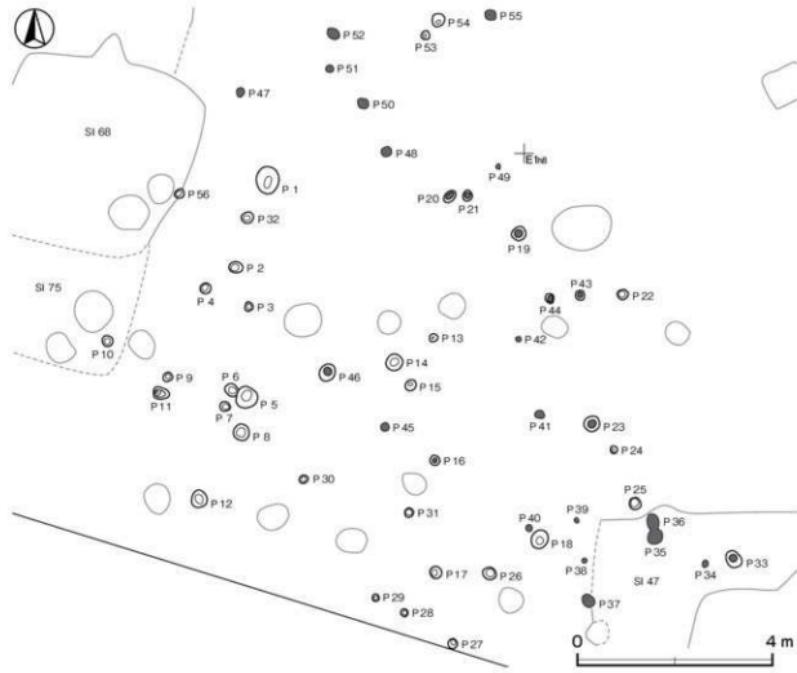
位置 調査区南部の標高30mの台地縁辺部、E 1g6 ~ E 1j9区にかけての南北13m、東西14mの範囲から、柱穴状のピット56か所を確認した。

重複関係 第47・68・75号住居跡を掘り込んでいる。

規模 平面形は長径16~56cm、短径15~46cmの円形または梢円形で、深さは2~48cmである。なお、P 16, P 19 ~ P 21, P 23, P 33 ~ P 52, P 55は、柱のあたりとみられる円形または梢円形の硬化範囲が露出した状態で確認されているため、深さは不明である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況 土師器片5点（坏1・高台付椀1・甕類3）がP 1・P 2・P 19・P 23・P 50から出土している。いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第304図 第2号ピット群実測図

第2号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	E 1h6	楕円形	56	46	19
2	E 1h6	楕円形	30	24	28
3	E 1h6	楕円形	20	17	21
4	E 1h6	円形	23	22	29
5	E 1i6	円形	44	44	37
6	E 1i6	楕円形	29	25	28
7	E 1i6	楕円形	24	21	26
8	E 1i6	円形	34	34	28
9	E 1i6	円形	20	20	32
10	E 1h5	円形	21	24	41
11	E 1i6	楕円形	35	26	48
12	E 1i6	円形	36	34	30
13	E 1h7	楕円形	20	18	13
14	E 1i7	円形	36	35	23
15	E 1i7	楕円形	25	22	15
16	E 1i7	円形	21	21	5

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
17	E 1 i7	楕円形	27	24	12
18	E 1 i8	楕円形	40	35	10
19	E 1 i7	円形	30	29	14
20	E 1 i7	楕円形	31	18	4
21	E 1 i7	円形	22	20	3
22	E 1 i8	楕円形	25	22	3
23	E 1 i8	円形	34	32	13
24	E 1 i8	楕円形	18	16	3
25	E 1 i8	円形	26	26	3
26	E 1 i7	楕円形	30	26	7
27	E 1 i7	円形	22	20	10
28	E 1 i7	円形	16	16	4
29	E 1 i7	円形	16	15	5
30	E 1 i6	円形	19	18	9
31	E 1 i7	円形	20	20	5
32	E 1 i6	楕円形	27	22	11

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
33	E 1 i9	楕円形	38	30	2
34	E 1 i8	【楕円形】	(17)	(12)	-
35	E 1 i8	【円形】	(33)	(30)	-
36	E 1 i8	【楕円形】	(31)	(24)	-
37	E 1 i8	【楕円形】	(30)	(24)	-
38	E 1 i8	【円形】	(11)	(11)	-
39	E 1 i8	【楕円形】	(12)	(10)	-
40	E 1 i8	【円形】	(15)	(14)	-
41	E 1 i8	【楕円形】	(22)	(19)	-
42	E 1 h7	【円形】	(12)	(11)	-
43	E 1 h8	楕円形	21	19	12
44	E 1 h8	楕円形	21	19	7
45	E 1 i7	【円形】	(19)	(18)	-
46	E 1 i6	楕円形	38	33	21
47	E 1 g6	【楕円形】	(20)	(17)	-
48	E 1 g7	【円形】	(22)	(22)	-

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
49	E 1 b7	〔円形〕	(11)	(10)	-
50	E 1 g7	〔楕円形〕	(27)	(24)	-
51	E 1 g7	〔円形〕	(17)	(16)	-

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
52	E 1 g7	〔楕円形〕	(29)	(21)	-
53	E 1 g7	円形	19	19	14
54	E 1 g7	円形	30	28	23

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
55	E 1 g7	〔円形〕	(25)	(24)	-
56	E 1 b6	円形	22	20	4

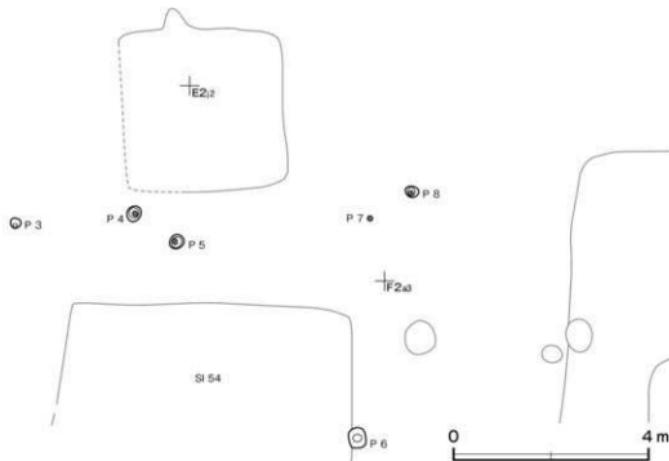
第3号ピット群（第305図）

位置 調査区南部の標高30mの台地縁辺部、E 1 i0～F 2 a2区にかけての南北11m、東西10mの範囲から、柱穴状のピット8か所を確認した。

重複関係 第54号住居跡を掘り込んでいる。

規模 平面形は長径18～44cm、短径17～39cmの円形または楕円形で、深さは2～23cmである。なお、P 1・P 2・P 4・P 5・P 7・P 8は、柱のあたりとみられる円形または楕円形の硬化範囲が露出した状態で確認されているため、深さは不明である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 遺物が出土しておらず、時期・性格ともに不明である。



第305図 第3号ピット群実測図

第3号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	E 1 i0	〔楕円形〕	(16)	(14)	-
2	E 1 i0	円形	18	17	5
3	E 2 j1	円形	22	22	23

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
4	E 2 j1	楕円形	36	30	13
5	E 2 j1	楕円形	32	28	6
6	F 2 a2	楕円形	44	39	15

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
7	E 2 j2	〔円形〕	(12)	(11)	-
8	E 2 j3	楕円形	30	24	2

第4号ピット群（第306図）

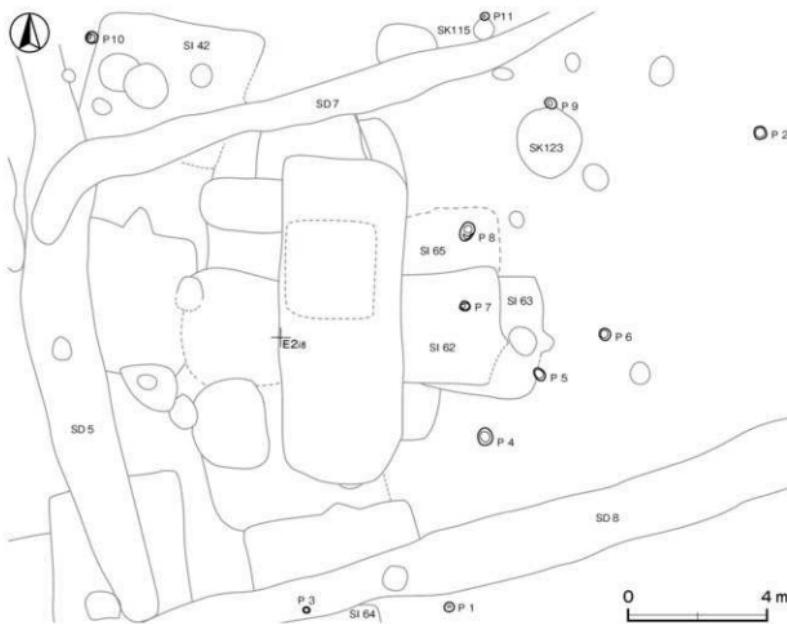
位置 調査区南部の標高32mの緩斜面部、E 2 16～E 2 19区にかけての南北17m、東西19mの範囲から、柱穴状のピット11か所を確認した。

重複関係 第42・62・63・65号住居跡、第115・123土坑を掘り込み、第8号溝に掘り込まれている。

規模 平面形は長径24～58cm、短径24～40cmの円形または椭円形で、深さは15～49cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況 土師器片7点（壺3、甕類4）がP 4・P 5から出土している。

所見 時期・性格ともに不明である。



第306図 第4号ピット群実測図

第4号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	E 2 19	円形	30	28	31
2	E 3 gl	円形	37	37	24
3	E 2 j8	【椭円形】	(23)	(20)	(8)
4	E 2 19	椭円形	48	40	16

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
5	E 2 19	椭円形	42	32	24
6	E 2 b0	円形	35	32	46
7	E 2 b9	円形	32	30	38
8	E 2 b9	椭円形	38	40	49

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
9	E 2 g9	椭円形	37	31	25
10	E 2 16	円形	38	35	35
11	E 2 19	円形	24	24	15

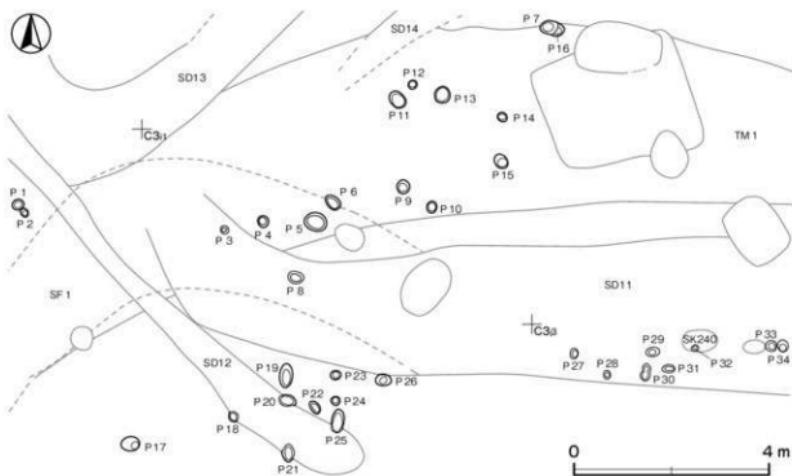
第5号ピット群（第307図）

位置 調査区北部の標高32～33mの平坦な台地上、C 2i0～C 3j4区にかけての南北9m、東西16mの範囲から、柱穴状のピット34か所を確認した。

重複関係 第1号墳、第240号土坑を掘り込み、第11・12号溝に掘り込まれている。また、第1号道路跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 平面形は長径18～50cm、短径16～40cmの円形または梢円形で、深さは17～90cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 遺物が出土しておらず、時期・性格ともに不明である。



第307図 第5号ピット群実測図

第5号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 2i0	円形	24	23	43
2	C 2i0	梢円形	20	16	42
3	C 3i1	〔円形〕	(18)	(18)	(62)
4	C 3i1	円形	24	24	53
5	C 3i1	梢円形	50	40	56
6	C 3i1	梢円形	38	26	46
7	C 3i2	梢円形	36	28	40
8	C 3i2	〔梢円形〕	(34)	(28)	(36)
9	C 3i2	円形	28	28	52
10	C 3i2	円形	25	24	17
11	C 3i2	梢円形	38	30	56
12	C 3i2	円形	18	17	49

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
13	C 3i2	梢円形	36	32	34
14	C 3i2	梢円形	24	20	49
15	C 3i2	梢円形	31	26	45
16	C 3i3	〔梢円形〕	(26)	(18)	24
17	C 3i0	梢円形	40	30	60
18	C 3i1	〔円形〕	(20)	(20)	(40)
19	C 3i1	梢円形	50	26	86
20	C 3i1	〔梢円形〕	(35)	(24)	83
21	C 3i1	〔梢円形〕	(38)	(23)	(37)
22	C 3i1	梢円形	30	18	70
23	C 3i1	円形	23	22	81
24	C 3i1	円形	20	19	90

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
25	C 3i2	〔梢円形〕	(51)	27	83
26	C 3i2	梢円形	32	25	77
27	C 3i3	〔梢円形〕	(24)	(18)	(50)
28	C 3i3	〔梢円形〕	(18)	(15)	(35)
29	C 3i3	〔梢円形〕	(32)	(20)	(41)
30	C 3i3	〔梢円形〕	(36)	(23)	(45)
31	C 3i3	〔梢円形〕	(28)	(18)	(42)
32	C 3i3	〔梢円形〕	(16)	(14)	(45)
33	C 3i4	〔梢円形〕	(25)	(22)	(38)
34	C 3i4	〔円形〕	(16)	(16)	(24)

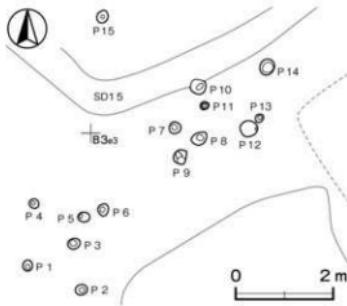
第6号ビット群（第308図）

位置 調査区北部の標高 29 m の緩斜面部、B 3 d3 ~ B 3 e2 区にかけての南北 6 m、東西 6 m の範囲から、柱穴状のビット 15か所を確認した。

重複関係 第 15 号溝に掘り込まれている。

規模 平面形は長径 19 ~ 37 cm、短径 18 ~ 35 cm の円形又は楕円形で、深さは 47 ~ 126 cm である。ビットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 遺物が出土しておらず、時期・性格ともに不明である。



第308図 第6号ビット群実測図

第6号ビット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 3 e2	楕円形	25	22	60
2	B 3 e2	円形	25	24	101
3	B 3 e2	円形	27	25	126
4	B 3 e2	円形	21	21	55
5	B 3 e2	楕円形	25	21	76

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
6	B 3 e3	円形	25	24	74
7	B 3 d3	円形	26	25	69
8	B 3 e3	楕円形	32	27	89
9	B 3 e3	楕円形	30	26	73
10	B 3 d3	[円形]	32	(31)	71

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	B 3 d3	円形	19	19	73
12	B 3 d3	円形	37	35	96
13	B 3 d3	楕円形	21	18	71
14	B 3 d3	円形	34	31	108
15	B 3 d3	楕円形	29	25	47

第7号ビット群（第309図）

位置 調査区北部の標高 28 m の緩斜面部、B 3 c6 区 ~ B 3 e6 区にかけての南北 6 m、東西 4 m の範囲から、柱穴状のビット 20か所を確認した。

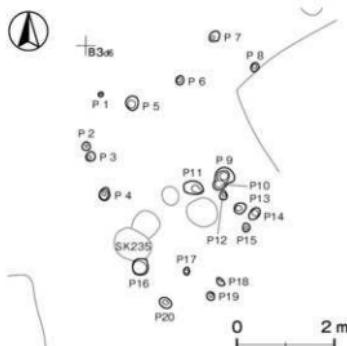
確認状況 埋没谷の上部に構築されている。

重複関係 第 235 号土坑を掘り込んでいる。

規模 平面形は長径 12 ~ 43 cm、短径 11 ~ 33 cm の円形又は楕円形で、深さは 9 ~ 55 cm である。ビットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況 銭貨 1 点（銭種不明）が P 4 から出土している。

所見 時期・性格ともに不明である。



第309図 第7号ビット群実測図

第7号ビット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 3 d6	円形	12	11	9
2	B 3 d6	楕円形	20	18	10
3	B 3 d6	円形	21	20	55

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
4	B 3 d6	楕円形	29	23	42
5	B 3 d6	楕円形	31	27	31
6	B 3 d6	楕円形	20	17	28

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
7	B 3 d6	楕円形	25	22	19
8	B 3 d6	楕円形	20	18	33
9	B 3 d6	[楕円形]	41	(30)	27

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
10	B 3 d6	【楕円形】	31	(21)	25
11	B 3 d6	楕円形	43	30	40
12	B 3 d6	楕円形	20	16	30
13	B 3 d6	楕円形	27	23	46

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
14	B 3 d6	楕円形	31	21	45
15	B 3 d6	楕円形	20	17	45
16	B 3 e6	円形	34	33	47
17	B 3 e6	楕円形	17	13	30

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
18	B 3 e6	楕円形	22	14	54
19	B 3 e6	楕円形	20	18	46
20	B 3 e6	楕円形	29	22	36

第8号ピット群（第310図）

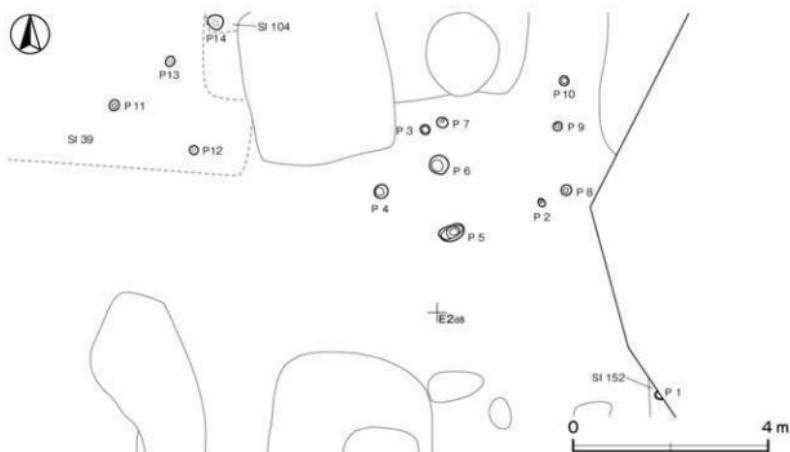
位置 調査区中央部の標高30mの平坦な台地上、E 2 b6～E 2 d9区にかけての南北8m、東西12mの範囲から、柱穴状のピット14か所を確認した。

重複関係 第39・104・152号住居跡を掘り込んでいる。

規模 平面形は長径20～54cm、短径16～39cmの円形または楕円形で、深さは16～77cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況 弥生土器片1点、土師器片4点（坏1、高坏1、甕類2）が、P 5から出土している。

所見 時期・性格ともに不明である。



第310図 第8号ピット群実測図

第8号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	E 2 d9	【円形】	20	(11)	30
2	E 2 c8	楕円形	20	16	21
3	E 2 c7	円形	21	21	19
4	E 2 c7	円形	30	30	34
5	E 2 c8	楕円形	54	33	66

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
6	E 2 c8	円形	40	39	77
7	E 2 c8	円形	24	22	38
8	E 2 c8	円形	23	22	40
9	E 2 c8	楕円形	20	18	21
10	E 2 b8	円形	22	22	16

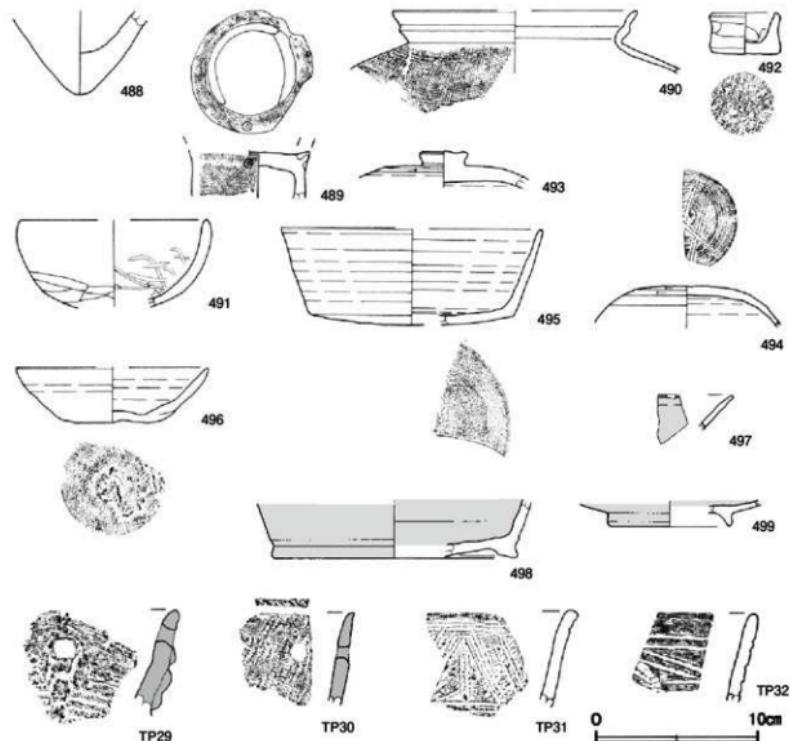
番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
11	E 2 b6	円形	23	22	30
12	E 2 b9	円形	20	20	-
13	E 2 b9	楕円形	24	20	-
14	E 2 b9	円形	35	34	-

表15 その他のピット群一覧表

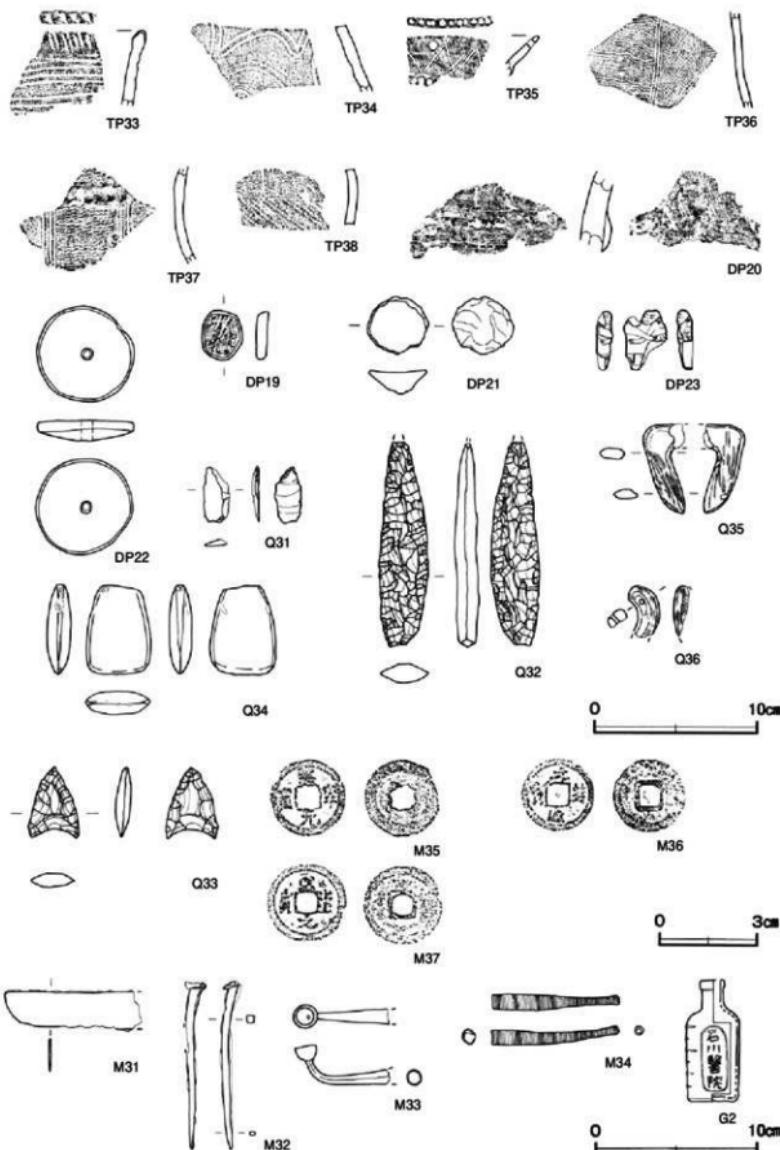
番号	位置	範囲	柱穴					主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
			柱穴数	平面形	長径	短径	深さ		
2	E 1g6 ~ E 1j9	南北13m、東西14m	56	円形・楕円形	16~56	15~46	2~48	土師器片	SI47・68・75→本跡
3	E 1i0 ~ F 2a2	南北11m、東西10m	8	円形・楕円形	18~44	17~39	2~23		SI51→本跡
4	E 2b6 ~ E 2j9	南北17m、東西19m	11	円形・楕円形	24~58	24~40	15~49	土師器片	SI42・62・63・65、SK115・E3→本跡 →S18
5	C 2j0 ~ C 3j4	南北9m、東西16m	34	円形・楕円形	18~50	16~40	17~90		TM 1・SK240→本跡→SD11・12 SF 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・119・120・121・122・123・124・125・126・127・128・129・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148・149・149・150・151・152・153・154・155・156・157・158・159・159・160・161・162・163・164・165・166・167・168・169・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・179・180・181・182・183・184・185・186・187・188・188・189・189・190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・199・200・201・202・203・204・205・206・207・208・209・209・210・211・212・213・214・215・216・217・218・219・219・220・221・222・223・224・225・226・227・228・229・229・230・231・232・233・234・235・236・237・238・239・239・240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・249・250・251・252・253・254・255・256・257・258・259・259・260・261・262・263・264・265・266・267・268・269・269・270・271・272・273・274・275・276・277・278・278・279・279・280・281・282・283・284・285・286・287・288・288・289・289・290・291・292・293・294・295・296・297・298・298・299・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・309・310・311・312・313・314・315・316・317・318・319・319・320・321・322・323・324・325・326・327・328・329・329・330・331・332・333・334・335・336・337・338・339・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・348・349・349・350・351・352・353・354・355・356・357・358・359・359・360・361・362・363・364・365・366・367・368・369・369・370・371・372・373・374・375・376・377・378・378・379・379・380・381・382・383・384・385・386・387・388・388・389・389・390・391・392・393・394・395・396・397・398・398・399・399・400・401・402・403・404・405・406・407・408・409・409・410・411・412・413・414・415・416・417・418・418・419・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・428・429・429・430・431・432・433・434・435・436・437・438・438・439・439・440・441・442・443・444・445・446・447・448・448・449・449・450・451・452・453・454・455・456・457・458・459・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・478・479・479・480・481・482・483・484・485・486・487・488・488・489・489・490・491・492・493・494・495・496・497・498・499・500

(7) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない遺物について、実測図（第311・312図）及び観察表で掲載する。



第311図 遺構外出土遺物実測図（1）



第312図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表（第311・312図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
488	陶土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・ 赤色粒子・細織	に伝透褐	普通	底尖土器底部	SI15	5%
489	陶土器	高杯	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子・粗織	に伝透褐	普通	鋸歯状の素面文	埋没谷 (トレンチ)	5% PL56
490	土器	台付甕	[15.0]	(3.9)	-	長石・石英・ 赤色粒子	に伝透褐	普通	肩部・腹位のち横位のハケ目調整	SI26	5% PL56
491	土器	杯	[11.5]	(5.4)	-	長石・石英・ 赤色粒子	に伝透褐	普通	体部外面へナデ 内面へナシ	SB97	40% PL56
492	土器	ミニチュア	4.0	2.6	4.0	長石・石英・赤色 赤色粒子	に伝透褐	普通	外・内ナデ	表土(北部)	90%
493	肌胎器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石英・ 赤色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	表土(北部)	20% PL56
494	肌胎器	蓋	-	(2.6)	-	長石・石英	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り ハラ記号	SI24	30%
495	肌胎器	杯	[16.0]	6.0	[12.6]	長石	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り	SI28	30%
496	土器	杯	[11.8]	3.4	6.4	長石・石英・ 雲母	に伝透褐	普通	底部回転ヘラ切り	表土(中央部)	50%
497	縦撹陶器	皿	-	(2.2)	-	微細	オリーブ灰	良好	ロクロナデ	表土(D 2cm)	5% PL64
498	灰釉陶器	瓶	-	(3.6)	[15.0]	緻密	灰	良好	ロクロナデ	SD11	15% PL63
499	灰釉陶器	碗	-	(1.6)	7.4	緻密	灰黄	良好	釉濁け掛け	表土(北部)	5% PL63

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP29	陶土器	深鉢	長石・石英・鐵織	明褐色	頂部直下に円孔 口縁部を擾乱で区画し、平行する連続刃突きと光沢	SI13	PL57
TP30	陶土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 鐵織	黒褐	口縁部に網目 LRの単層繩文	SI31	PL57
TP31	陶土器	深鉢	長石・針状水晶	に伝透褐	半截竹管による平行弦紋文 地文は撚糸文	SK10	PL57
TP32	陶土器	深鉢	長石・石英	黒褐	半截竹管による平行弦紋文	SI 1	PL57
TP33	陶土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	口縁部に網目 口縁部に平行弦紋が巡る	表土(中央部)	PL57
TP34	陶土器	盤	長石・雲母	棕	2条一組の平行弦紋で文様を描出	SI18	PL57
TP35	陶土器	盤	長石	に伝透褐	口縁部に網目 縱曲状工具による隠瓣状文	TM 1	PL57
TP36	陶土器	盤	長石・雲母	に伝透褐	鶴嘴状工具(3本)の瓶内に斜格子文及び波状文を充填	SI54	PL57
TP37	陶土器	盤	長石・雲母	暗赤褐	鶴嘴状工具(4本)の瓶内に波状文を充填	SI 6	PL57
TP38	陶土器	盤	長石・石英・雲母	灰褐	鶴嘴状工具(3本)によって文様を描出 斜格子文繩文	SK127	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP19	土割削輪	31	2.5	0.7	54	長石・石英・雲母 赤色粒子・粗織	圓錐部研磨 摺糸文	SK30	PL59
DP20	円筒削輪	(5.0)	-	-	(71.2)	長石・石英・ 赤色粒子・細織	内面ハケ目調整	表土(北部)	
DP21	不明 土製品	38	-	1.5	11.8	長石・石英・赤色 粒子・針状水晶	圓錐部を打ち欠き調整 表面は麻状に凹む 背面指頭痕	表土(北部)	PL59
DP22	鍛錬車	61	-	1.3	47.7	長石・石英・赤色 粒子・針状水晶	孔径 0.7mm 裏面ナデ	SD 4	PL58
DP23	泥面子	(37)	2.7	1.0	(6.1)	長石	型押成形 裏面ナデ	表土(中央部)	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 31	剥片	3.5	1.7	0.4	1.9	頁岩	二次加工板を有する 裏面左側縫に継ぎ目調整	表土	PL60
Q 32	尖頭器	(12.7)	3.1	1.6	(58.7)	頁岩	先端部欠損 柳葉形 両面調整	表土(南部)	PL60
Q 33	石礎	2.2	1.6	0.5	1.1	チャート	両面押捺消磨 円窓無基礎	表土(中央部)	PL60
Q 34	磨製石斧	5.5	4.0	1.4	59.6	綠色凝灰岩	全面を研磨	TM 1	PL59
Q 35	段状耳鉢	5.5	(2.6)	0.7	(12.3)	雲母片岩	全面を研磨 研磨に伴う擦痕が残存	TM 1	PL59
Q 36	勾玉	(3.2)	(1.9)	(0.9)	(5.2)	滑石	全面を研磨 裏面剥離	表土(中央部)	PL60

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M31	短刀	(8.4)	(2.3)	(0.1)	(8.3)	鉄	表面三角形	表土	
M32	針	10.3	1.0	0.3	~0.5	(14.3)	表面方形	TM 1	
M33	縫合	(6.0)	(1.4)	(0.9)	(5.9)	銅	裏面のみ	表土(中央部)	PL62
M34	縫合	7.8	0.9	0.9	4.7	銅	吸い口部のみ	表土(中央部)	PL62

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	初説年	材質	特徴	出土位置	備考
M35	無寧元寶	2.4	0.7	0.1	20	1068	銅	真書	表土(南部)	
M36	元豐通寶	2.3	0.7	0.1	1.7	1078	銅	行書	表土(中央部)	
M37	聖道元寶	2.4	0.6	0.1	26	995	銅	行書	表土(中央部)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
G 2	ガラス製品	筆瓶	1.5	7.5	2.6	27.0	透明	首部まで合わせ目 脇部に「石川醫院」の浮き字	表土(南部)	100%

第4節 まとめ

1 はじめに

当遺跡は、常陸太田市の南部に位置し、亀作川左岸の標高約30mの台地上に立地している。遺跡が立地する台地は、多賀山地の裾野から南西方向に延びる舌状台地で、三方が谷底平野に向かって落ち込み、北東側が多賀山地につながる丘陵地となっている。遺跡の範囲は、南北200m、東西400mほどで、東西に延びており、調査区はその西端部にある。調査の結果、竪穴住居跡133軒、古墳1基、掘立柱建物跡2棟、竪穴造構9基、地点貝塚1か所、墓坑2基などが確認でき、縄文時代から平安時代にかけての集落跡、古墳時代中期の古墳、中世の墓域であることが判明した。本節では、各時代の出土土器や集落の様相を概観し、遺跡の性格について若干の考察を加えることでまとめたい。

2 縄文時代

当時代の遺構として、調査区北部の緩斜面部から第1号地点貝塚、中央部の平坦な台地上から第1号土坑を確認した。第1号地点貝塚から出土している土器群は、胎土に纖維を含み、地文はループ文を多様し、地文の範囲は口縁部まで及んでいる。これらの特徴から、前期前半の関山II式に併行する時期の土器群と考えられる。当遺跡から西方15kmに位置する森東貝塚からは、同時期の土器が出土しており、口唇部直下に縦位の短沈線が施文されているのが特徴である。当遺跡から出土している土器にも共通性がみられ(TP1)、鈴木素行氏が提唱している「森東式土器」の範疇に含まれるものと考えられる¹⁾。

第1号地点貝塚は、緩斜面部に位置する埋没谷の堆積土中から、貝の散布範囲を確認している。埋没谷から出土している土器は、磨減した縄文土器や弥生土器の細片であり、埋没谷の形成過程で、土坑状の掘り込みに貝を投棄したものと考えられる。出土している貝はヤマトシジミが主体で、前期の貝塚である森東貝塚や築崎貝塚²⁾など周辺の貝塚と同様の傾向にあり、縄文海進時には、当地は海水が入り交じる河口付近であったと考えられる。

なお、第1号土坑の時期は中期後葉であり、前期前半以降も断続的ながら、台地上には人々の営みが続いていることがうかがえる。

3 弥生時代

当時代の遺構は、調査区北部の緩斜面部に位置する埋没谷の上面で、第127号住居跡を確認した。出土している土器は、摩減した細片が多い。残存率が高く伴う遺物と判断できるのは、ピットから出土している2の壺であり、時期決定の指標となる遺物である。口唇部に縄文が施文され、口唇部直下に巡る隆帯には、連続する刺突文を有し、以下無文となり、頸部下端には三角形の区画内に斜格子文が施文されている。これらの特徴から、時期は後期前半と考えられる³⁾。

遺構の規模と形状から、竪穴住居跡と判断したが、柱穴にあたるピットや炉など付随施設が確認できず、床面の硬化も認められなかった。これらの確認状況や周間に当該期の遺構が存在しないことから、作業小屋的な一時的な居住空間として使用されたものと考えられる。

4 古墳時代

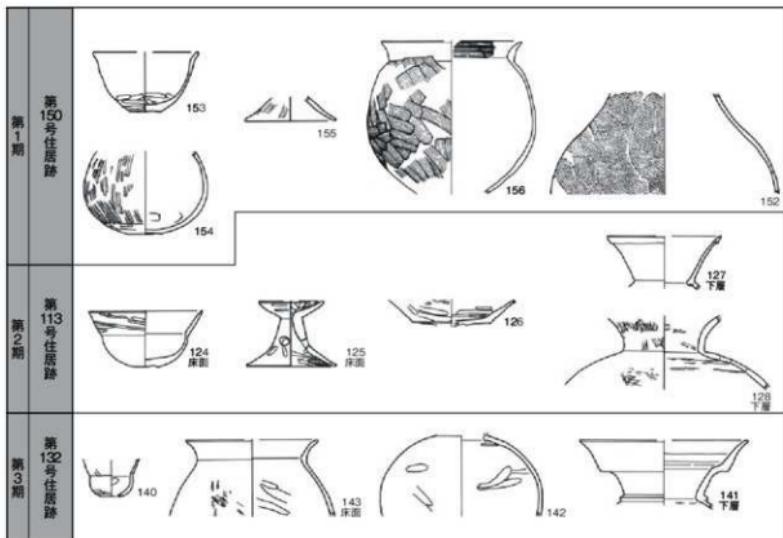
当時代の遺構は、調査区中央部の平坦な台地上を中心として、北部と南部の緩斜面部まで広がって分布している。古墳1基、竪穴住居跡36軒、円筒形土坑5基、土坑12基を確認し、前期から後期にかけての集落跡で、中期前半には古墳が築造されたことが判明した。以下、出土土器の様相を分類し、各時期の様相について述べる。

(1) 出土土器について（第313～316図）

前期（第1～3期）、中期（4期～6期）、後期（7期～11期）の11時期に分類し、各期の器種組成や器形、手法の特徴について述べる。

第1期 第150号住居跡の土器群が該当する。器種は、弥生土器の壺、土師器の椀・壺・器台カ・壺が出土している。弥生土器の壺（152）は文様帯の区画がなく、附加条縄文が全面に施文されており、弥生土器の最終的な様相を呈している。なお、土師器に共伴すると考えられる弥生土器は、第2期以降は出土していない。土師器の壺（154）は、体部外面はヘラ磨き調整で、底部は平底であり、やや中央部が凹んでいる。壺（156）は、口縁部が外反し、体部は球形を呈しており、ハケ目調整が施されている。

第2期 第113号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の小形壺・器台・高杯・壺が出土している。当期から、小形壺が出現する。小形壺（124）は、口縁部が体部から明瞭に屈曲して立ち上がっており、底部は平底で中央部がやや凹んでいる。器台（125）は、脚部が受け部下位から外反して延びている。壺（127・128）は口縁部が外反し、複合口縁を有するもの（127）も確認されている。

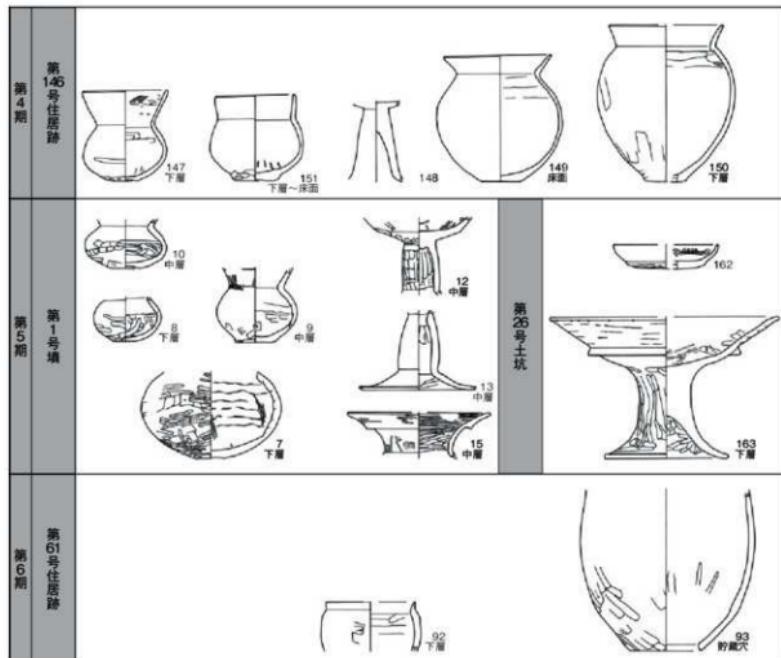


第313図 日向遺跡古墳時代出土土器① (S = 1 / 6)

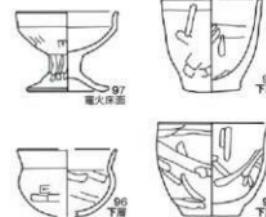
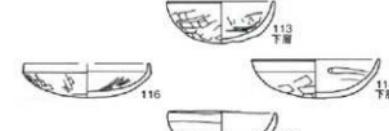
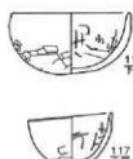
第3期 第132号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の小形壺・壺・甕が出土している。小形壺(140)は、口縁部から体部にかけての屈曲が弱く、底部は平底である。甕(143)は、口縁部が外反し、体部にはハケ目調整が施されている。また、壺(141・142)も一定量が出土し、有段口縁のもの(141)も確認されている。

第4期 第146号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の小形壺・高坏・甕・小形甕が出土している。小形壺(147)は、体部が丸みを帯び、口縁部は外傾して立ち上がっている。また底部が平底で、中央部がやや凹んでいる。甕(149・150)は口縁部がやや外反し、体部は球状を呈している。底部が突出するもののみられる(150)。

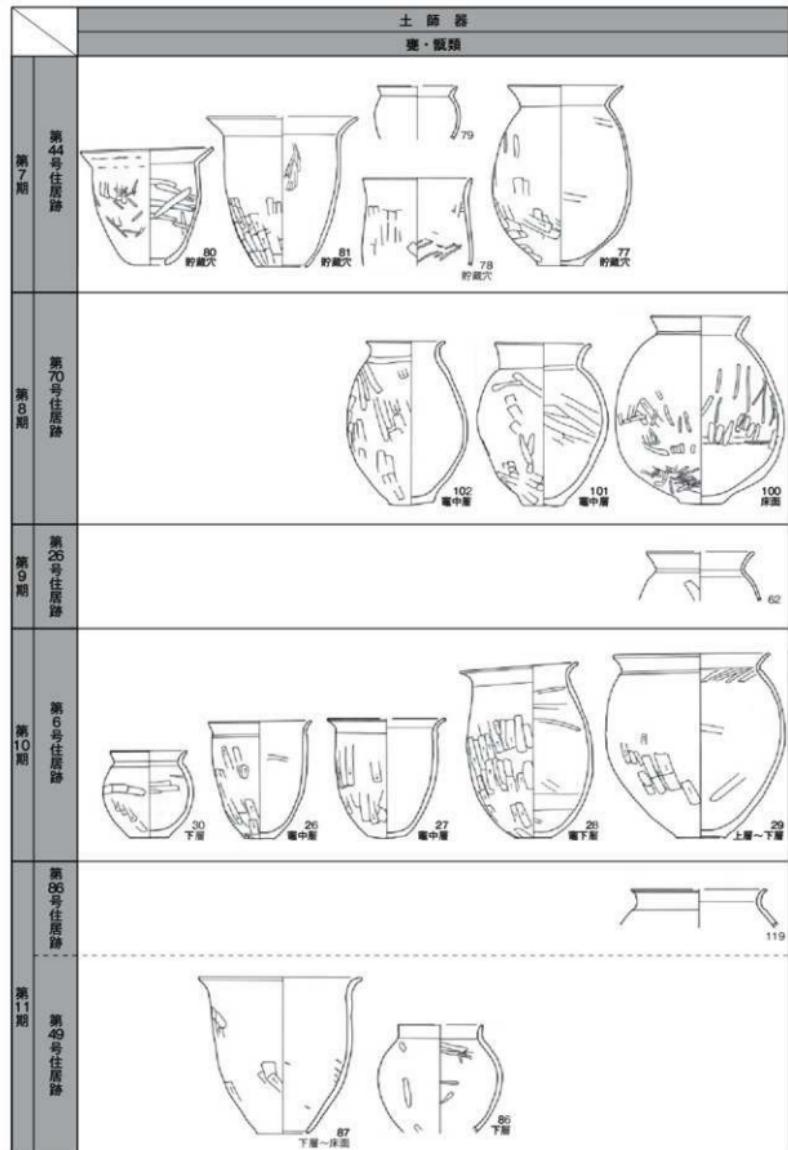
第5期 第1号墳、第26号土坑の土器群が該当する。器種は、土師器の小形壺・壺・高坏・甕・壺・椀が出土している。小形壺(8・10)は、体部中位が最大径となり、扁平な印象を受ける。底部は平底で、中央部が凹むものもある(10)。9の土器は、体部下半に焼成前に穿孔された孔が1か所確認されており、龜の可能性がある。口縁部はやや外反し、外面に浅い沈線が巡っており、底部はやや突出している。高坏は、脚部が中空(12・13)で、外面がヘラ削り調整(12・163)のものが主体である。第26号土坑から出土している高坏(163)は、坏部の下位に断面形が三角の隆帯が巡り、部分的に赤彩された痕跡が確認できる。壺(15)は有段口縁であるが、内面の段が失われている。椀(162)は、丸底で口縁部が内傾して立ち上がつ



第314図 日向遺跡古墳時代出土土器② (S = 1 / 6)

		土師器	土師器・須恵器
		坏	高坏・椀・鉢・埴はか
第7期	第44号住居跡		
第8期	第70号住居跡		
第9期	第26号住居跡		
第10期	第6号住居跡		
第11期	第87号住居跡		
第12期	第86号住居跡		
	第49号住居跡		
	第19号住居跡		

第315図 日向遺跡古墳時代出土土器③ (S = 1 / 6)



第316図 日向遺跡古墳時代出土土器④ (S = 1 / 8)

ている。同じ土坑から出土している 163 の高杯とともに、他に系統につながる土器が見あたらず、客体的な土器と考えられる。

第6期 第 61 号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の椀・瓶が出土している。斜面部に構築されており、削平されているため、提示できる資料が少ない。特出すべき点は、瓶（93）の出現である。新たな調理具の出現は、調理方法に変化が現れたことを示唆している。器形は、体部から底部にかけて、やや丸みを帯びている。

第7期 第 44 号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の杯・甕・小形甕・瓶が出土している。当期から、杯が器種構成に加わり主体となる。底部は丸底で、口縁部が直立するもの（75・76）とやや外反するもの（74）とがある。甕（77～79）は、この頃から大・小の分化が進み、目的によって使い分けられていたと想定できる。77 の甕は、口縁部が体部から「く」の字状に屈曲して立ち上がり、体部は長胴で、底部は突出している。瓶（80・81）は、大・小二つの法量があり、いずれの体部もやや丸みを帯び、口縁部は外傾して立ち上がっている。

第8期 第 70 号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の杯・碗・高杯・鉢・甕・小形甕が出土している。杯は、椀形で口縁部と体部の境が明確でないものの（95）と口縁部が外反するものの（94）があり、後者は東北系の土器の影響を受けた器形と考えられている⁴⁾。高杯（97）は赤彩されており、脚部が短く裾部で大きく開いている。甕は、口縁部が短く、外反して立ち上がるものの（102）と口縁部が比較的の長く、体部から「く」の字状に屈曲して立ち上がるものの（100・101）がある。体部は前者が長胴で、後者は長胴のもの（101）と球胴のもの（102）とがあり、底部はいずれも突出している。

第9期 第 26 号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の杯・碗・甕が出土している。杯は口縁部が直立するもの（58）と外反するもの（60）とがあり、外・内面とも赤彩されている。後者の杯は、前段階の 94 の杯と同系統の土器と考えられ、口縁部がより外側に外反して、体部が浅くなり、口縁部と体部の境に明瞭な段を有している。

第10期 第 6・87 号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の杯・碗・高杯・甕・甕・小形甕、須恵器の甕が出土している。杯は、口径に対して器高が低くなる傾向にあり、当期以降、扁平化していく。また黒色処理されたものが多くなる（20・120・121）。口縁部が外反するもの（21）は、口縁部が短くなり外側に広がる傾向も弱まる。なお、当期以降は確認できなくなる。高杯（23）は杯部のみが出土しているが、杯と同様に黒色処理されている。甕は、長胴のもの（26～28）と球胴のもの（29）とがあるが、前者が主体である。口縁部が短くなる傾向にあり、外反して立ち上がっている。また、口縁部が横ナデされることによって、口縁部と体部との境には、明確な段差が生じている（26・27・29）。なお、第 87 号住居跡からは、須恵器の甕（122）が覆土中から出土している。やや厚手の作りで、体部には浅い 2 条の沈線が巡っている。胎土や色調から猿投産の可能性がある。

第11期 第 86・49 号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の杯・碗・高杯・鉢・甕・瓶が出土している。杯は、より扁平なものが多くなり、口径も拡大傾向にある。また、口縁部と体部の境が不明瞭な椀形ものが増加していく（113～115）。鉢（117）はやや小振りで、黒色処理されている。瓶（87）は、口縁部が短くなり、外反して立ち上がっている。底部もやや小さめである。高杯（84）は、脚部から裾部にかけては太く「ハ」の字状に開いている。

第12期 第 19 号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の杯・碗・甕・瓶が出土している。杯（48・49）は、前段階とは一転して口径がやや縮小している。

以上、古墳時代の出土土器について通観したが、概ね従来の研究成果による編年と齟齬が生じることはなく、各期の年代的位置づけは、**第1期**が4世紀前葉、**第2期**が4世紀中葉、**第3期**が4世紀後葉、**第4期**が5世紀前葉、**第5期**が5世紀中葉、**第6期**が5世紀後葉、**第7期**が5世紀末葉～6世紀初頭、**第8期**が6世紀前葉、**第9期**が6世紀中葉、**第10期**が6世紀後葉、**第11期**が6世紀末葉～7世紀初頭、**第12期**が7世紀前葉に比定できる³⁾。

(2) 集落の変遷について（第316～319図）

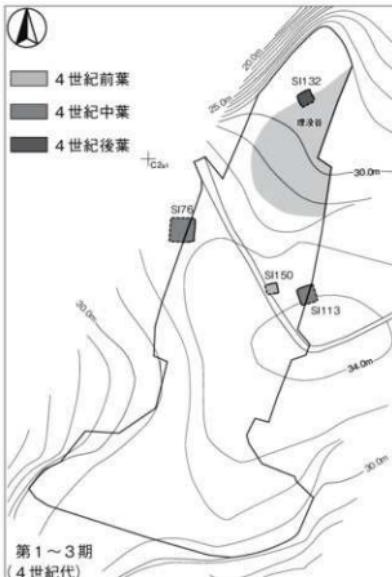
ここでは前項の時期区分に従って、出土遺物や住居構造にも一部触れながら、当該期の集落の変遷について述べる。なお、住居跡の規模については、重複が著しいため便宜上、一辺が4m未満のものは小形、4～6mのものは中形、6m以上のものは大形と呼称する。

第1期 第150号住居跡が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に、小形住居跡1軒のみが確認されている。集落の広がりや規模は不明であるが、弥生時代後期以降、当期から再び集落の形成が始まる。また、弥生土器の共伴が確認されている。

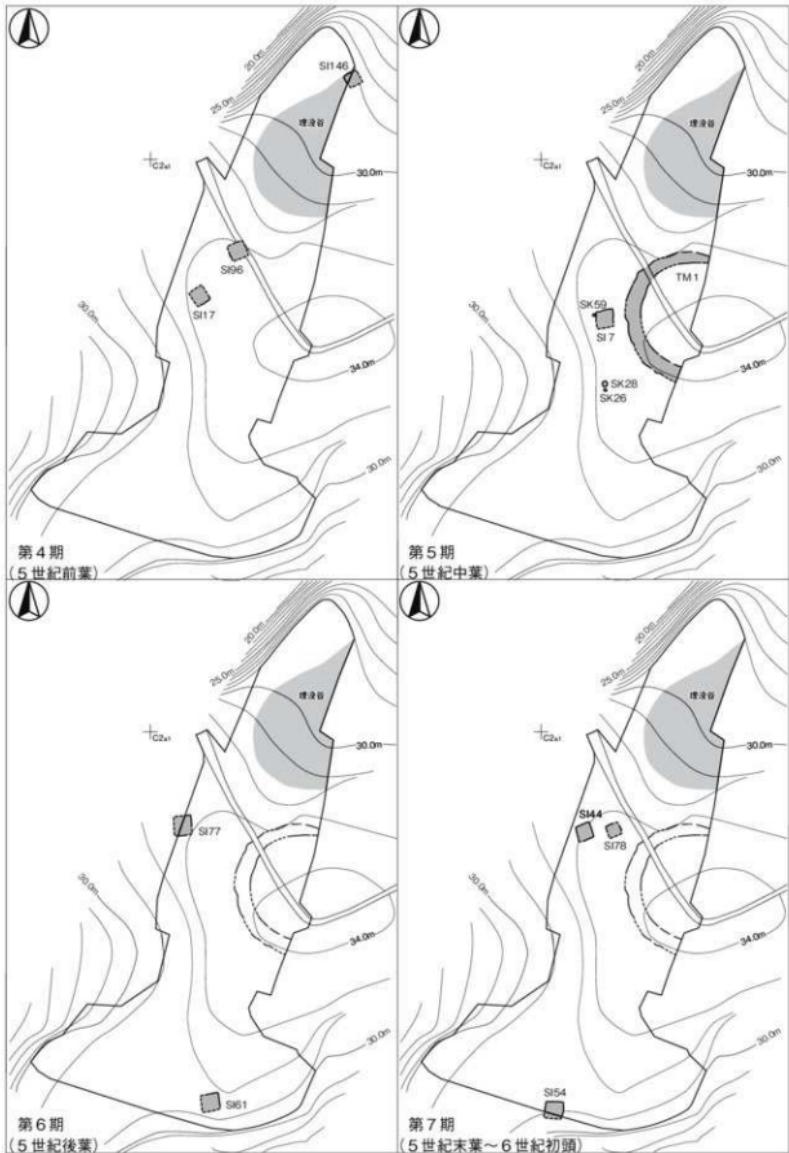
第2期 第76・113号住居跡が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に、大形住居跡、中形住居跡各1軒が確認されている。第113号住居跡は、前段階の第150号住居跡と南北の軸方向（以下軸方向とする）もほぼ同じで隣接していることから、同一集団による作り替えが想定できる。

第3期 第132号住居跡が該当する。調査区北部の緩斜面部に、中形住居跡1軒が確認されている。当住居跡が位置する北部の緩斜面部には、縄文時代から弥生時代にかけて形成された埋没谷が、調査区域外から南西方向に延びてきており、その埋没谷に面して構築されている。占地に違いがみられることや位置関係から、新たな単位集団とみられる。なお、第132号住居跡からは、生産具として土製の紡錘車が出土している。

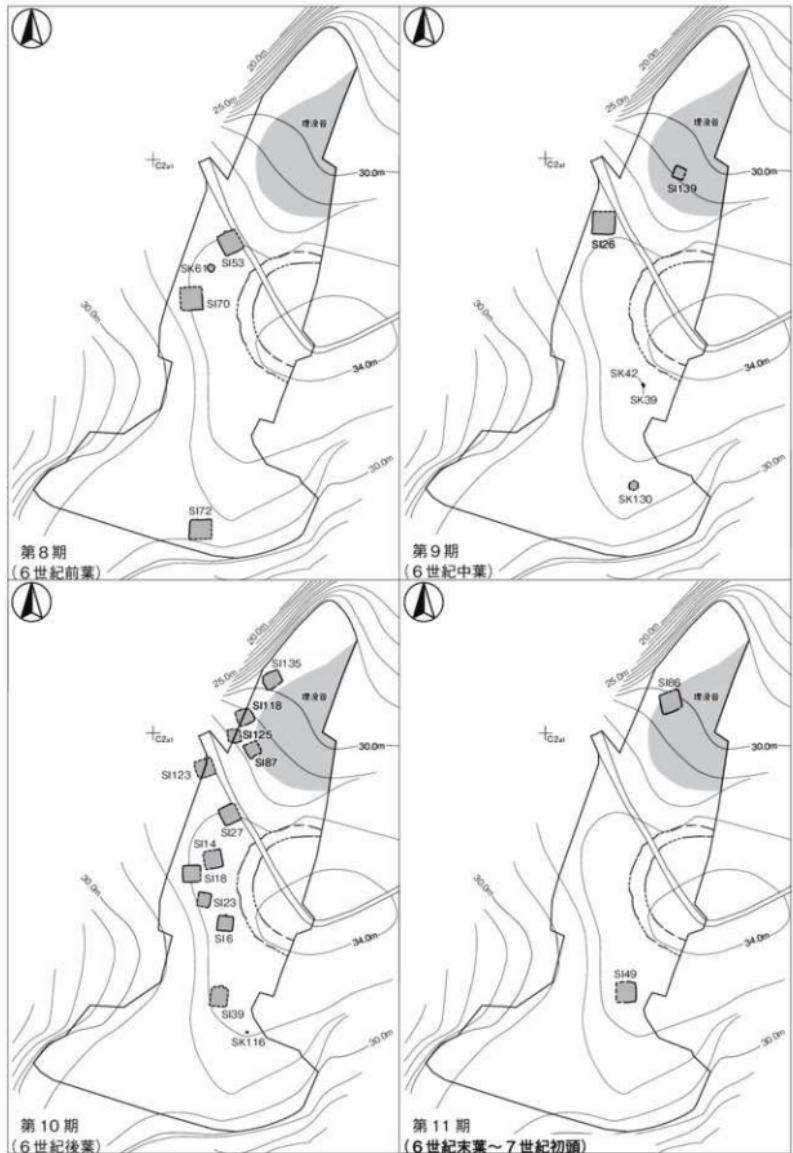
第4期 第17・96・146号住居跡が該当する。北部の緩斜面部に1軒、中央部の平坦な台地上に2軒の住居跡が確認されており、北部と南部の2つの単位集団が確認できる。なお、遺構が調査区外に延びていることや重複のため、規模は不明である。北部の第146号住居跡は、前段階の第132号住居跡と近接し、軸方向もほぼ同じであることから、同一集団による作り替えが想定できる。中央部の2軒は重複が著しく、規模や軸方向が明確でないため断定できないが、位置関係から同一集団とみて差し支えはないものと考えられる。



第316図 日向遺跡古墳時代遺構配置①



第317図 日向遺跡古墳時代造構配置②



第318図 日向遺跡古墳時代遺構配置③

第5期 第1号墳、第7号住居跡、第26・28・59号土坑が該当する。第1号墳を含め、住居跡や土坑は中央部の平坦な台地上に集約される。第1号墳が築造された時期であり、第1号墳の周溝と隣接して、中形の第7号住居跡が確認されている。覆土は薄く、遺物の出土量が少ないと想定され、第1号墳と併存していたか否かは断定できない。第59号土坑は、第7号住居跡と隣接していることから、住居跡との関連が想定できる。掘り込みは浅いが、壺の底部が出土していることから、貯蔵を目的とした施設の可能性がある。第26号土坑は、規模や形状から住居跡の貯蔵穴の可能性があるが、周囲に床やピットなど付随施設が確認できず、土坑として取り上げた。第28号土坑は、径1.9mほどで円筒形土坑としたものである。規模や形状から貯蔵穴などの可能性があるが、他の遺構との関連が明確でなく、性格については不明である。第1号墳は、東半部が調査区域外に延び、墳丘部は削平されており、周溝のみが確認されている。残存する周溝から墳丘径は35mほどと推定され、その形状から円墳とみられるが、築造時期から前方後円墳の可能性もある。

第6期 第61・77号住居跡が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に大形住居跡1軒、南部の緩斜面部に中形住居跡1軒が確認されている。当期から南部への進出も始まり、集落も広がりを見せるようになる。また、この頃から住居跡の規模も、1辺が5~6mほどの中形から大形の規模の住居跡が増加していく。第61号住居跡からは炉跡が4か所確認されており、当期まで炉の使用が確認できる。また同住居跡からは、調理具である甌が出土している。

第7期 第44・54・78号住居跡が該当する。調査区中央部に中形住居跡1軒、規模不明の住居跡1軒、南部の緩斜面部に中形住居跡1軒が確認されている。前段階に統合して中央部と南部に2つの単位集団が存在し、それぞれの単位集団が継続しているものと思われる。当該期は窓の導入期にあたり、いずれの住居跡からも窓が確認されている。第44号住居跡の窓は残存状況が良好であり、導入期の窓の様相がよく確認できる。窓は東壁の南寄りに付設されており、煙道部が壁外まで掘り込まれておらず、火床面と隣接した煙道部側から、円筒形土製品(DP5)が立位で確認されている。この円筒形土製品については、県内では古墳時代後期から出現し、平安時代まで残存し、用途としては窓の構築材や支脚として利用されていることが指摘されている⁶⁾。その分布は県央地域から県南・県西地域に集中しており、希薄な地域にあたる県北地域に所在する当遺跡で、窓導入期に円筒形土製品が確認されたことは、注目に値する。

第8期 第53・70号住居跡、第61号土坑が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に、大形住居跡、中形住居跡各1軒、円筒形土坑1基が確認されている。また、第72号住居跡も、前段階に構築された第54号住居跡と隣接し軸方向も同じであることから、作り替えが想定でき、当期に帰属すると考えられる。これら確認状況から、中央部と南部の2つの単位集団はそのまま存続しているものと思われる。なお、第70号住居跡の窓は、支脚として高坏が転用されている。

第9期 第26・139号住居跡、第39・42・130号土坑が該当する。調査区北部の緩斜面部に小形住居跡1軒、中央部の平坦な台地上に大形住居跡1軒、土坑2基、南部の緩斜面部に土坑1期が確認されている。中央部で確認されている第26号住居跡は、東壁に窓、南東コーナー部に貯蔵穴を付設し、近接する第44号住居跡(第7期)、第70号住居跡(第8期)から続く住居構造を踏襲しており、同一集団による作り替えが想定できる。なお、第26号住居跡は、2条の間仕切り溝が確認されている。

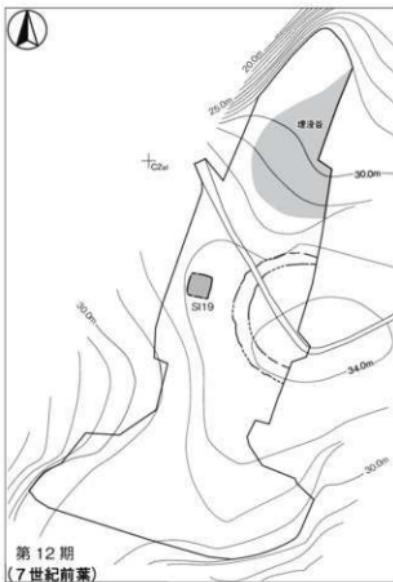
第10期 第6・14・18・23・27・39・87・118・123・125・135号住居跡、第116号土坑が該当し、住居数が急激に増加し、集落の最盛期を迎える。調査区北部の緩斜面部から中央部の平坦な台地上にかけて、集落は広域に展開しており、遺構の分布も密である。住居跡は大形住居跡4軒、中形住居跡5軒、不明2

軒で、住居の大形化傾向がうかがえる。住居構造においては、当該期から凝灰岩の切石が焚き口部の補強材として使用された竈が出現する（第6・39号住居跡）。主な遺物としては、第6号住居跡から鉄製の鋤先、第27号住居跡から石製の紡錘車が出土している。また、第135号住居跡からは、内面に漆が付着した土師器の壺が出土している。

第11期 第49・86号住居跡が該当し、前段階から一転して住居跡の数が急激に減少する。調査区北部の緩斜面部に大形住居跡1軒、中央部の平坦

な台地上に大形住居跡1軒がそれぞれ確認されている。第86号住居跡の竈は、補強材として凝灰岩の切石が使用されており、前段階からの竈の構造を踏襲するものである。また、2条の間仕切り溝も確認されている。主な遺物として、第49号住居跡から鉄製品の鎌が出土している。

第12期 第19号住居跡が該当する。調査区中央部に位置する大形住居跡1軒のみが確認されており、当期をもって8世紀後葉に至るまで、集落は一時期断絶する。当住居跡からは、鉄製の鋤先が出土しており、第10期以降、鉄製の農耕具が安定して供給されていた様相がうかがえる。なお、当住居跡からは間仕切り溝3条が確認されている。他に間仕切り溝が確認された第26号住居跡（第9期）、第86号住居跡（第11期）とともに一辺が6mを超える大形住居跡であることから、住居の規模が、間仕切りを設置する上での一つ目安になったことは容易に想像できる。



第319図 日向遺跡古墳時代遺構配置④

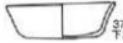
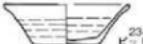
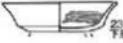
5 奈良・平安時代

当時代の遺構は、調査区中央部の平坦な台地上を中心として、北部の緩斜面部から南部の台地縁辺部にかけて広域に分布している。竪穴住居跡93軒、掘立柱建物跡1棟、竪穴遺構9基、焼土遺構2基、土坑19基、ピット群1か所を確認し、8世紀後葉から11世紀前葉にかけての集落跡であることが判明した。以下、出土土器の様相を分類し、各時代の様相について述べる。

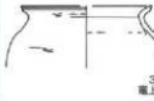
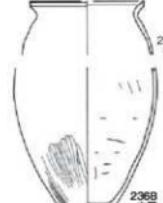
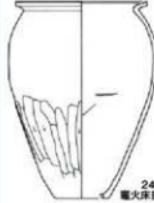
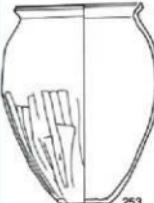
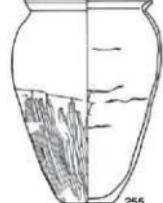
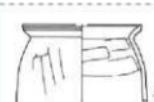
(1) 出土土器について（第320～323図）

8時代に分類し、各期の器種組成や器形、手法の特徴について述べる。なお、古墳時代の時期区分と混亂をさけるため、古墳時代からの通し番号を使用する。

第13期 第126号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の壺・甕、須恵器の盤・甕が出土している。土師器の壺（371・372）は、形状から須恵器を模倣したものと考えられ、他に第106号住居跡からも同様

	土 器	須 恵 器		
	高台付坏・椀	坏	坏・高台付坏	盤
第13期 第126号住居跡		 372		 373
		 371 下層		
第14期 第32号住居跡			 234 ビット	
			 235 中層	
第15期 第33号住居跡	 230 下層		 236 下層	 300 中層
				(第79号住居跡出土)
第16期 第43号住居跡	 250 下層			
第10号住居跡	 203 中層	 202 楕状施設		
第82号住居跡	 301 中層			
第134号住居跡	 382 下層			
	 384 下層	 383 下層		
			 385 下層	
第35号住居跡	 244 下層			
第100号住居跡	 332		 331 中層	

第320図 日向遺跡奈良・平安時代出土土器① (S = 1 / 6)

	土器	須恵器	
	壺・瓶	小形壺	壺
第13期 第126号住居跡	 236A 中層	 374 上層	 375 下層
第14期 第32号住居跡	 236B 中層		
第15期 第33号住居跡	 240 中層	 241 下層	 242 中層
第15期 第43号住居跡	 253 中層～下層	 255 中層～下層	 256 上層
(第10号住居跡出土)			 204 中層
第16期 第62号住居跡	 386 下層	 302 床面・中層	 303 下層
第16期 第134号住居跡	 245 下層		 246 床面
第16期 第35号住居跡			

第321図 日向遺跡奈良・平安時代出土土器② (S = 1 / 8)

		土器			
		高台付椀		坏・小皿	
第17期 第24号住居跡	224 前底穴	223 中底	220 后底穴		
	271 床面	268 床面	269 下层	270 上层	
第18期 第49号住居跡	263 床面	262 電上層	261 前底穴	265 電	264 床面
			394		395
第141号住居跡	399 電火床面	400 下层	397 下层	396 電火床面	404 下层
	401 下层	402 下层	403 下层		
第19期 第114号住居跡				355 電火床部	356 電上層
第5号土坑	445 上層				
	446 上層				
第20期 第115号住居跡		359 電下層・床面	360 床面	361 電下層	
第21期 第4号3穴構	420 床面	422	424 中層	425 下層	
		421	419 床面	423 下層	

第322図 日向遺跡奈良・平安時代出土土器③ (S = 1 / 6)

	縄釉陶器・灰釉陶器 皿・瓶	土 器 器 甕・小壺	土器器・須恵器 その他
第17期 第24号住居跡			
第17期 第51号住居跡			
第18期 第48号住居跡			
第18期 第140号住居跡			
第19期 第141号住居跡			
第19期 第114号住居跡			
第5号土坑			
第20期 第115号住居跡			
第20期 第3号3穴道構			

第323図 日向遺跡奈良・平安時代出土土器④ (縄釉・灰釉陶器 S = 1 / 6 その他 S = 1 / 8)

の模倣坏（340・341）が出土している。土師器の壺（374）は肩部がやや張っており、口縁端部がつまみ上げられている。須恵器の壺（375）は平底で、体部には縦・横位の平行叩きが施されている。盤（373）は、口径が20cmを超える比較的大形のものである。

第14期 第32・33・79号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の高台付坏・壺・小形壺、須恵器の坏・高台付坏・盤が出土している。当該期からロクロで整形された土師器が出現し、高台付坏が器種構成に加わる。須恵器の高台付坏（238）は、底部に対して器高が高めで、焼成は良好である。盤は前段階と比べるとやや小振りになる。須恵器の供膳具は、当期をもってほとんど確認できなくなる。壺（236）は、口縁端部がつまみ上げられ、体部下半がヘラ磨きをされたいわゆる「常総型壺」である⁷⁾。また、体部下半がヘラ削りされる壺も併存している（240）。

第15期 第10・43号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の高台付坏・壺・小形壺、須恵器の壺が出土している。高台付坏（252）は口径が縮小傾向にあり、口縁部もあまり外反しなくなる。内面は前段階と同様にヘラ磨きが施され、黒色処理されている。また、当期からロクロで整形された土師器の坏（202）が出現する。体部下端及び底部は回転ヘラ削り調整で、内面はヘラ磨きが施され、黒色処理されている。土師器の壺は、口縁部上位の屈曲が明瞭になり、体部下半がヘラ削り調整されている壺（253）とヘラ磨き調整（255）されている壺がある。須恵器の壺（256）は、口縁部が無文で、体部には縦位の平行叩きが施されている。

第16期 第35・82・100・134号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の高台付楕・皿・壺・小形壺、須恵器の坏が出土している。土師器の高台付楕（244・301・384）は、底部から体部への立ち上がりが丸みを帯びるようになり、口縁端部がやや外反している。また口径に対して器高が増し、やや深みのある作りとなっている。土師器の坏（382・383）も同様に、前段階より深みのある作りとなっている。また、体部下端及び底部の調整が、回転ヘラ削り調整（382）のほか、手持ちヘラ削り調整（383）のものも出現する。皿は当期のみ確認できる器種で、内面がヘラ磨きを施され、黒色処理されているもの（294（SI69）、385）と不調整のもの（258（SI45））とある。須恵器の坏（331）は、共伴している土師器の高台付楕（332）から、当期に帰属する土器と考えられる。色調は浅黄橙色で還元焰焼成されておらず、底部の切り離し技法は回転糸切りである。また、胎土に針状鉱物や角閃石を含むことから、在地産と考えられ、近隣に未確認の窯跡が存在するものと思われる。土師器の壺は、「常総型壺」（302）が残る一方で、ロクロで整形された在地色の強い「ロクロ壺」（245）が当期から出現する⁸⁾。

第17期 第24・51号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の坏・高台付楕・小形壺、縦釉陶器の皿が出土している。土師器の高台付楕（223・224・271）は、体部がより丸みを帯び、高台が外側に開き外反するになる。坏は、体部下端及び底部が、手持ちヘラ削り調整（220・268・269）のものが主体であるが、底部を回転ヘラ切り後、ナデ調整のみのもの（270）もある。小形壺（226）のなかには、口縁端部をつまみ上げしない壺も出現する。縦釉陶器の皿（225）は、底部は丸みを帯び、外に聞く角高台を有している。胎土や器形から、猿投産で黒笠90号窯式期の製品と考えられる⁹⁾。

第18期 第48・140号住居跡の土器群が該当する。器種は、土師器の坏・高台付楕・小皿・壺・小形壺が出土している。当該期より土師器の小皿が出現する。口径が10cm程度で、器高が3cm程度であり、内面がヘラ磨きをされているもの（264・265）と不調整のもの（395）がある。高台付楕は、浅身で高台がやや高くなるもの（263）が出現し、法量の分化が進んでいる様相がうかがえる。また、高台付楕や坏の口縁端部が外反するようになり、以降後続する時期のものは、より顕著になる。坏は、体部下端や底部の

調整が省略されるようになり、ナデ調整のみで底部の切り離し技法が確認できるものが多くなる。261と394の壺は、底部にいずれも回転糸切り痕が確認できる。土師器の壺（266・267）は、口縁端部が丸みを帯びるようになり、ロクロ壺が主体となる。

第19期 第114・141号住居跡、第5号土坑の土器群が該当する。器種は、土師器の壺・高台付椀・小皿・壺・瓶・羽釜、須恵器の大壺が出土している。土師器の高台付椀は、やや深身で、底径が小さく高台も低くなるもの（400・402・403）と浅身で口縁端部が強く外反し、足高の高台がつくもの（399・401・445・446）とあり、後者は内面が不調整のもの（446）も出現する。壺（397）は、口縁端部が強く外反し、体部下端や底部の調整は省略され、底部には回転糸切り痕が確認できる。小皿（355・356・398・404）は、法量が縮小傾向にあり、全体的に扁平な印象を受けるようになる。なお、底部の切り離し技法は、いずれも回転糸切りである。土師器の壺は胴長で、口縁部が外側に開き強く屈曲するロクロ壺（447）と口縁部が短く屈曲する壺（357）とがある。その他、出土量は少ないが、羽釜（406）や瓶（405）などの調理具も認められる。須恵器の大壺（448）は、体部に斜位の平行叩きが施されている。他の出土土器とは時期差があり、混入でいずれからか持ち込まれた可能性がある。

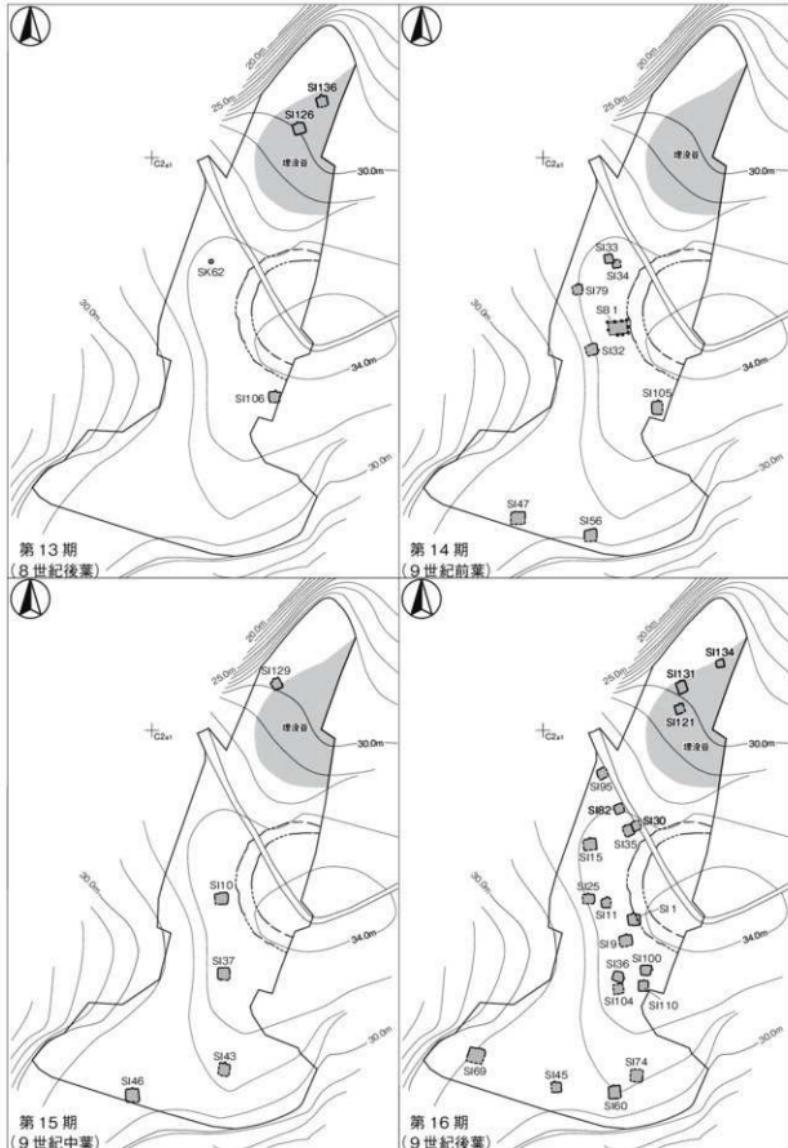
第20期 第115号住居跡、第3号堅穴造構の土器群が該当する。器種は、土師器の壺・高台付椀・小皿・壺、須恵器の壺、灰釉陶器の瓶が出土している。土師器の高台付椀は、浅身で内面が不調整の足高高台のもの（420）、外・内面ともにヘラ磨きが施され、ハの字に開く低い高台のもの（359・360）、口径が10cmほどで碗型の小振りのもの（421・422）に大別でき、法量の分化が進んでいる。壺は内面にヘラ磨きが施されるもの（358）と不調整のものと（419）と存在するが、総じて内面のヘラ磨き調整が省略される傾向にある。小皿は口径が10cm以下で、器高が2cmほどの小振りのものが多くなり、扁平化している。底部の切り離し技法は、423・424が回転ヘラ切りで、425が回転糸切りである。壺（362）は寸胴形のロクロ壺で、口縁部が短く屈曲する。また、共伴している灰釉陶器（426）は瓶類（広口瓶カ）で、猿投産の折戸53号窯式期以降の製品と考えられる。

奈良・平安時代の出土土器については、8時期の変遷が認められる。各期の年代的位置づけは、周辺遺跡の土器様相³⁰や施釉陶器の年代観に、遺構の重複関係を加味し、第13期が8世紀後葉、第14期が9世紀前葉、第15期が9世紀中葉、第16期が9世紀後葉、第17期が10世紀前葉、第18期が10世紀中葉、第19期が10世紀後葉、第20期が11世紀前葉に比定できる。

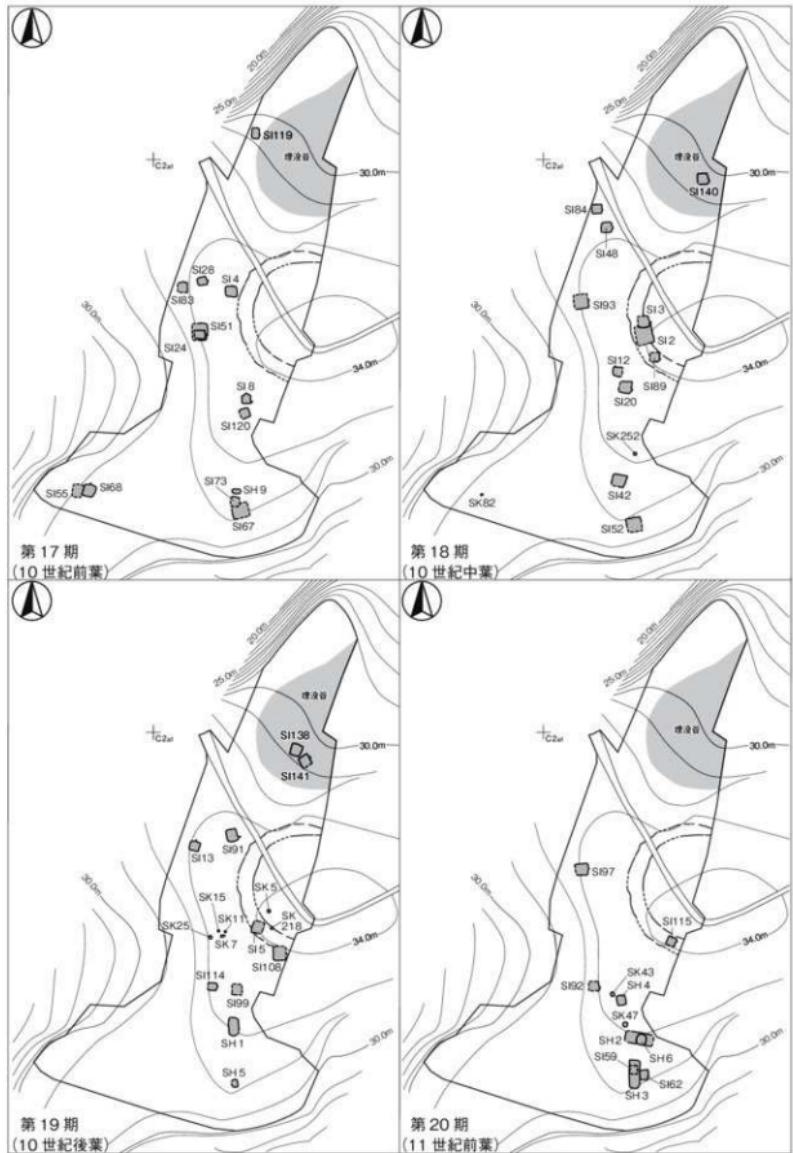
(2) 集落の変遷について（第324・325図）

ここでは前項の時期区分に従って、出土遺物や住居構造にも一部触れながら、当該期の集落の変遷について述べる。

第13期 第106・126・136号住居跡、第62号土坑が該当する。調査区北部の緩斜面部に住居跡2軒、中央部の平坦な台地上に住居跡1軒、土坑1基が確認されており、住居跡の規模は、一辻が3.5～3.9mほどである。北部の住居は緩斜面部に位置する埋没谷の上面に、中央部の住居は第1号墳と隣接する台地上に構築されており、占地に違いがみられる。出土遺物に顕著な違いは確認できないが、第136号住居跡からは、鉄製品の鎌が出土しており、農業生産に従事する上で、耕作地に近い谷部を居住地にした可能性がある。第126号住居跡の竈には、袖部の先端に凝灰岩の切石が使用されており、古墳時代後期以来の構築方法が踏襲されている。



第324図 日向遺跡奈良・平安時代遺構配置①



第325図 日向遺跡奈良・平安時代遺構配置②

第14期 第32～34・56・79・105号住居跡、第1号掘立柱建物跡が該当する。また、出土遺物からは時期が限定できなかったが、第56号住居跡と近接し、軸方向がほぼ同じ第47号住居跡も、当期に帰属するものと考えられる。調査区中央部の平坦な台地上に住居跡5軒、掘立柱建物跡1棟、南部の緩斜面部に住居跡2軒が確認されている。住居跡の規模は、一辺が2.7mほどの小形の住居跡（第34号住居跡）から4.2mほど中形の住居跡（第105号住居跡）まで存在し、住居間の格差が広がっている。集落の中心は平坦な台地上に移り、住居数も増加している。第1号掘立柱建物跡と第32号住居跡は軸方向が同一であり、隣接していることから併存していたと考えられる。また、第33号住居跡と第34号住居跡は重複しており、第33号住居が掘り込んでいる。竈は北壁に付設されているものが主体であるが、一部に東壁に付設されている住居跡も確認できる（第32・105号住居跡）。第32号住居跡の竈は、凝灰岩の切石が構築材として使用されている。また、第105号住居跡は、残存状況は不良であるが竈が2か所確認されており、作り替えの可能性がある。当期において、鉄製品はほとんど出土していないが、第33・79・105号住居跡からは砥石が確認されており、一定量の製品が流通していたと推測できる。

第15期 第10・37・43・46・129号住居跡が該当する。前段階で集約化傾向にあった集落は、一転して拡散傾向に転じ、南北に広がりをみせる。住居跡は、調査区北部の緩斜面部から1軒、中央部の平坦な台地上から2軒、南部の緩斜面部から1軒、台地縁辺部から1軒が確認されている。住居跡の規模は一辺が3.5～4.5mほどで、やや拡大する。第10号住居跡は、竈の両側に棚状施設があり、西壁と平行する幅1.4mほどの床面が一段高くなっている。ベット状を呈している。第37号住居跡の竈は東壁に付設されており、その他の住居跡は北（西）壁に付設されている。また、竈に凝灰岩の切石が構築材として使用されている住居跡は、第10・43・46号住居跡で、その割合が増加している。主な遺物として、第129号住居跡から生産具である石製の紡錘車が出土している。

第16期 第1・9・11・15・25・30・35・36・45・60・69・74・82・95・100・104・110・121・131・134号住居跡が該当し、住居跡が最も多く確認されている時期である。住居跡は、北部の緩斜面部から3軒、中央部の平坦な台地上から13軒、南部の緩斜面部から台地縁辺部にかけて4軒が確認されている。第30号住居跡と第33号住居跡は重複しており、第30号住居が掘り込んでいる。重複している住居跡や密接する住居跡（第36・104号住居跡）が存在することから、同一期内においても多少の時期差が生じているものと思われる。住居跡の規模は、一辺が4m前後のものが主体であるが、第134号住居跡のように1辺が2.7mほどの小形の住居跡も存在する。第134号住居跡は、調査区北部の埋没谷に面する緩斜面部に位置し、集落の北端部にあたる。南東コーナー部の覆土上層から床面にかけて焼土が確認されており、コーナー部に竈が作られていた可能性がある。住居跡の規模や竈の位置に特異性が認められることから、住居以外の施設とも考えられる。当期における竈の位置は、北壁に付設されている住居跡が主体であるが、東壁に付設されている住居跡（第36・100・104号住居跡）も増加する。竈の構築材として凝灰岩の切石が使用されている。もしくはその可能性がある住居跡は、竈が確認できた17軒の住居跡のうち5軒である。なお、第36・60号住居跡は、竈と炉が併設されている。第1号住居跡は、第1号墳の周溝の覆土を掘り込んで構築されており、当期にはすでに周溝が埋没していたことがうかがえる。主な遺物として、第1号住居跡から銅製品の鞘尻金具、鉄製品の刀子、第45・60号住居跡から灰釉陶器片、第110号住居跡から鉄製品の鎌、第121号住居跡から石製品の紡錘車が出土している。

第17期 第4・24・28・51・55・67・68・73・83・119・120号住居跡、第9号堅穴造構が該当する。また、後述するが、北壁と東壁に竈が付設されている第8号住居跡も当期に帰属する可能性がある。北部の

緩斜面部から住居跡1軒、中央部の平坦な台地上から住居跡7軒、南部の緩斜面部から台地縁辺部にかけて4軒の住居跡と竪穴遺構1基が確認されている。住居跡の数はやや減少するもの、依然として確認されている住居跡の数が多い。重複する住居跡も少なからず存在し（第24・51号住居跡、第55・68号住居跡、第67・73号住居跡）、前段階と同様に、同一期内においても多少の時期差が生じているものと思われる。住居跡の規模は、第8・28号住居跡のように1辺が3mほどの小形のものが増える一方で、第51号住居跡のように一辺が5.6mほどのやや大形の住居跡も存在している。竈は、東壁に付設される住居跡が主体となり、凝灰岩の切石が使用されている住居跡は4軒（第4・28・83・120号住居跡）である。第8号住居跡は、北壁と東壁から竈が2か所確認されており、竈の作り替えの可能性がある。竈が北壁から東壁に移行する段階の住居と考えられ、当期に帰属する可能性がある。主な遺物として、第119号住居跡から灰釉陶器片と鉄製品の刀子、第51号住居跡から縁釉陶器片（皿）、鉄製品の紡錘車、内面に漆が付着した土師器の壺、須恵器の円面鏡、第67・68号住居跡から灰釉陶器片が出土している。

第18期 第2・3・12・20・42・52・48・84・89・93・140号住居跡、第82・252号土坑が該当する。北部の緩斜面部から住居跡1軒、中央部の平坦な台地上から住居跡8軒、南部の緩斜面部に2軒の住居跡と土坑1基、台地縁辺部に土坑1基が確認されている。第2・3・89号住居跡は、古墳の周溝の覆土上面に構築されており、古墳の存在は意識されていたものの、周溝は完全に埋没し、すでに集落の一部に取り込まれていたのであろう。住居跡の規模は、前段階の傾向とあまり変わりはないが、第2号住居跡は1辺が6m以上あり、突出している。周溝の覆土を掘り込み構築されており、掘り込みが浅いため、形状は明確でないが、その規模や竈が確認できなかったことから、次期以降に出現する6~9mほどの大形の竪穴遺構（第1~3号竪穴遺構）との関連が想定される。竈は一部の例外を除き、東壁に付設されており、凝灰岩の切石が使用されている住居跡は4軒（第20・52・84・93号住居跡）である。主な遺物として、第2号住居跡から墨書き土器2点（水ヶ）、第3号住居跡から灰釉陶器片、鉄製品の刀子、第20号住居跡から縁釉陶器片、煤が付着した小皿、第93号住居跡から灰釉陶器片が出土している。

第19期 第5・13・91・99・108・114・138・141号住居跡、第1・5号竪穴遺構、第5・7・11・15・25・218号土坑が該当する。北部の緩斜面部から住居跡2軒、中央部の平坦な台地上から住居跡6軒と土坑6期、南部の緩斜面部に住居跡2軒が確認されている。住居跡の規模は、一辺が4mを超えるものは少なくなり、やや縮小する。また、住居跡の軸方向に統一性が無くなり、方位軸に対して対して、振り幅が大きい住居跡（第91・138・141号住居跡）が増加している。竈も東壁に付設されているものが主体であるが、北壁や東壁に付設されている住居跡も少なくない。竈の構築材として凝灰岩の切石が使用されている住居跡は、竈が確認された住居跡7軒のうち、第13号住居跡を除く6軒で、凝灰岩が竈を構築する上で欠かせない部材になっている。また、第13号住居跡の竈も、焚口部の補強材として板状の雲母片岩が袖部の先端に使用されており、竈の構築方法については集落内で共通認識が図られていた様相がうかがえる。なお、第13号住居跡は竈に炉が併設されており、砥石や台石などの出土遺物から、住居兼工房跡の可能性がある。また、当期から出現する大形の竪穴遺構（第1号竪穴遺構）も、規模や形状から工房跡の可能性があるが、いずれの遺構も生産の対象物を特定するには至らなかった。調査区中央部から確認されている土坑群は、第5・7・15・25号土坑の出土土器が遺構間で接合しており、同時期に機能していた可能性がある。それぞれの土坑からは残存率の高い土器が出土していることから、廃棄土坑の可能性がある。第15号土坑からは、底部が意図的に削られたと想定できる須恵器の大甕が、据えられた状態で出土している。何らかの儀礼に使用された可能性があるが、詳細は不明である。主な遺物として、第91号

住居跡から鉄鎌（雁又式）、第13号住居跡から鉄製品の短刀が出土している。

第20期 第97・115号住居跡、第2～4号堅穴造構、第43・47号土坑が該当する。また、重複関係から第59・62・92号住居跡も当期に帰属する可能性がある。中央部の平坦な台地上から住居跡3軒と堅穴造構1基、土坑1基、南部の緩斜面部に住居跡2軒と堅穴造構3基、土坑1基が確認されている。住居跡の数は激減し、当期をもって集落は終焉を迎える。住居跡の規模は前段階と同様にやや小形で、竈は東壁に付設されている。また、第97号住居跡は、竈の構築材として凝灰岩が使用されている。長軸が9mを超える大形の造構である第2・3号堅穴造構は、規模や形態から工房跡の可能性があり、第3号堅穴造構からは炉が確認されていることや金床石とみられる石も出土していることから、鍛冶関連の工房跡が想定できる。主な遺物として、第97号住居跡から土製紡錘車、鉄鎌、第115号住居跡、第2号堅穴造構から灰釉陶器片、第3号堅穴造構から鉄製品の刀子、灰釉陶器片が出土している。

6 中世・近世

中世に至って当地は墓域として、土地地用されている。調査区中央部の平坦な台地状から、2基の墓坑が確認されている。2基の墓坑は隣接しており、時期差はあまりないものと考えられ、第1号墓坑から出土している銭貨（永樂通寶）から、時期は室町時代と考えられる。また、調査区中央部から南部にかけて確認されているL字状に屈曲する溝は、出土遺物から時期は江戸時代まで下るものと考えられる。性格については、何らかの区画溝と考えられるが、同時期の造構が他に確認されていないため、詳細は不明である。

7 遺跡の性格について

当遺跡は、縄文時代以降、断続的ながら近世に至るまで人々の営みが確認できるが、主体となるのは継続的に集落が営まれた古墳時代及び奈良時代から平安時代である。ここでは、当該期の集落から遺跡の性格について考えてみたい。

古墳時代の集落は、4世紀前葉に始まり7世紀前葉に至るまで、住居数の増減はあるものの継続的に営まれている。4世紀前葉の第150号住居跡からは、弥生土器の壺が共伴している。4世紀代の集落は1、2軒と小規模であり、当集落は自然発生的な村落と言えよう。5世紀代には、埴丘径が35mほどと推定される第1号墳が築造される。周溝のみの確認ではあるが、周溝からは計画的な人員の配置のもとで、当墳が築造された様相が確認できる。久慈川流域の同時期の古墳として、市内の梵天山古墳群に属する阿弥陀塚古墳があり、埴丘径は40mほどの円墳とされ、時期は表採遺物の円筒埴輪片から5世紀前半と考えられている¹¹⁾。埴輪の有無などに違いがあり、単純比較はできないが、当遺跡の第1号墳も規模の点では遜色がなく、計画的に人員を配置し築造している点など、相当数の人員を動員できる有力者が当地にも存在したことが想定できる。なお、調査区内で確認できた古墳は1基のみであるが、調査区と近接する北東側の台地上には、横穴式石室の古墳1基が現存している¹²⁾。亀作川をのぞむ舌状台地の縁辺部は周囲からの景観も良く、中期以降も後期に至るまで、複数の古墳が築造されていたと考えられる。

第1号墳が築造された後も同墳に隣接して住居が構築され、集落は継続している。古墳時代において、集落の居住域と古墳の築造される墓域が重複して確認されることは少なくないが、概して古墳の築造後は、集落が確認できなくなるが一般的である。そこには居住域と墓域という概念が存在するものと思われる。当遺跡の確認状況は一見すると、居住域と墓域という概念が希薄な印象を受けるが、古墳と住居は一定の距離を

保って構築されており、第1号墳が位置する中央部の台地は、集落の人々にとって侵かすことができない神聖な場所と思われる。古墳とその後に続く時期の住居跡とが隣接して確認されている状況は、土地利用ができる台地が限られている当地の地形的な制約に起因するものと思われる。

古墳が築造された後、5世紀末には集落内に窓が導入され、住居数も増加傾向に転じる。6世紀代に入つて、農耕具である鎌や鋤などの鉄製品が確認できるようになる。それらの製品を配分できる有力者層の存在がうかがえ、飛躍的に作業の効率化が進み、集落が繁栄したものと考えられる。6世紀後葉は、古墳時代において住居跡が最も多く確認された時期であり、規模は大形化する傾向にある。その後は、一転して住居数は減少し、7世紀前葉をもって、集落は一時期絶する。

以上、各時期の様相から古墳時代の集落は、自然発生的に形成された集落が、やがて有力者層に取り込まれ、ある程度の力を持った有力者のもと、農耕に従事している単位集団のムラとは言えるのではないだろうか。

古墳時代以降、しばらく集落は断続し、8世紀後葉になって再び集落が形成されるようになる。9世紀代になり住居数も著しく増加し、掘立柱建物も構築されている。ところが、住居数は増加傾向にある一方で、掘立柱建物は9世紀前葉の1棟のみである。掘立柱建物は倉庫として使用されたものと考えられ、貯蔵域が調査区外に存在したとも想定できるが、このような事例は、ひたちなか市の武田西塙遺跡¹³⁾の集落の様相と類似している。武田西塙遺跡は、200軒以上の住居跡が確認されている7世紀から11世紀にかけての集落である。確認された掘立柱建物跡は5棟にも満たず、継続して構築されることなく単発的であり、水田経営の不安定な状態を示唆するものと考えられている¹⁴⁾。

9世紀後葉には集落は広域に展開するようになり、住居数もピークを迎える。この頃から灰釉陶器・綠釉陶器が集落内にもたらされるようになり、鉄製品の出土量も増加している。また、第1号ピット群から出土し、底部に「日奈田」と墨書きされた土器も、器形や調整から当期の土器と考えられ、当地が古代から「ひなた」と呼称されていたことを証明する好資料となるであろう。律令期において当地は久慈郡世矢郷に属し、「日奈田」は郷内の村落名と考えられる。なお、墨書き土器は、他に2点（水ヶほか）しか出土しておらず、「日奈田」の墨書き土器を始め、刀子や円面鏡など、集落内で文字が使用されていた痕跡は確認できるものの、出土量が極めて少ない。

10世紀代に入つても、集落は一定の規模を保ちながら継続するが、10世紀後葉以降に長軸が6~9mほどの大形の堅穴造構が出現する。この堅穴造構は、生産の対象物を明確にできなかったが、規模や形状から工房跡の可能性がある。また、当期の第13号住居跡を含め、窓と炉が併設して確認されている住居跡が、9世紀後葉以降5軒確認されている。これらの住居跡も、工房としての機能を兼ね備えていた可能性があり、農耕に従事するかたわらで何らかの生産を行っていたものと考えられる。

10世紀後葉になると、住居の窓の位置や軸方向に統一性は無くなる。こうした状況は、律令体制の崩壊とは無縁ではないものと考えられる。その後、住居数は激減し、11世紀前葉に集落は終焉を迎える。

当該期の集落は、継続的に営まれ、灰釉陶器や綠釉陶器、鉄製品などが一定量流通していることから、有力者の保護のもと発展したと言えよう。しかしながら、掘立柱建物が単発的にしか構築されていないことから、その水田経営は決して安定したものではなく、生活手段として新たな生産体制を構築し、工房跡の可能性がある大形の堅穴造構が出現したのではないだろうか。

8 おわりに

今回の調査にて、当遺跡の集落は、古墳時代から平安時代に至るまで、一時期の断続期をはさみながら継続的に営まれていることが判明した。また、古墳時代中期には、有力者の存在をうかがわせる古墳が築造されており、古墳と集落の関係を考えるうえで、貴重な調査事例になるものと考えられる。当地においては、当該期の集落の調査事例は少なく、今回の調査成果が、当地における集落の様相を解明をうえで、一助となれば幸いである。

註

- 1) 鈴木素行「関山式土器の「伴」－関東地方東部における黒浜式の土器編年を考える・まえに－」『茨城県考古学協会誌』第8号 1996年7月
- 2) 常陸太田市史編さん委員会編『常陸太田市史 通史編 上巻』常陸太田市役所 1984年3月
- 3) 海老澤稔『茨城県における弥生後期の土器編年』『東日本弥生時代後期の土器編年』第9回 東日本埋蔵文化財研究会 2000年1月
- 4) 浅井哲也「古墳時代の土器－常陸の古墳時代後期の土器編年確立にむけて－」『紀要』第34号 茨城県立太田第一高等学校 1998年3月
- 5) a 浅井哲也「茨城県における古墳時代前期の土器」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念事業実行委員会－』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年4月
b 横村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として－」『研究ノート』第5号 茨城県教育財団 1996年6月
c 横村宣行・浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器－久慈川・那珂川流域を中心として－」『月刊考古学ジャーナル』 ニュー・サイエンス社 1992年1月
- 6) 駒澤悦郎「古代の甕をめぐる諸問題－茨城県内における円筒形土製品の出現と消滅について－」『年報28(平成20年度)』財团法人茨城県教育財団 2009年7月
- 7) 横村宣行「『常陸型甕』編年小考－茨城県南部を中心として－」『別島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会 1998年2月
- 8) 佐々木義則他「武田石高遺跡 奈良・平安時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第19集 2000年1月
- 9) 斎藤孝正「日本の美術 409 越后窯青磁と綠釉・灰釉陶器」至文堂 2000年6月
- 10) a 茨城県立歴史館「茨城県史料－考古資料編 奈良・平安時代」茨城県 1995年3月
b 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(1)」『研究ノート 創刊号』財团法人茨城県教育財団 1992年7月
- 11) 稲田健一「茨城県久慈川・那珂川流域の前期～中期初頭の古墳」「シンポジウム」前期古墳の初段階と大型古墳の出現 発表要旨資料 東北・関東前方後円墳研究会 2009年2月
- 12) 調査区と近接する民家の敷地内に、古墳が1基存在している。石室が開口しており、横穴式石室であることがわかる。住民によれば、石室は古くから開口していたようで、防空壕や倉庫として利用されていたこともあったようである。
- 13) 佐々木義則「武田西塙遺跡 奈良・平安時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第24集 2002年3月
- 14) 佐々木義則「武田道路群からみた奈良・平安時代の集落」「武田道路群 総括・補遺編」ひたちなか市教育委員会・ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 2010年3月

参考文献

- 横村宣行「那珂川以北を中心とする「切石組み甕」の一考察」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念事業実行委員会－』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年4月

写 真 図 版



墨書き土器「日奈田」(赤外線写真)



調査区全景



調査区全景（北西上空から）

PL2



調査前現況



第1号地点貝塚
土層断面



第127号住居跡
遺物出土状況

第 1 号 墓
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 墓
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 墓
遺 物 出 土 状 況



PL.4



第1号墳周溝
中央部完掘状況



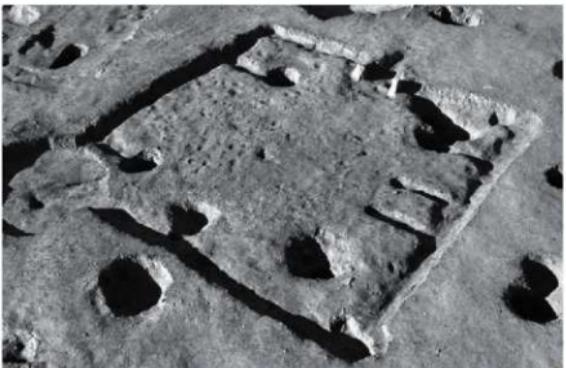
第1号墳周溝
南部完掘状況



第6号住居跡
遺物出土状況



第 6 号 住 居 蹤
遺構築材出土状況



第 6 号 住 居 蹤
完 据 状 況



第 17 号 住 居 蹤
貯藏穴遺物出土状況

PL6



第18・70号住居跡
完 挖 状 況



第19号住居跡
鉢先出土状況



第19号住居跡
完 挖 状 況

第26・48号住居跡
完 堀 状 況



第27・53・82・94号住居跡
完 堀 状 況



第 44 号 住 居 跡
貯藏穴遺物出土状況



PL8



第44号住居跡
完掘状況



第44号住居跡
竪完掘状況



第70号住居跡
遺物出土状況

第 70 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 86 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



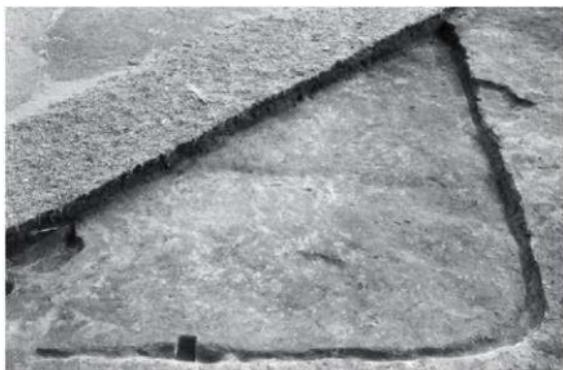
第 86 号 住 居 跡
完 挖 状 況



PL10



第113号住居跡
遺物出土状況



第113号住居跡
完掘状況



第118・147号住居跡
完掘状況

第132号住居跡
遺物出土状況



第132号住居跡
完掘状況



第146号住居跡
遺物出土状況



PL12



第 23 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 30 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 26 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 116 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 1 号 住 居 跡
鞘 戟 金 具 出 土 状 况



第 1 号 住 居 距
矽凝灰岩 出 土 状 况



第 1 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 2 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 4 号 住 居 跡
完 挖 状 況

第 10 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 10 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 11 号 住 居 跡
完 挖 状 況





第20号住居跡
完掘状況



第28号住居跡
竪遺物出土状況



第33号住居跡
遺物出土状況



第33号住居跡
遺物出土状況



第33号住居跡
完掘状況



第34号住居跡
完掘状況

PL18



第37号住居跡
完掘状況



第43号住居跡
甕遺物出土状況



第43号住居跡
甕完掘状況

第43号住居跡
完掘状況



第46・47号住居跡
完掘状況



第52号住居跡
完掘状況



PL20



第 79 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 91 号 住 居 距
鐵 鏃 出 土 狀 況



第 92 号 住 居 距
完 挖 状 況



第100号住居跡
完掘状況



第105号住居跡
遺物出土状況



第106号住居跡
完掘状況

PL22



第110号住居跡
完掘状況



第119号住居跡
刀子出土状況



第126号住居跡
遺物出土状況



第 126 号 住 居 跡
電 熬 灰 岩 出 土 状 況



第 126 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 129 号 住 居 跡
完 挖 状 況

PL24



第134号住居跡
遺物出土状況



第134号住居跡
完掘状況



第138・139号住居跡
完掘状況



第140号住居跡
完掘状況



第140号住居跡
竪完掘状況



第144号住居跡
完掘状況



第1号掘立柱建物跡
完 据 状 況



第1号竪穴遺構
完 据 状 況



第2号竪穴遺構
遺 物 出 土 状 況

第3号竪穴遺構
遺物出土状況



第3号竪穴遺構
完掘状況



第4号竪穴遺構
完掘状況



PL28



第6号竪穴遺構
粘土出土状況



第7号竪穴遺構
完掘状況



第8号竪穴遺構
完掘状況



第 5 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

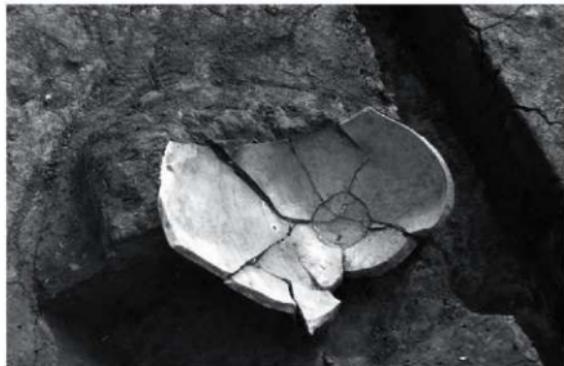


第 7 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 11 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

PL30



第 15 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 43 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 62 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 252 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 1 号 墓 坑
骨 片 出 土 状 况



第 5 号 满 跡
完 挖 状 况

PL32



第127号住居跡、第1号墳出土土器



TM 1-15



TM 1-12



SI 6-21



SI 6-22



SI 6-23



SI 6-25



SI 6-30



SI 6-26

第6号住居跡、第1号墳出土土器



SI 6-19



SI 6-27



SI 6-20



SI 14-33



SI 6-29



SI 14-34



SI 14-35



SI 6-28



SI 17-38



SI 39-70



SI 23-53



SI 23-51



SI 23-55



SI 23-52



SI 18-47



SI 23-56

第17·18·23·39号住居跡出土土器



SI 26-58



SI 44-75



SI 26-59



SI 27-63



SI 26-60



SI 27-65



SI 23-57



SI 31-69



SI 44-78



SI 44-76



SI 44-74



SI 44-81



SI 44-80



第44号住居跡出土土器



SI 54-90



SI 70-94



SI 53-89



SI 70-95



SI 49-87



SI 49-84



SI 44-77



SI 70-97



SI 70-98



SI 70-103



SI 70-99



SI 70-101



SI 70-100

第70号住居跡出土土器



SI 86-115



SI 86-117



SI 86-113



SI 86-118



SI 86-114



SI 86-116



SI 78-111



SI 70-102



SI 77-109



SI 87-122



SI 118-132



SI 118-131



SI 118-130



SI 113-124



SI 113-125



SI 113-128



SI 96-123

第87·96·113·118号住居跡出土土器



SI 146-147



SI 135-144



SI 146-151



SK26-163



SI 132-141



SI 118-135

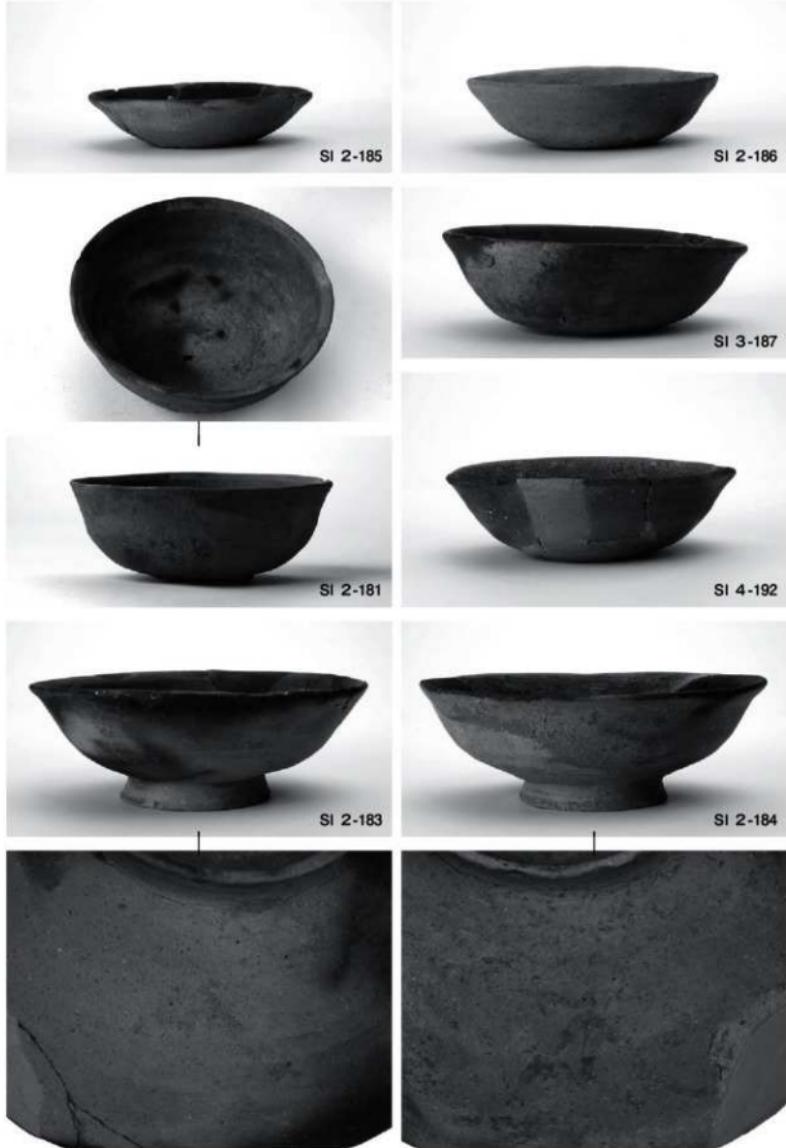


SI 146-149

第118·132·135·146号住居跡，第26号土坑出土土器



第39·76·116·214·220号土坑出土土器



第2・3・4号住居跡出土土器



第5·9·10·13·24·29号住居跡出土土器



SI 37-248



SI 52-277



SI 33-237



SI 48-264



SI 48-263



SI 35-245



SI 33-238



SI 33-240



第43·48·51号住居跡出土土器



第51·57·59·67·79·82·83·89号住居跡出土土器



SI 97-324



SI 97-328



SI 95-323



SI 91-316



SI 93-322



SI 97-326



SI 91-318



SI 99-330



SI 84-310

第84·91·93·95·97·99号住居跡出土土器

PL50



SI 104-336



SI 114-355



SI 100-331



SI 105-337



SI 106-343



SI 110-352



SI 106-342



SI 108-351



SI 106-344



SI 106-345

第100·104·105·106·108·110·114号住居跡出土土器



第119・120・121・126・134号住居跡出土土器



SI 138-392



SI 141-404



SI 140-395



SI 141-398



SI 140-394



SI 141-397



SI 136-387



SI 141-399



SI 141-400



SI 141-401



SI 141-402



SH 3-425



SI 141-403



SH 3-423



SI 141-406



SH 3-424



SH 2-414



SH 3-419



SH 3-420



SH 3-427

第141号住居跡、第2・3号竪穴遺構出土土器

PL54



SH 4-429



SH 6-434



SK 5-445



SK15-459



SK 5-446



SK 5-447



SK15-462

第4·6号竖穴遗构，第5·15号土坑出土土器



SK 7-452



SK 43-466



SK 7-451



SK 47-467



SK 7-450



SK 11-457



SK 25-465



SK 25-464



SK 25-463



SK 78-471



SK62-470



SK252-481



SK62-469



SK252-482



SK218-480



SK252-483



PG 1-485



造構外 - 489



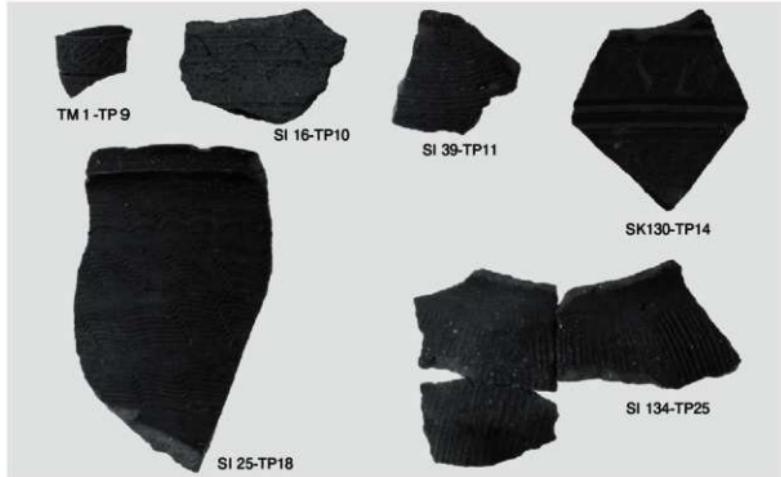
造構外 - 490



造構外 - 491



第1号地点貝塚, 第127号住居跡, 第1・67号土坑, 造構外出土土器



第1号墳、第16・25・39・78・97・108・132・134号住居跡、第130号土坑、遺構出土土器・土製品

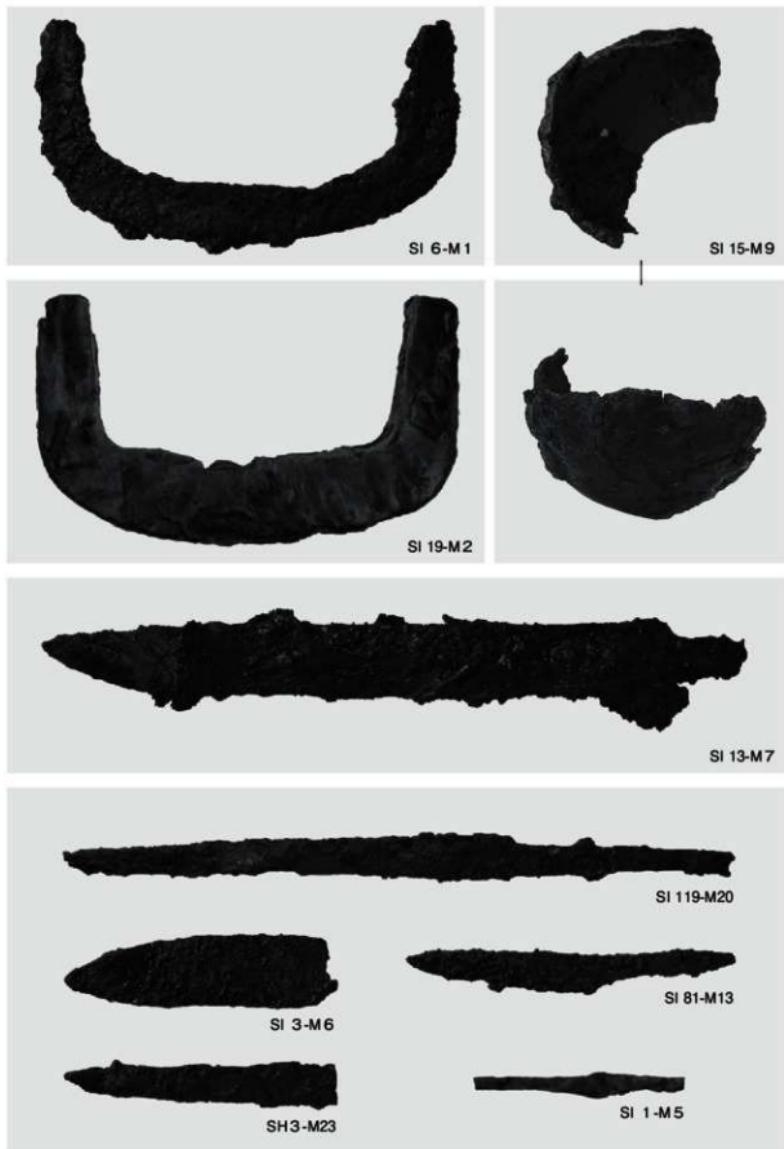


第1号墳、第15・25・44・48・87・121・129号住居跡、遺構外出土土製品・石器・石製品

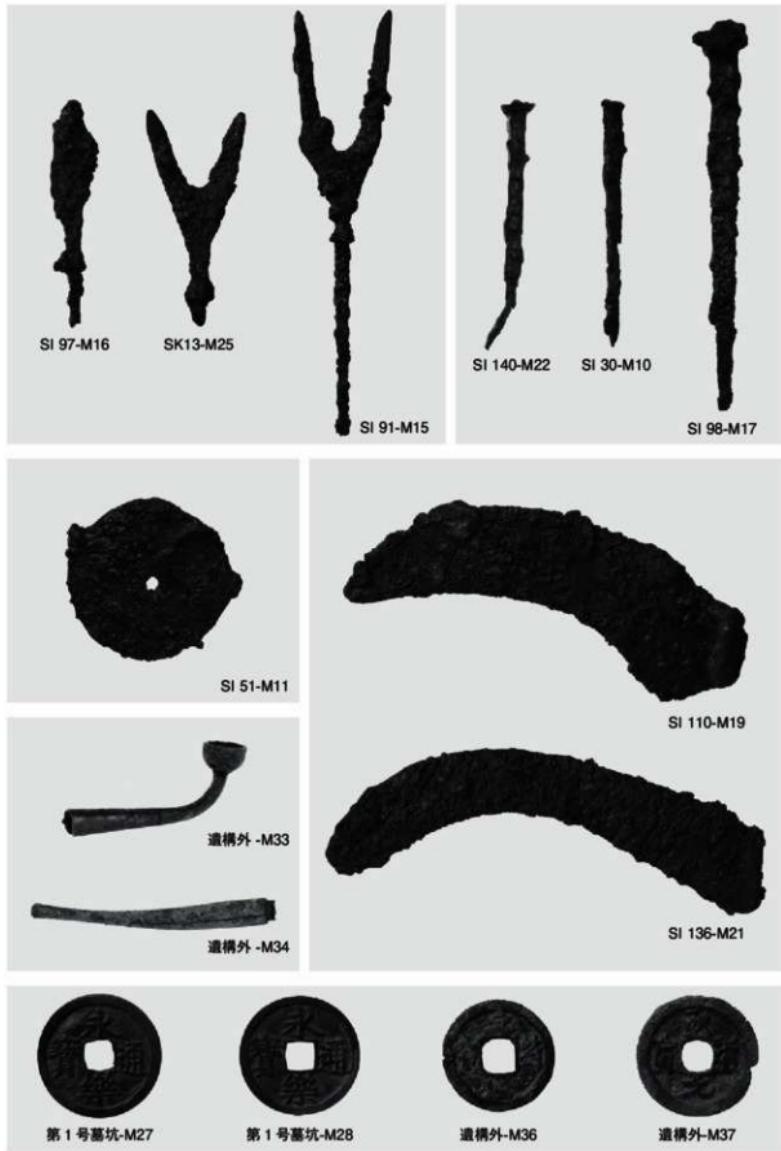
PL60



第1号填, 第13·18·28·53·86·87·140号住居跡, 第18号土坑, 第5号溝跡, 造構外出土石器・石製品



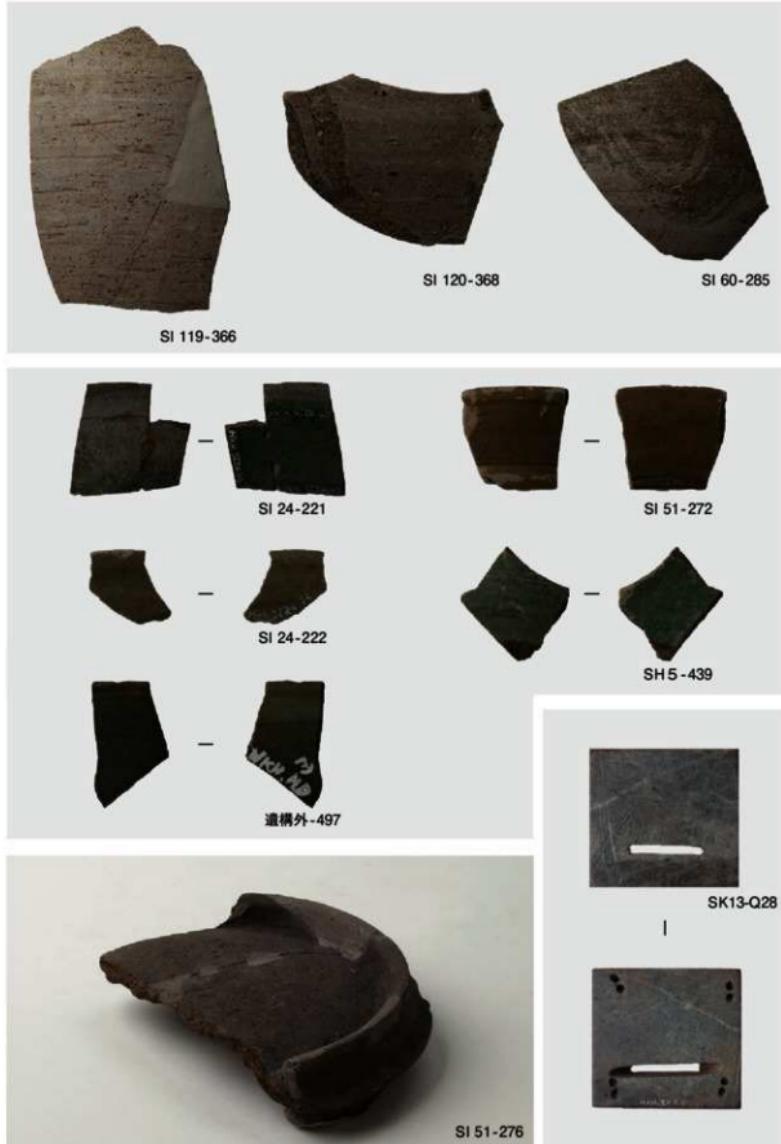
第1·3·6·13·15·19·81·119号住居跡、第3号竪穴遺構出土金属製品



第30·51·91·97·98·110·136·140号住居跡、第1号墓坑、第13号土坑、遺構外出土金属製品、
錢貨



第1・3・24・108号住居跡、第2号竪穴遺構、第1号ピット群、遺構外出土墨書き器・灰釉陶器・緑釉陶器・鞘尻金具



第24·51·60·119·120号住居跡，第5号竪穴造構，第13号土坑，遺構外出土須恵器·灰釉陶器·綠釉陶器·腰帶具

抄 錄

仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium.ServicePack1
レイアウト Adobe InDesign CS5
図版作成 Adobe Illustrator CS5
写真調整 Adobe Photoshop CS5
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組 版 OpenType13級リュウミンPro・L 基本
Adobe InDesign CS5
印 刷 オフセット印刷
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線 カラー-210線
・印刷所へは、Adobe Indesign CS5でレイアウトしたものに入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第365集

日 向 遺 蹤

一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道
日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

下巻

平成25（2013）年 3月12日 印刷

平成25（2013）年 3月15日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財团

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505